

IV. 調査結果の分析

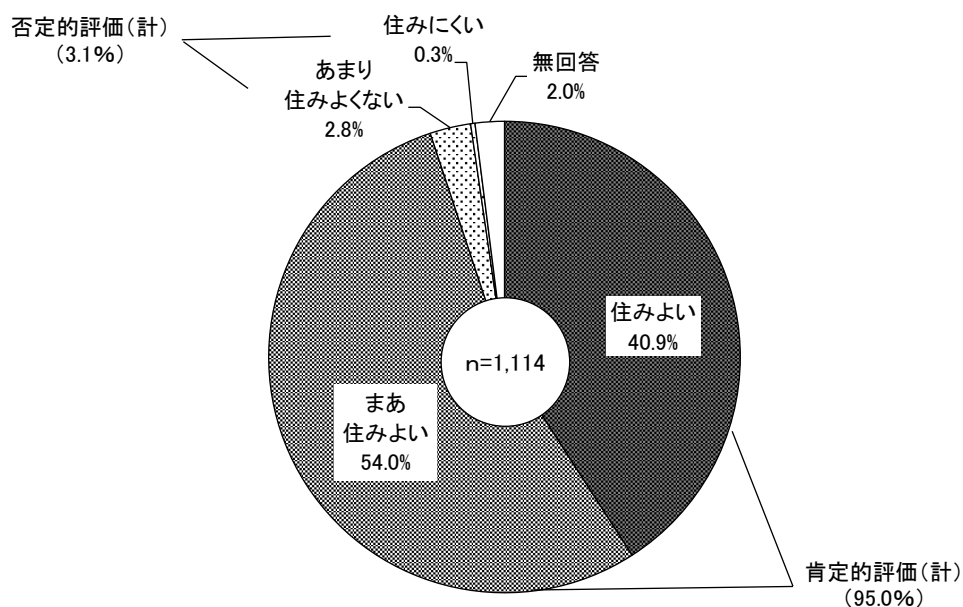
1 区の施策および評価について

(1) 住みごち

◇『肯定的評価』が9割半ば

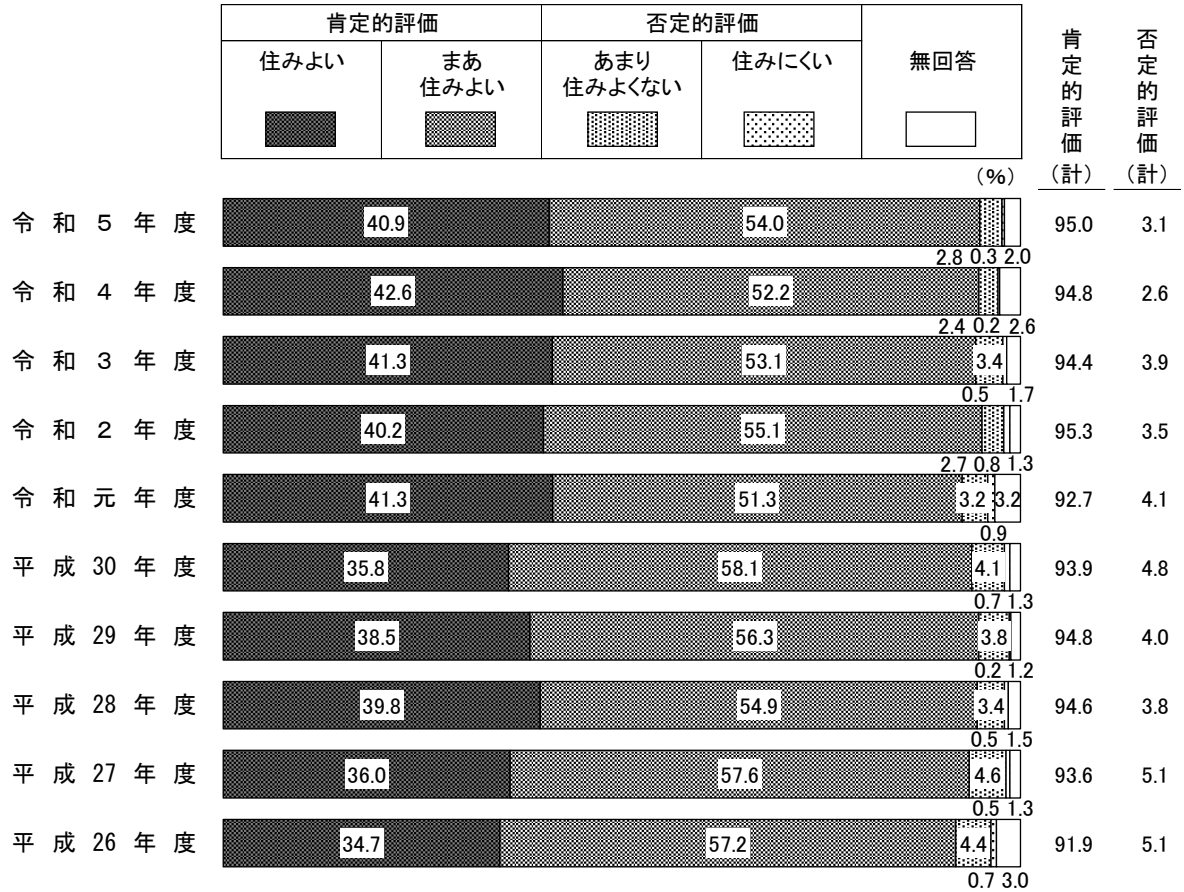
問1 あなたは、練馬区の住みごちをどう思いますか。(○は1つ)

図1-1-1 住みごち



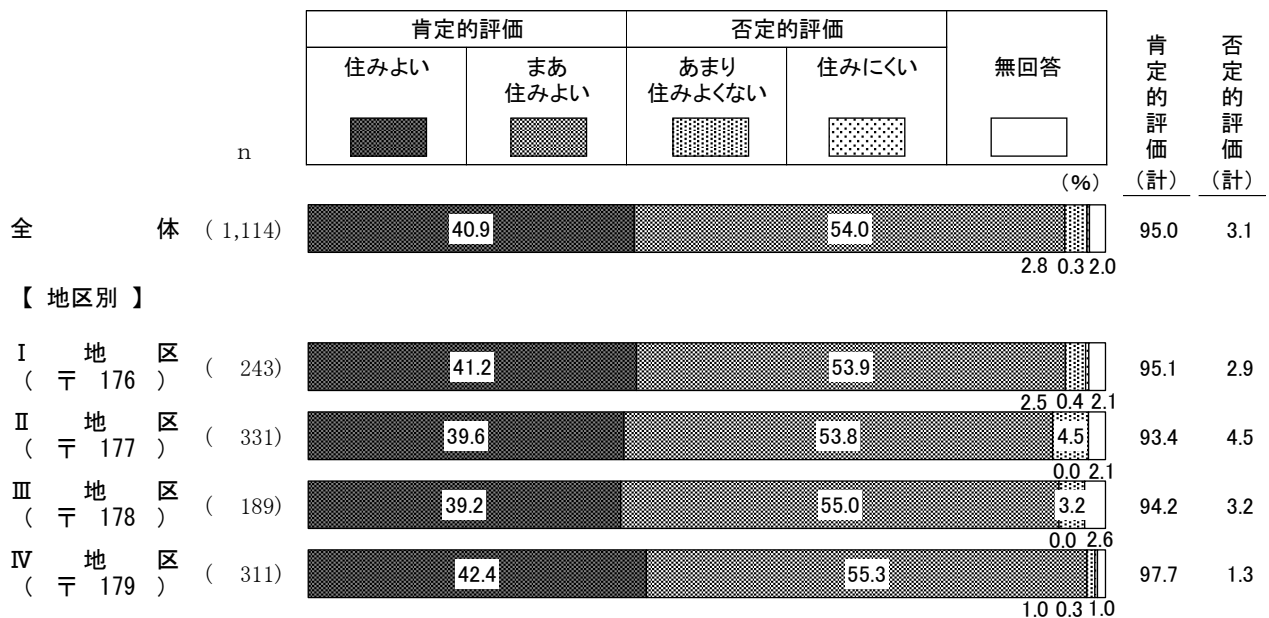
練馬区の住みごちを聞いたところ、「住みよい」(40.9%)が約4割、「まあ住みよい」(54.0%)が5割半ばとなっており、この2つを合わせた『肯定的評価』(95.0%)が9割半ばとなっている。一方、「あまり住みよくない」(2.8%)、「住みにくい」(0.3%)を合わせた『否定的評価』(3.1%)はわずかとなっている。(図1-1-1)

図 1-1-2 住みごこち—過年度比較



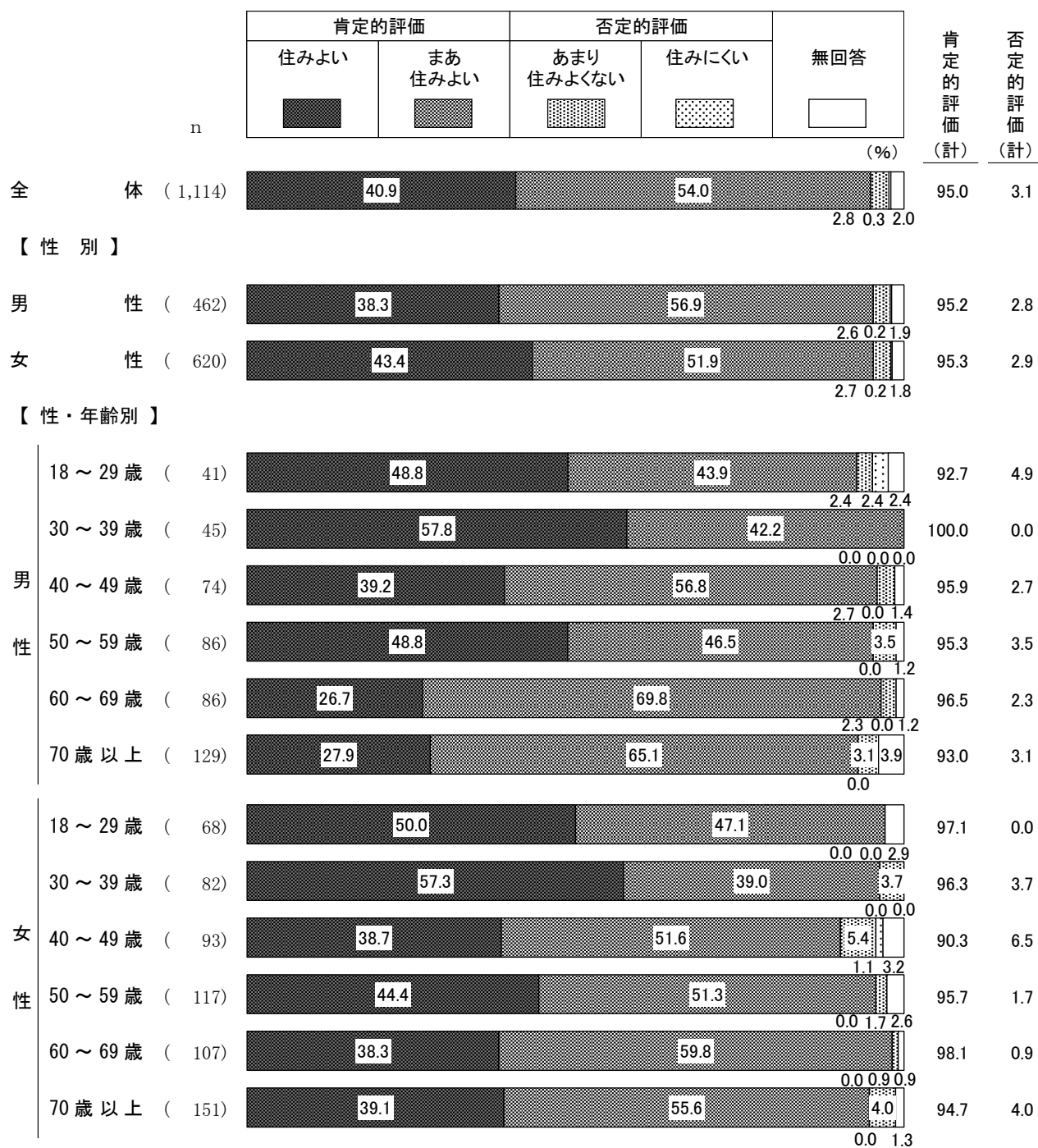
過去の調査と比較すると、『肯定的評価』は平成26年度以降いずれも9割台となっている。
(図 1-1-2)

図 1-1-3 住みごこち—地区別



地区別にみると、『肯定的評価』はすべての地区で9割台となっている。(図 1-1-3)

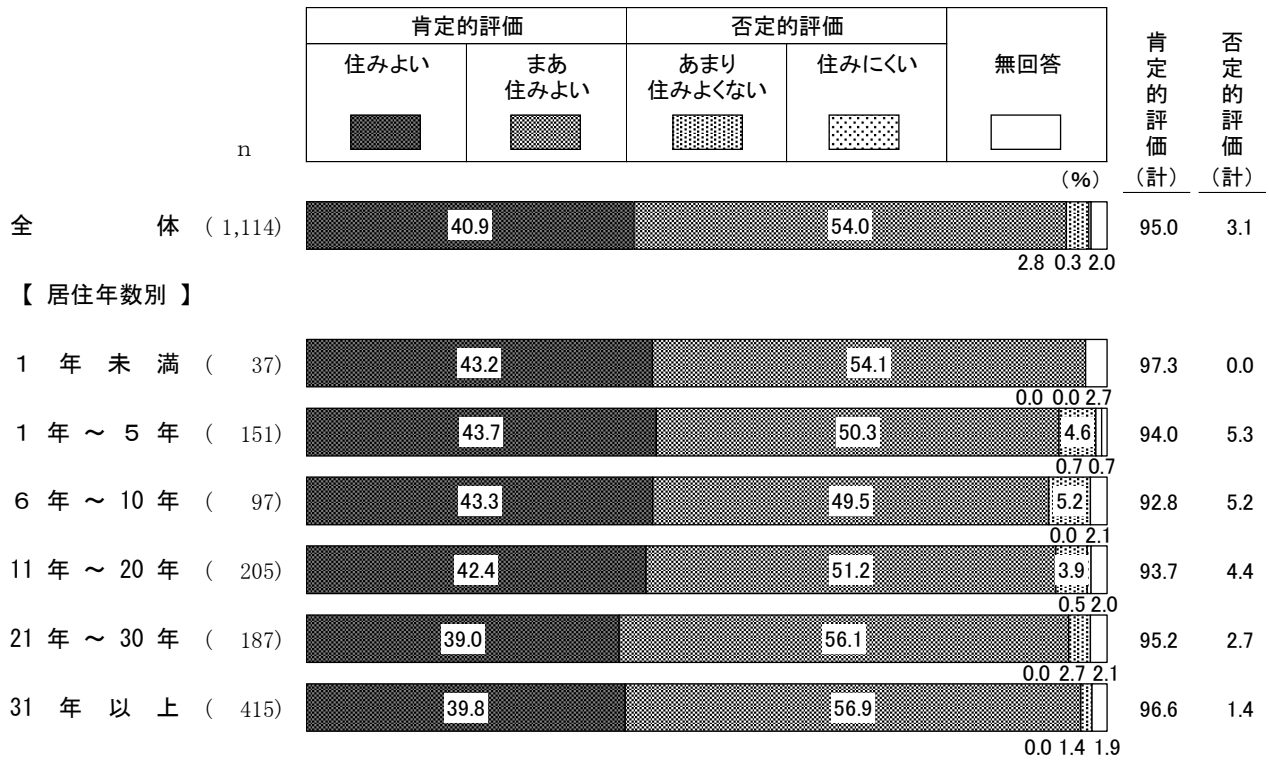
図 1-1-4 住みごち—性別／性・年齢別



性別にみると、『肯定的評価』は男女ともに9割半ばとなっている。

性・年齢別にみると、「住みよい」は男女ともに30～39歳で6割近くと多くなっている。『肯定的評価』は男性30～39歳で10割となっているほかは、9割台となっている。(図1-1-4)

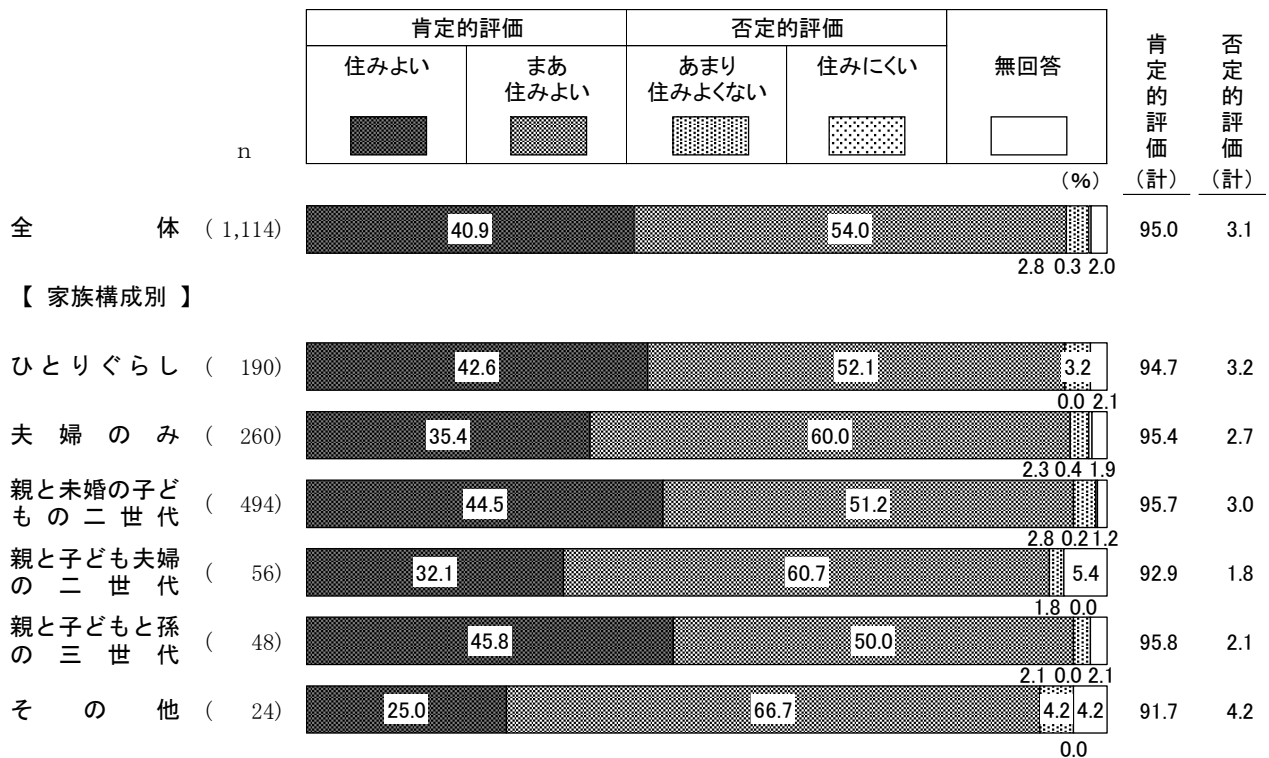
図 1-1-5 住みごこち—居住年数別



居住年数別にみると、『肯定的評価』はすべての居住年数で9割台となっている。

(図 1-1-5)

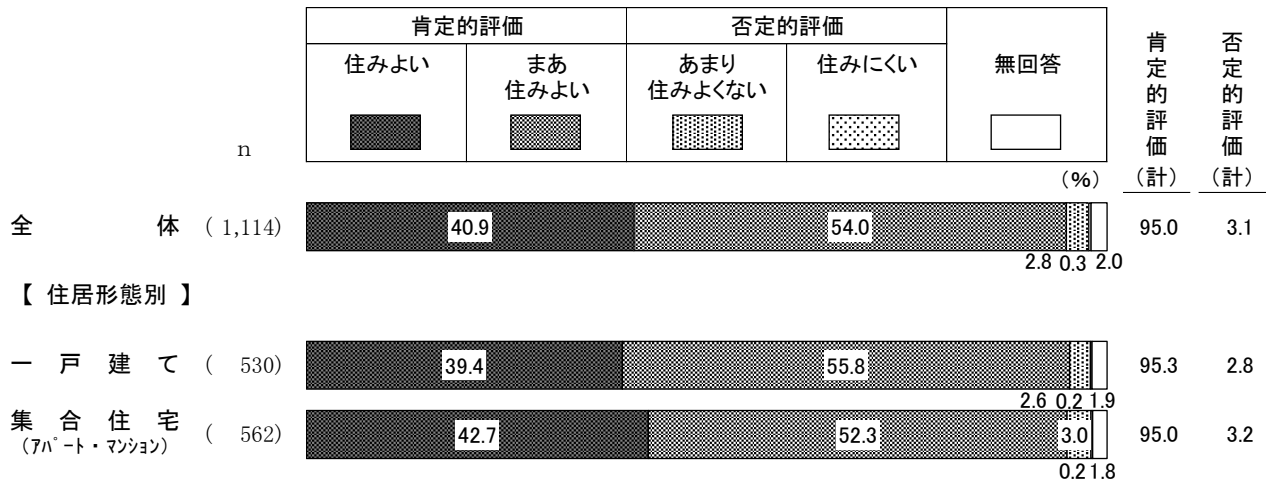
図 1-1-6 住みごこち—家族構成別



家族構成別にみると、『肯定的評価』はすべての家族構成で9割台となっている。

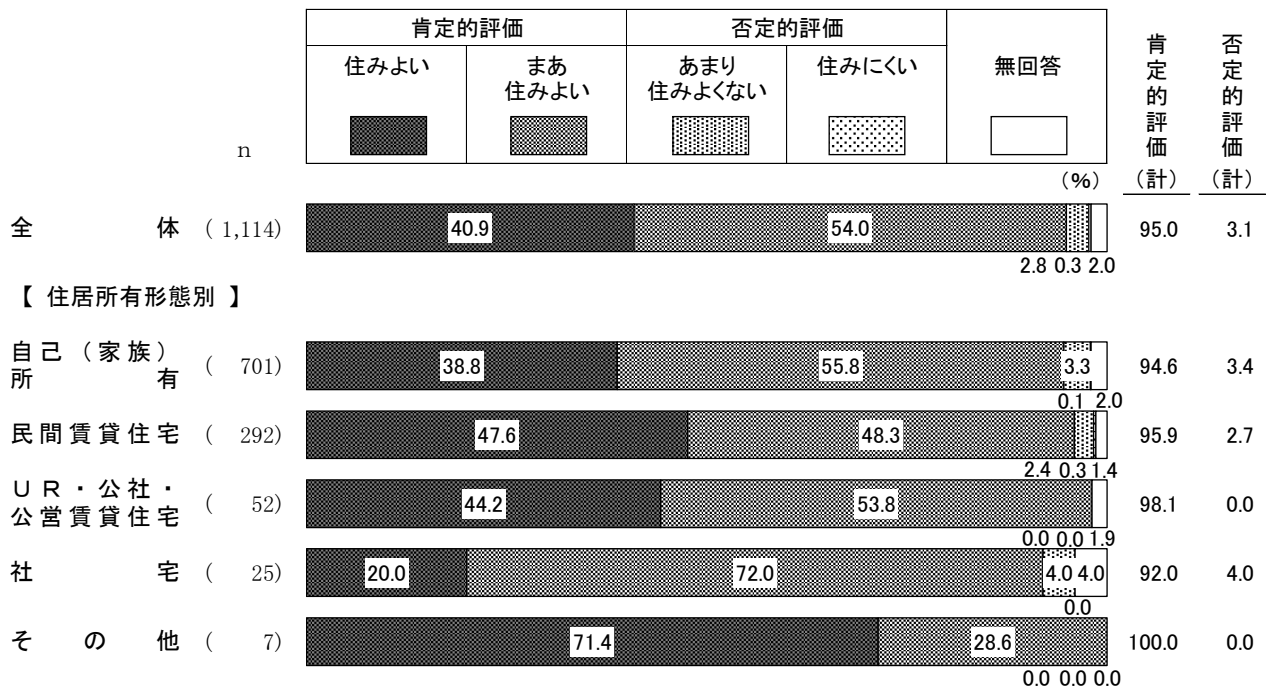
(図 1-1-6)

図 1-1-7 住みごころ—住居形態別



住居形態別にみると、『肯定的評価』は一戸建て、集合住宅（アパート、マンション）ともに9割半ばとなっている。（図1-1-7）

図 1-1-8 住みごころ—住居所有形態別



住居所有形態別にみると、『肯定的評価』はすべての住居所有形態で9割台となっている。

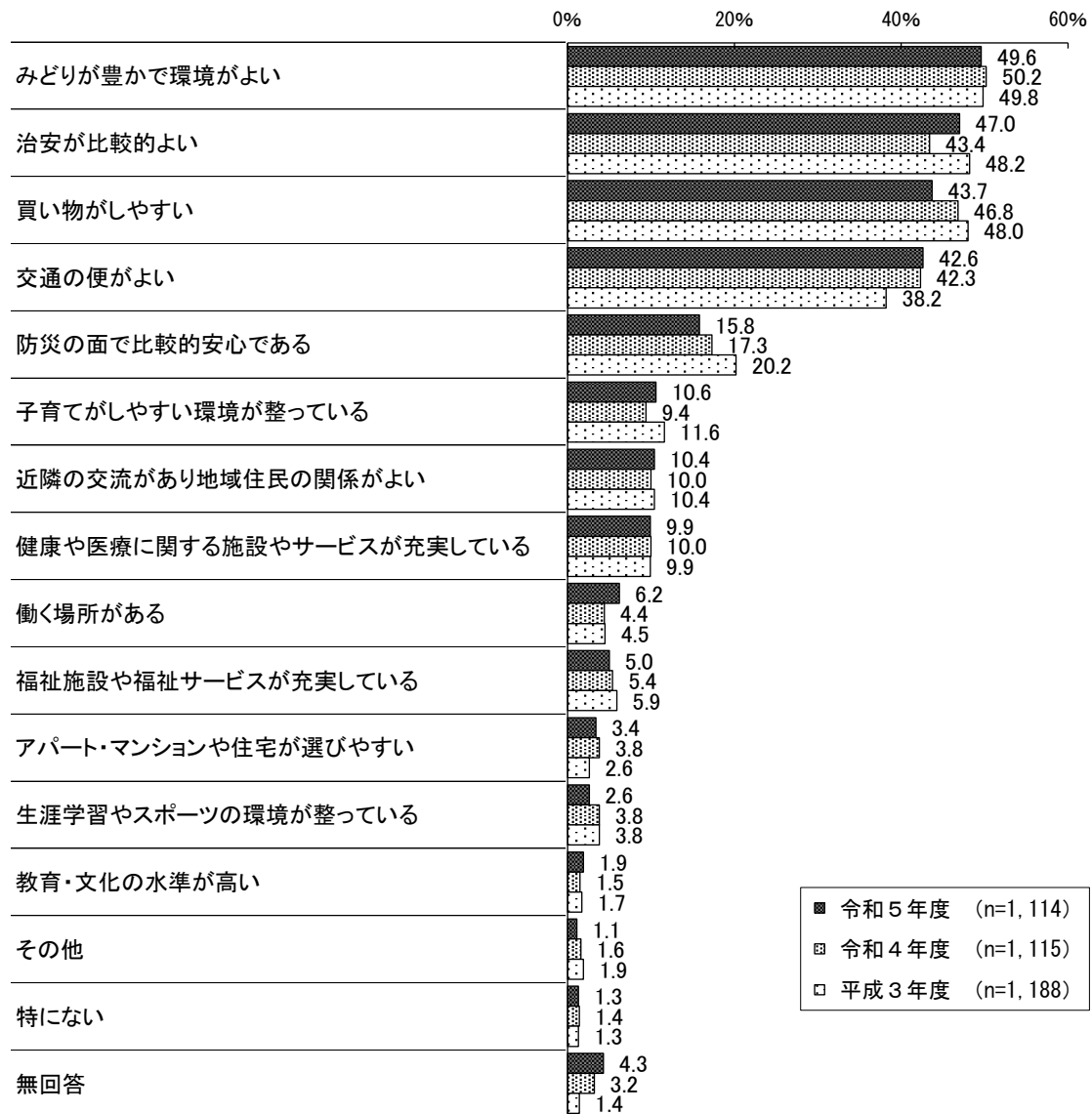
（図1-1-8）

(2) 練馬区が住みよいと感じるところ

◇「みどりが豊かで環境がよい」が5割

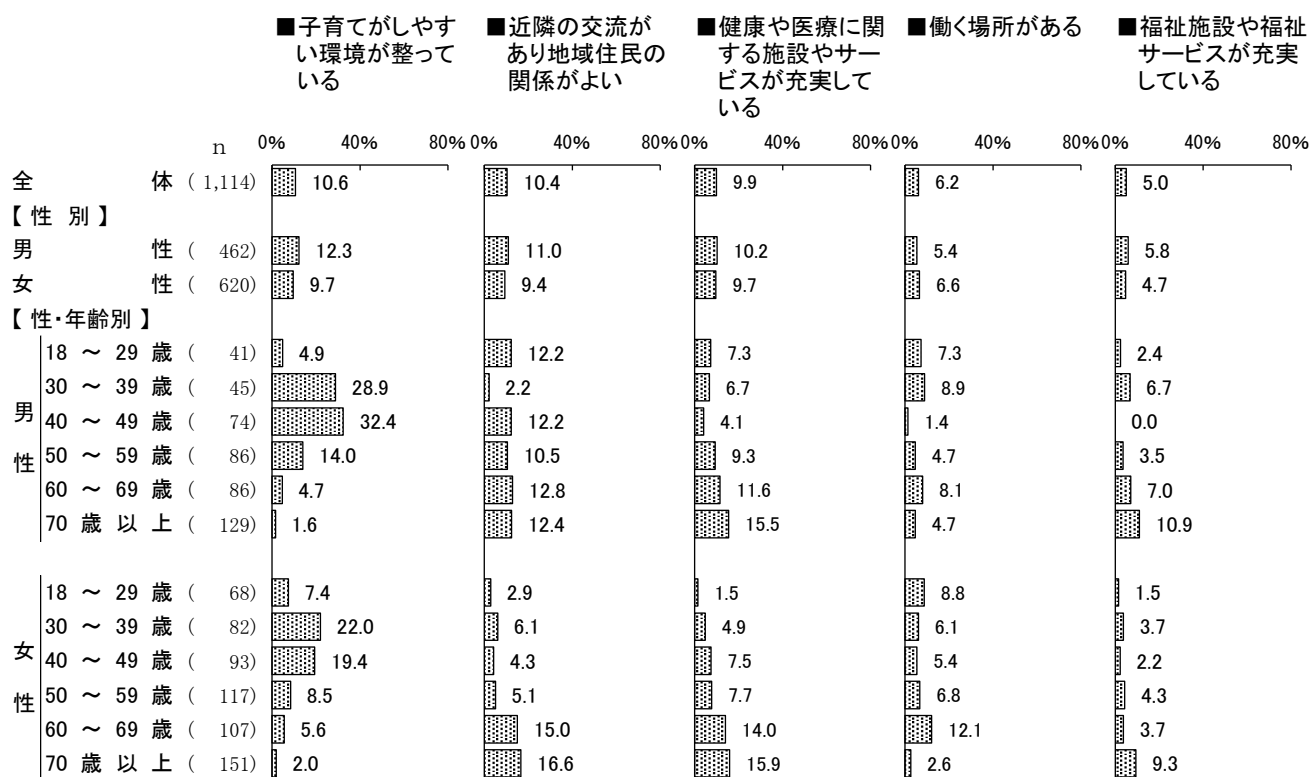
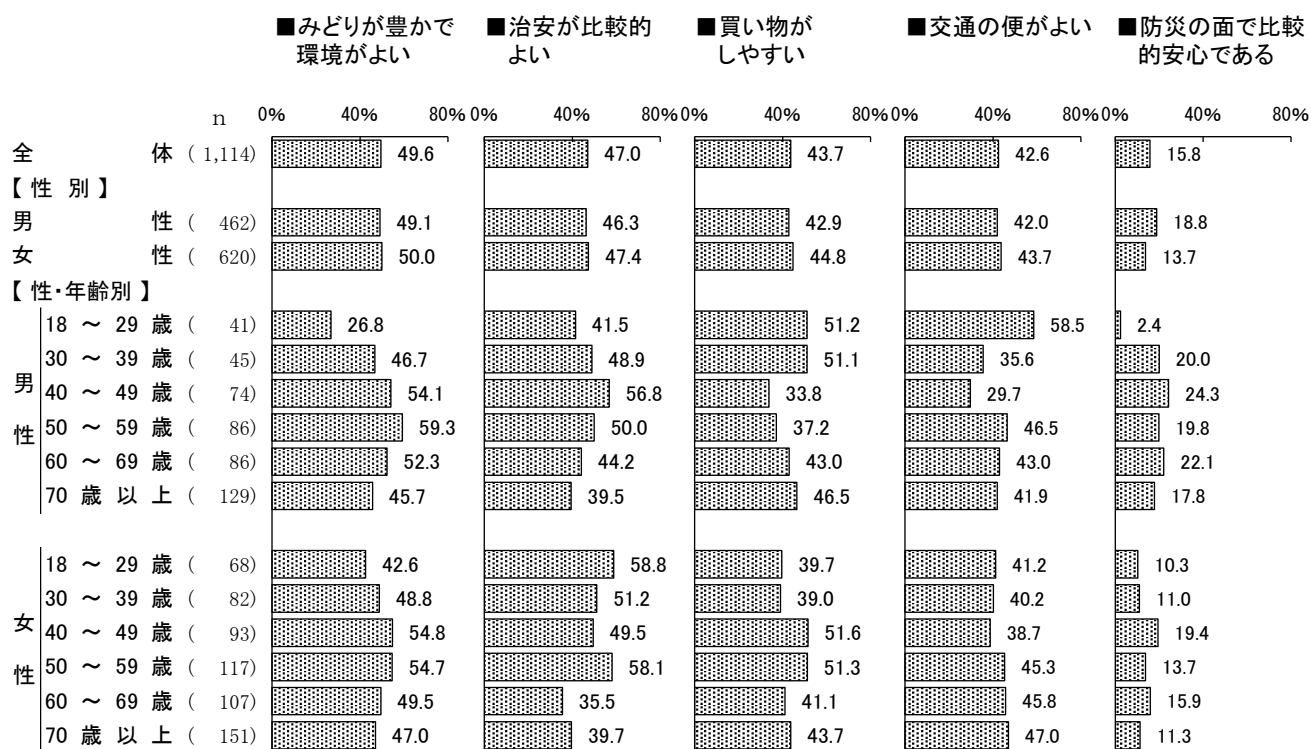
問2 あなたが、練馬区が住みよいと感じるところは、どんなところですか。
(〇は3つまで)

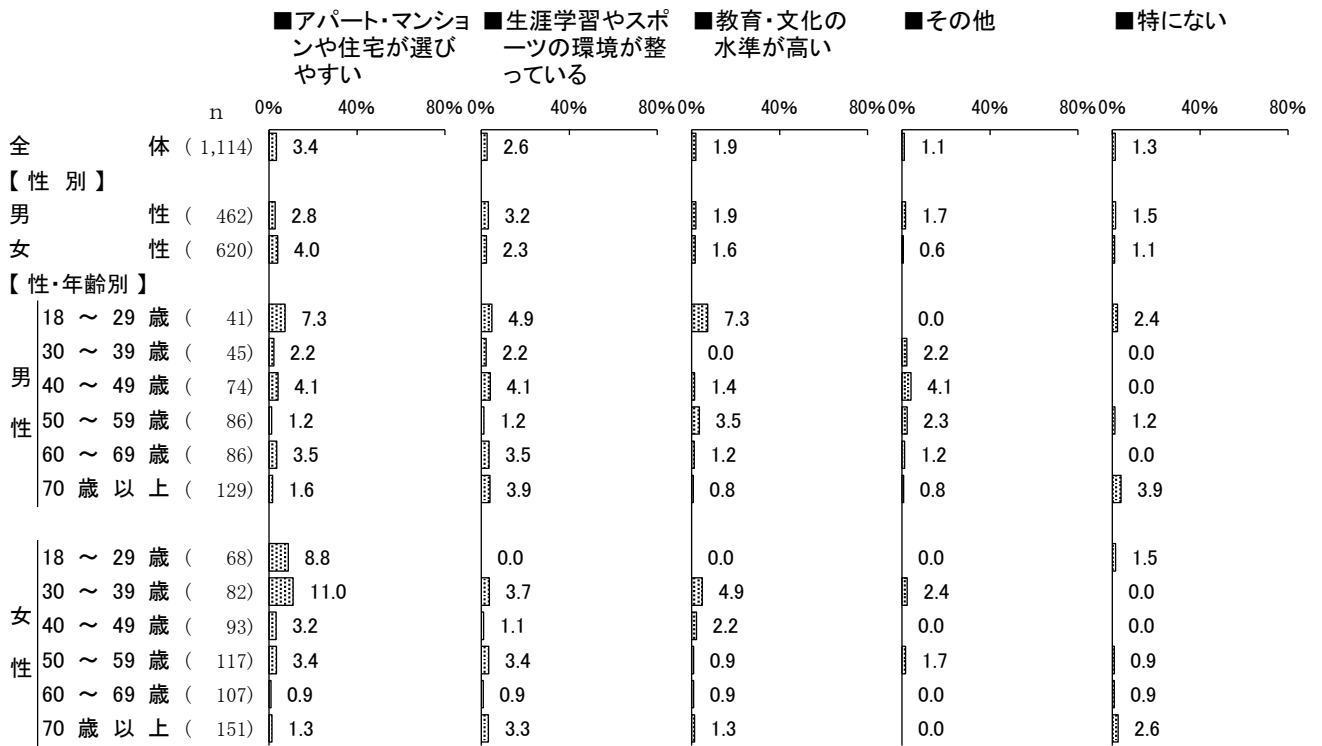
図1-2-1 練馬区が住みよいと感じるところ



練馬区が住みよいと感じるところを聞いたところ、「みどりが豊かで環境がよい」(49.6%)が5割と最も多く、次いで「治安が比較的よい」(47.0%)、「買い物がしやすい」(43.7%)、「交通の便がよい」(42.6%)、「防災の面で比較的安心である」(15.8%)などの順となっている。(図1-2-1)

図 1-2-2 練馬区が住みよいと感じるところ—性別／性・年齢別

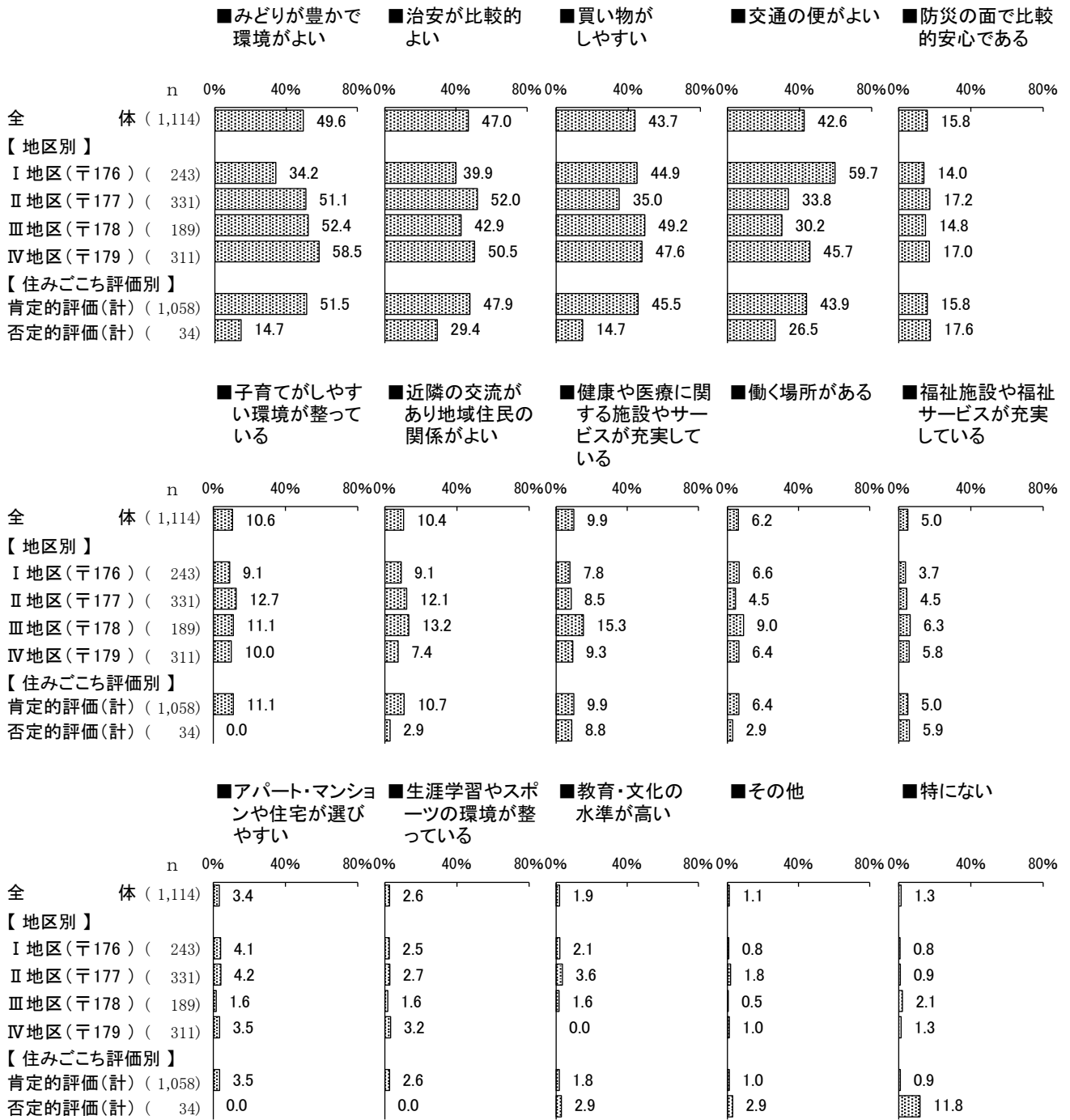




性別にみると、「防災の面で比較的安心である」は男性の方が女性より5.1ポイント、「子育てがしやすい環境が整っている」は2.6ポイント、それぞれ高くなっている。

性別・年齢別にみると、「みどりが豊かで環境がよい」は男性50～59歳で約6割と多くなっている。「治安が比較的よい」は女性18～29歳、女性50～59歳で6割近くと多くなっている。「買い物しやすい」は男性18～29歳、男性30～39歳、女性40～49歳、女性50～59歳で5割を超えて多くなっている。（図1-2-2）

図1-2-3 練馬区が住みよいと感じるところ—地区別／住みごち評価別



地区別にみると、「みどりが豊かで環境がよい」はIV地区（〒179）で6割近くと多くなっている。「治安が比較的よい」はII地区（〒177）で5割を超えて多くなっている。「交通の便がよい」はI地区（〒176）で6割と多くなっている。

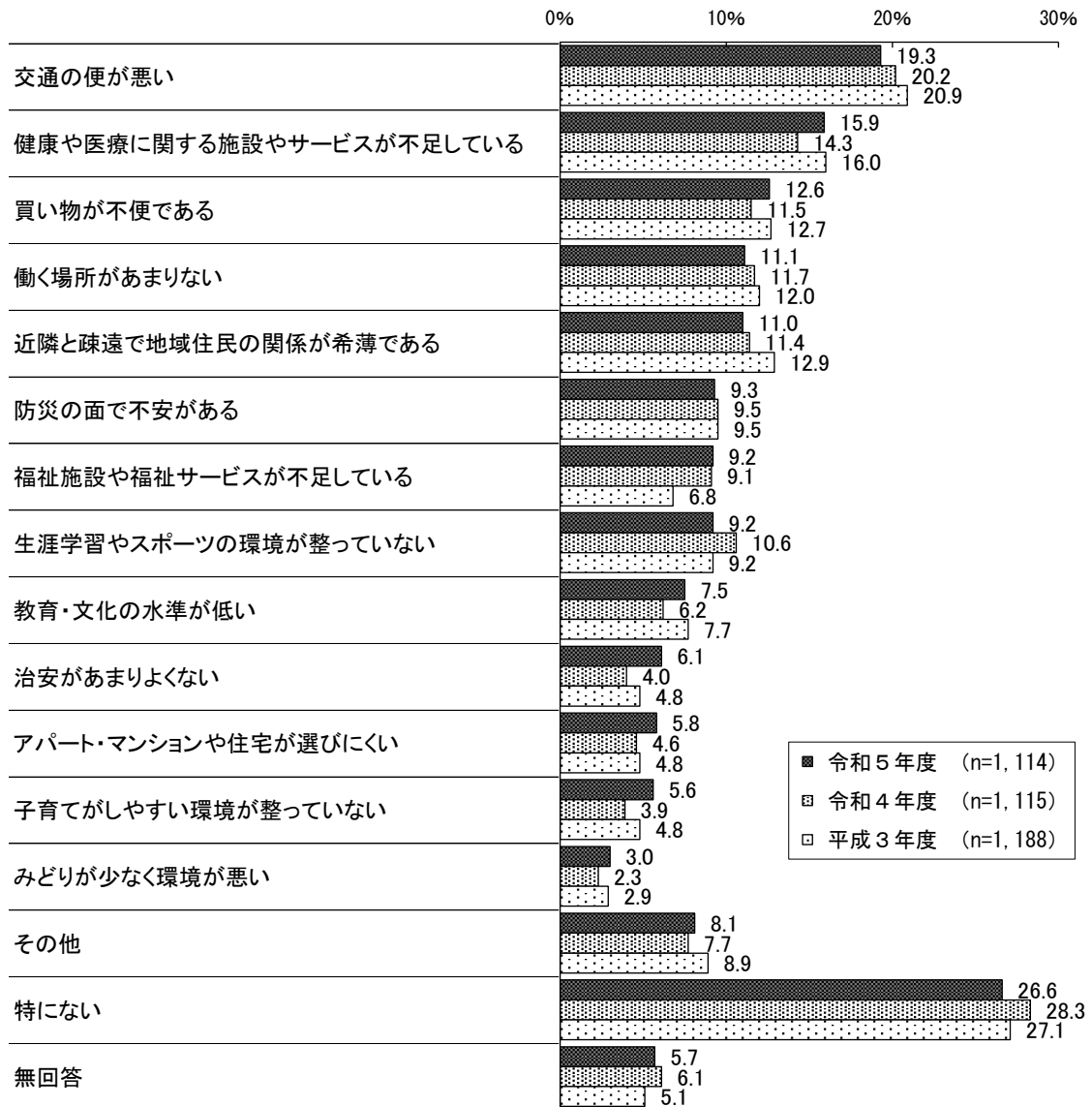
住みごち評価別にみると、ほとんどの項目で『肯定的評価』の方が『否定的評価』より高くなっており、「みどりが豊かで環境がよい」で36.8ポイント、「買い物がしやすい」で30.8ポイント、「治安が比較的よい」で18.5ポイント、「交通の便がよい」で17.4ポイント、それぞれ高くなっている。（図1-2-3）

(3) 練馬区が住みにくいと感じるところ

◇「交通の便が悪い」が約2割

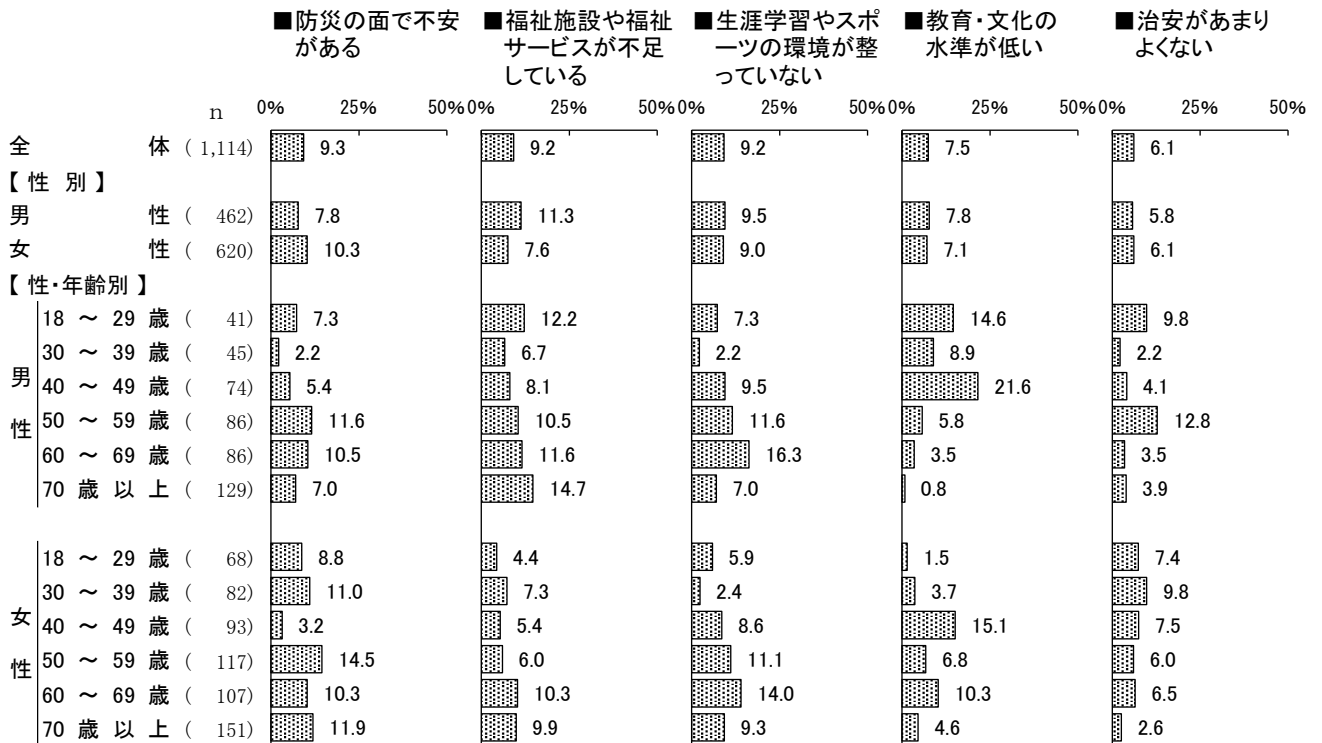
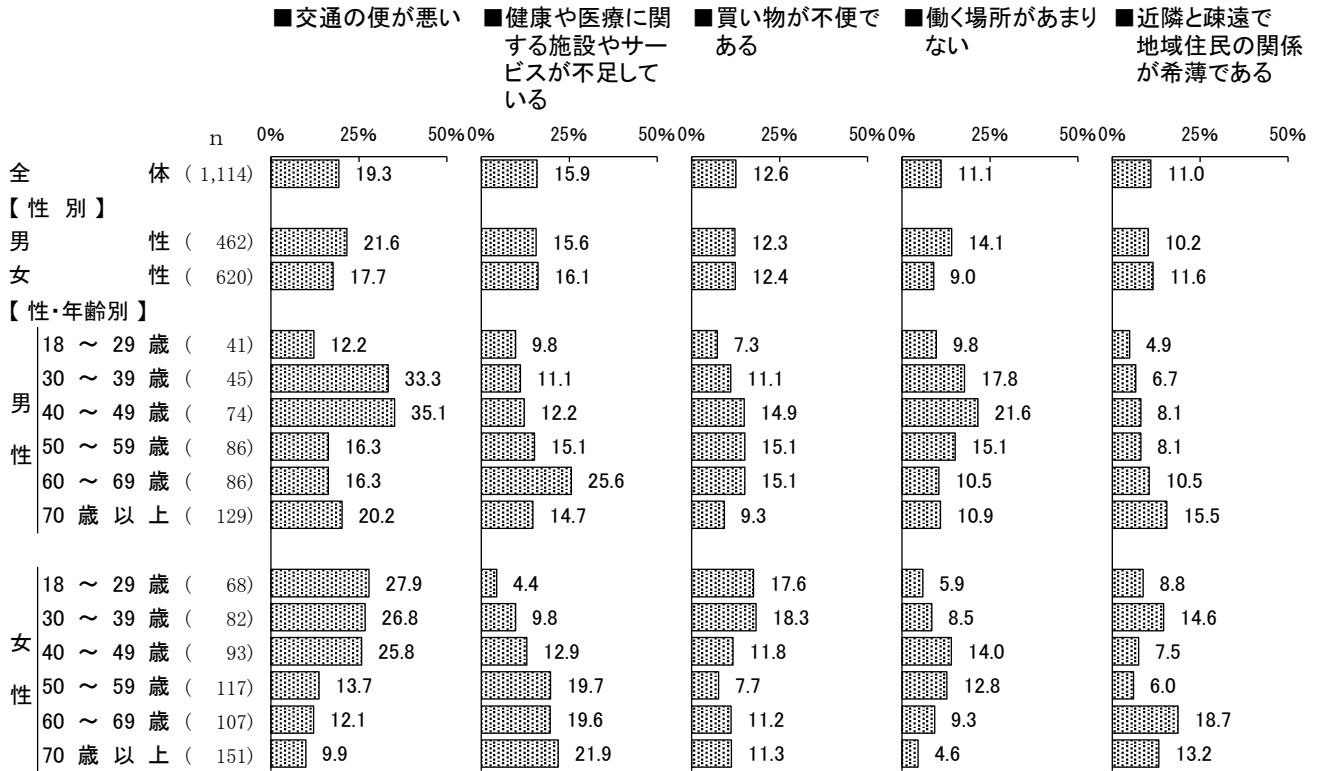
問3 では反対に、あなたが、練馬区が住みにくいと感じるところは、どんなところですか。(〇は3つまで)

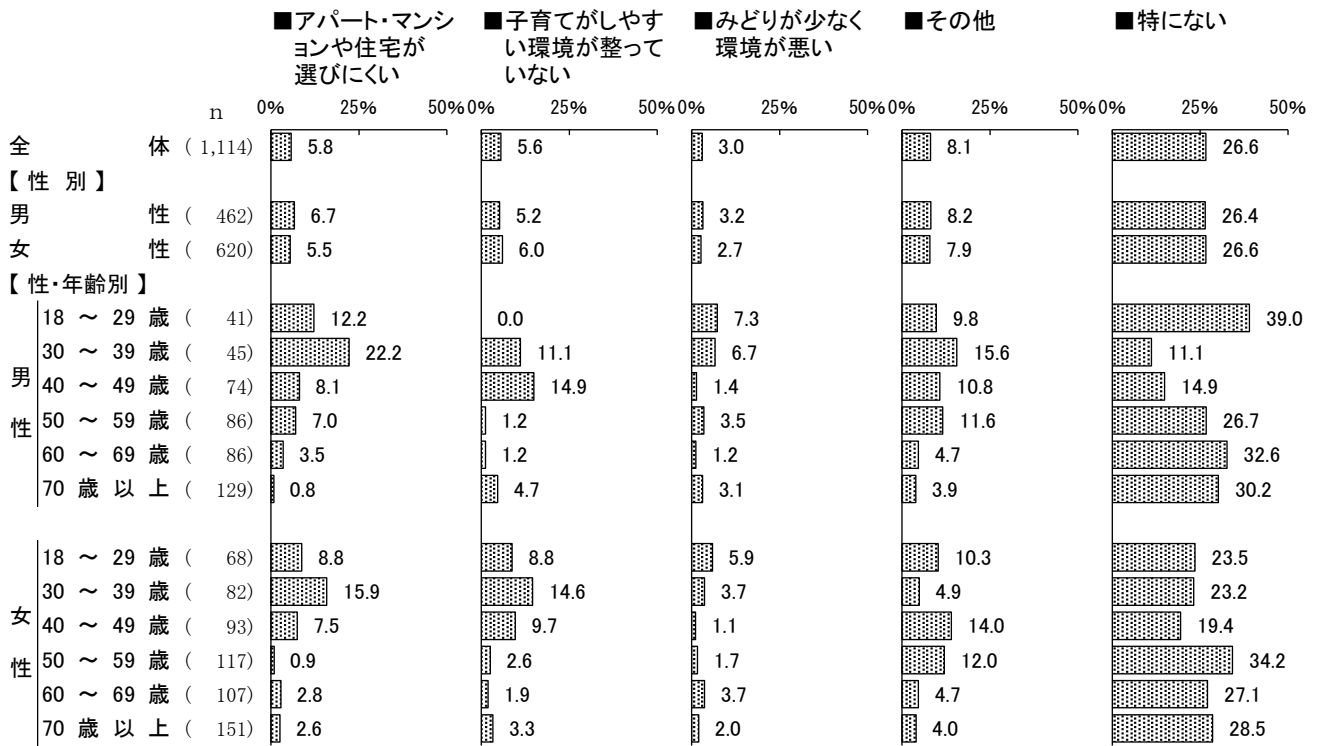
図1-3-1 練馬区が住みにくいと感じるところ



練馬区が住みにくいと感じるところを聞いたところ、「交通の便が悪い」(19.3%)が約2割と最も多く、次いで「健康や医療に関する施設やサービスが不足している」(15.9%)、「買い物が不便である」(12.6%)、「働く場所があまりない」(11.1%)、「近隣と疎遠で地域住民の関係が希薄である」(11.0%)などの順となっている。(図1-3-1)

図1-3-2 練馬区が住みにくいと感じるところ—性別／性・年齢別

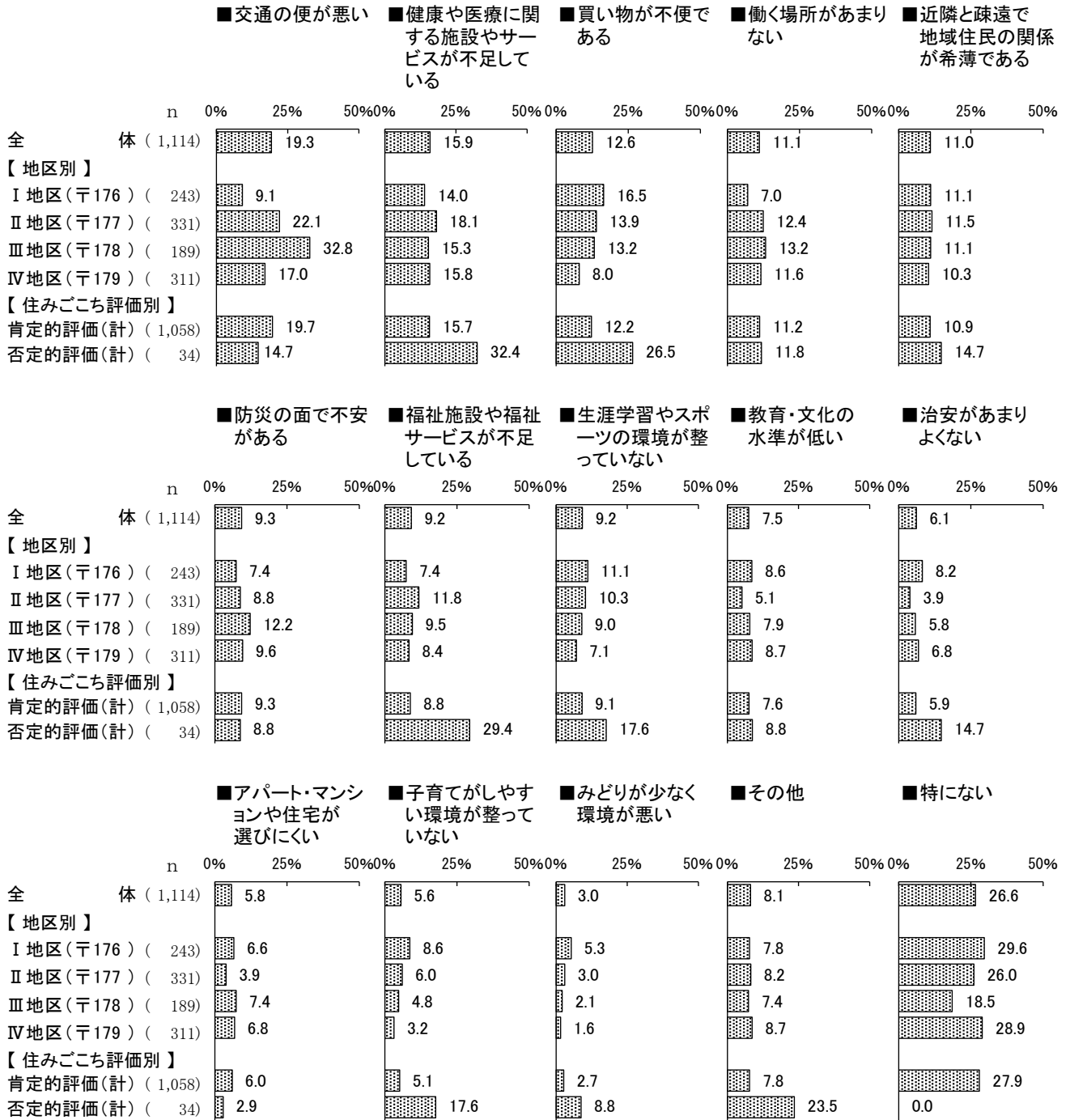




性別にみると、「働く場所があまりない」は男性の方が女性より5.1ポイント、「交通の便が悪い」は3.9ポイント、「福祉施設や福祉サービスが不足している」は3.7ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「防災の面で不安がある」は女性の方が男性より2.5ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「交通の便が悪い」は男性40～49歳で3割半ば、男性30～39歳で3割を超えて多くなっている。「健康や医療に関する施設やサービスが不足している」は男性60～69歳で2割半ばと多くなっている。(図1-3-2)

図1-3-3 練馬区が住みにくいと感ずるところ—地区別／住みごち評価別



地区別にみると、「交通の便が悪い」はIII地区（〒178）で3割を超えて多くなっている。

住みごち評価別にみると、ほとんどの項目で『否定的評価』の方が『肯定的評価』より高くなっており、「福祉施設や福祉サービスが不足している」で20.6ポイント、「健康や医療に関する施設やサービスが不足している」で16.7ポイント、「買い物が不便である」で14.3ポイント、「子育てがしやすい環境が整っていない」で12.5ポイント、それぞれ高くなっている。

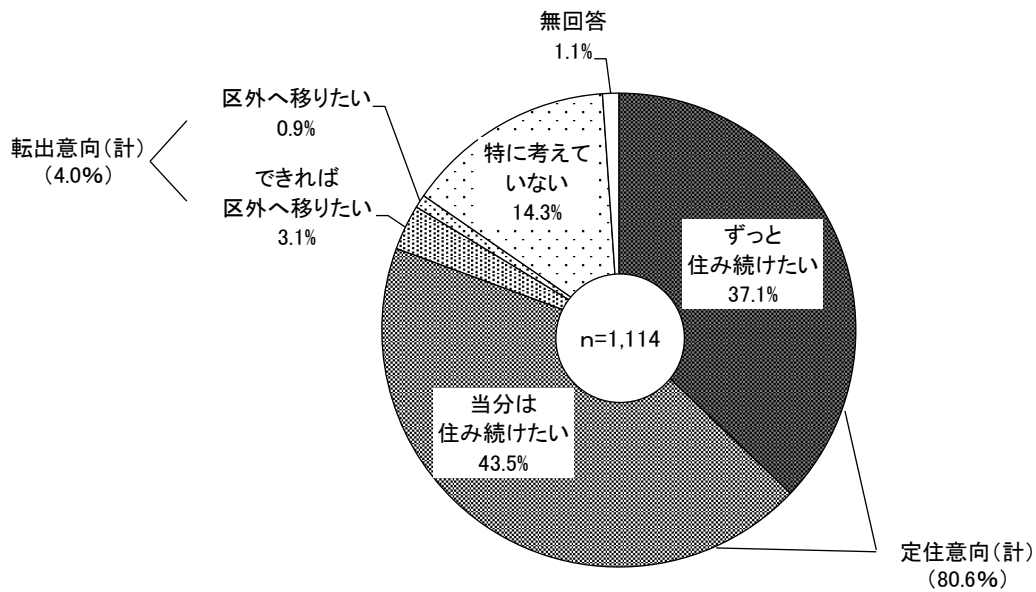
(図1-3-3)

(4) 定住意向

◇『定住意向』が約8割

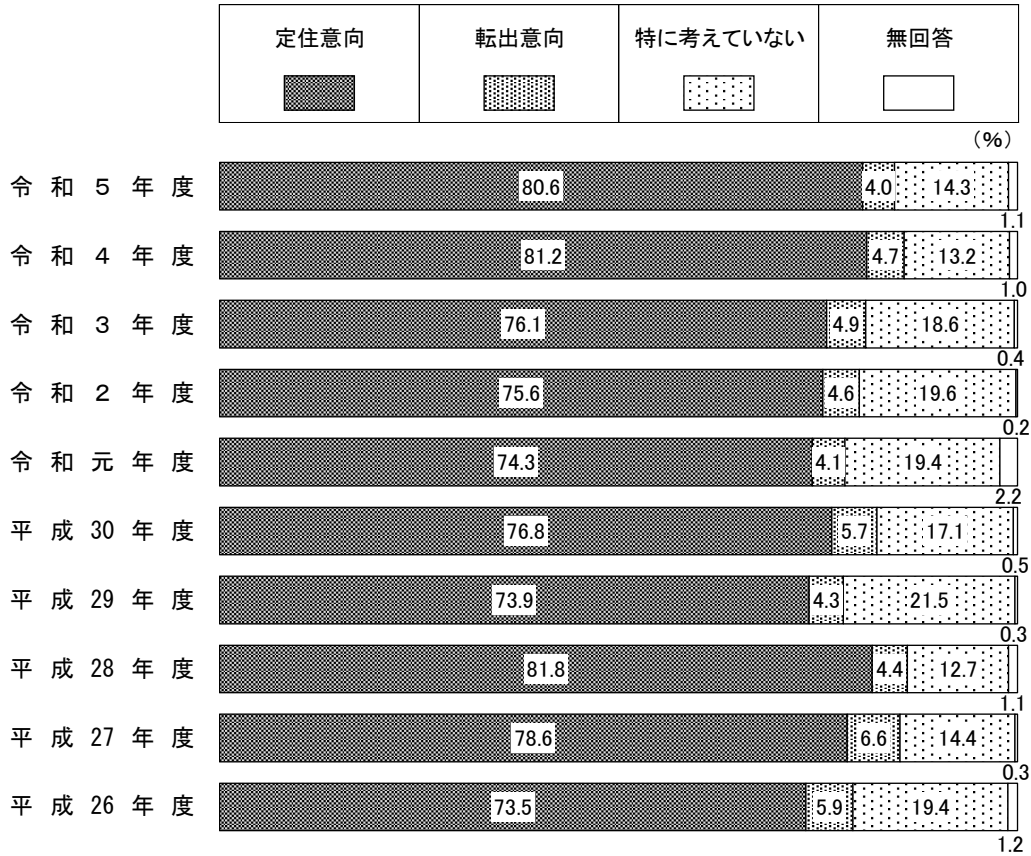
問4 あなたは、これからも引き続き練馬区に住みたいと思いますか。(○は1つ)

図1-4-1 定住意向



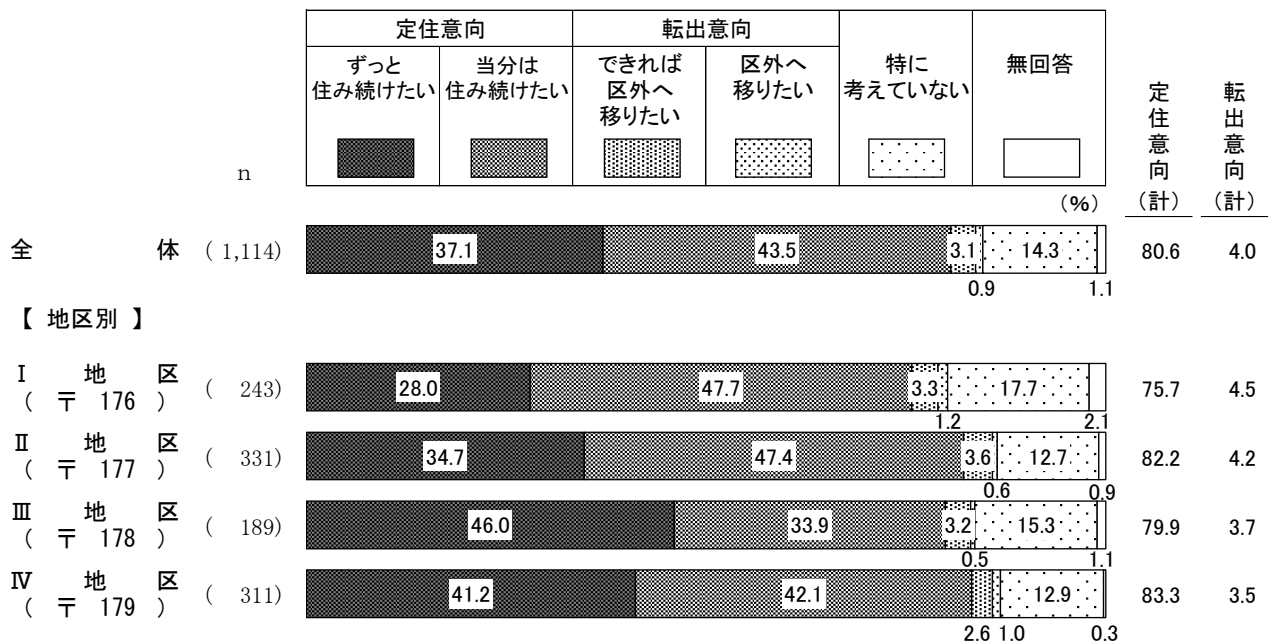
これからも引き続き練馬区に住みたいと思うか聞いたところ、「ずっと住み続けたい」(37.1%)と「当分は住み続けたい」(43.5%)を合わせた『定住意向』(80.6%)が約8割となっている。一方、「できれば区外へ移りたい」(3.1%)と「区外へ移りたい」(0.9%)を合わせた『転出意向』(4.0%)はわずかとなっている。(図1-4-1)

図 1-4-2 定住意向一過年度比較



過去の調査と比較すると、『定住意向』は前回調査（令和 4 年度）と大きな傾向の違いはみられない。（図 1-4-2）

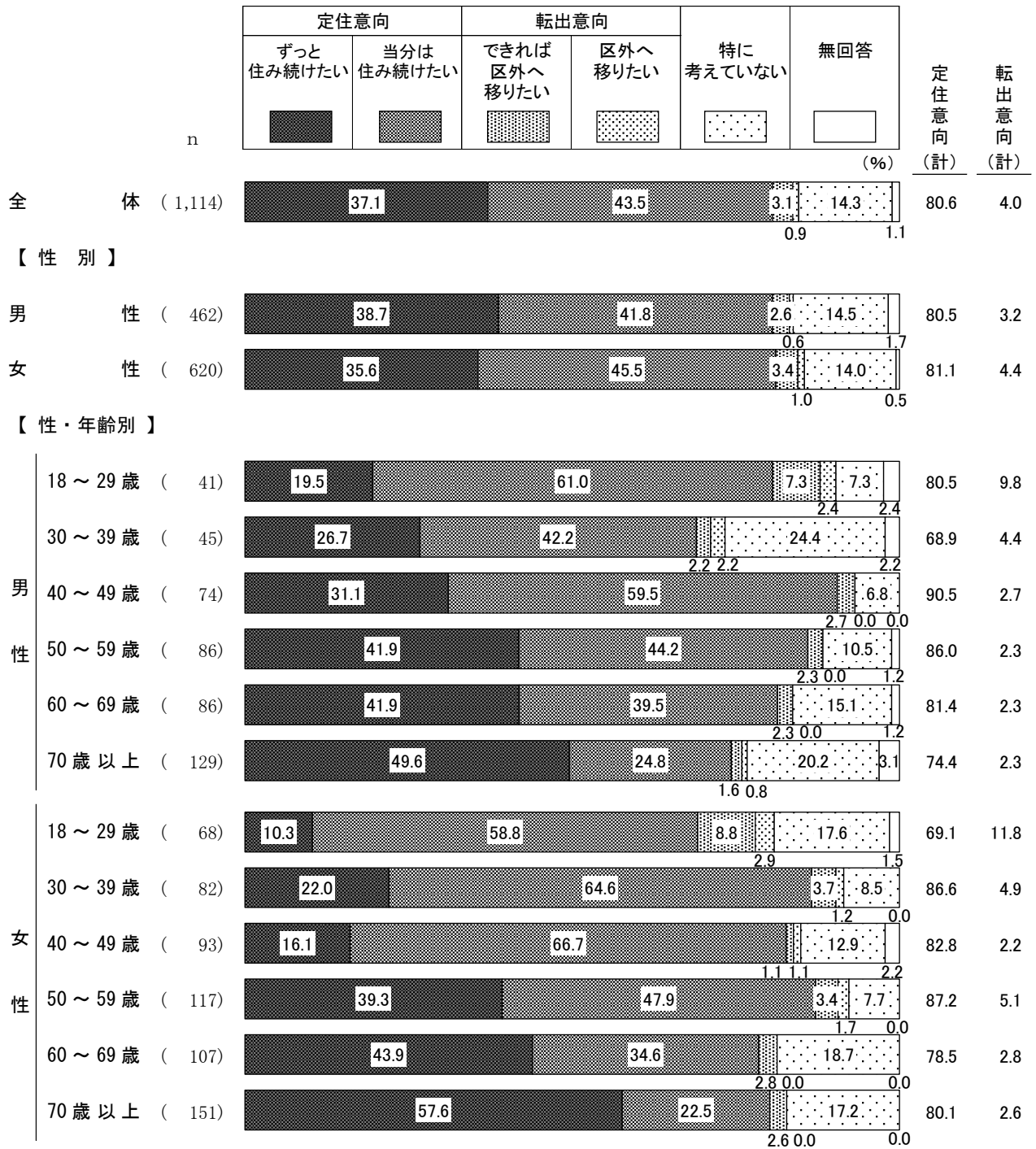
図 1-4-3 定住意向一地区別



地区別にみると、「ずっと住み続けたい」はⅢ地区（区 178）で 4 割半ばと多くなっている。

（図 1-4-3）

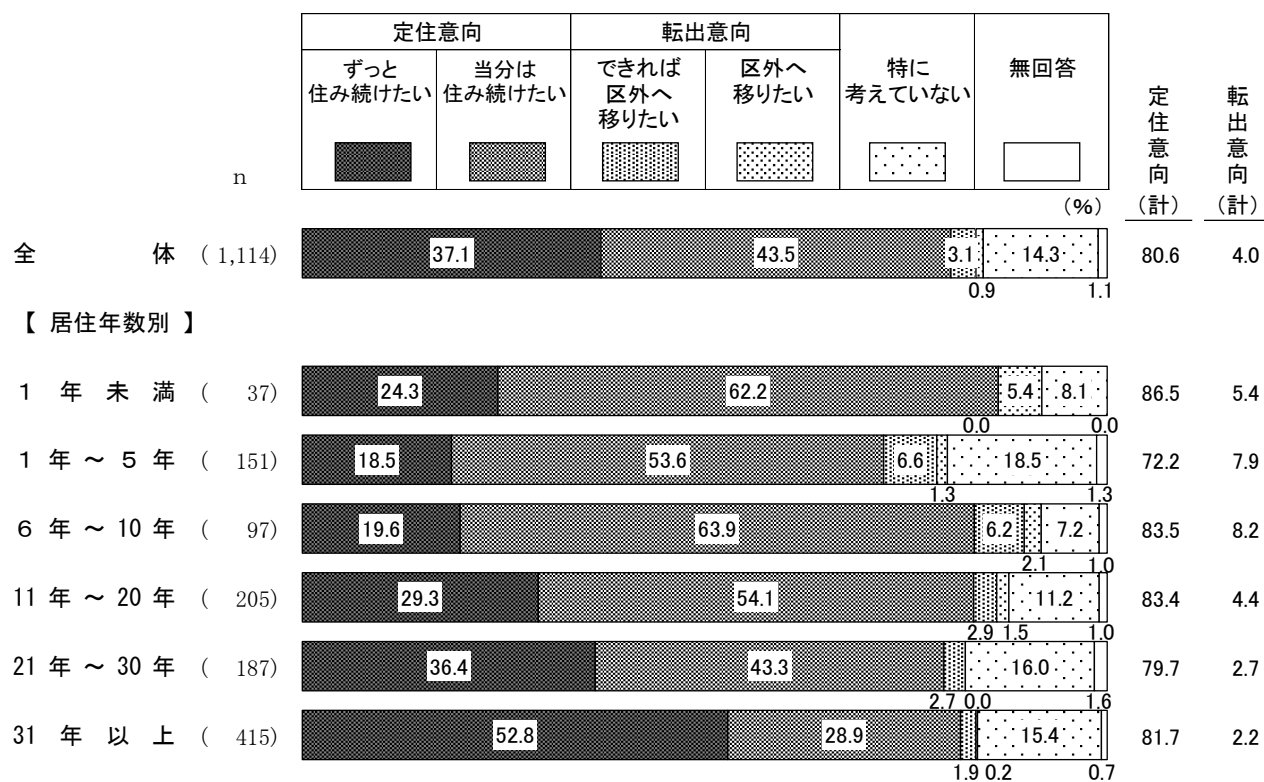
図 1-4-4 定住意向—性別／性・年齢別



性別にみると、『定住意向』は男女ともに8割台となっている。

性・年齢別にみると、「ずっと住み続けたい」は女性70歳以上で6割近く、男性70歳以上で5割と多くなっている。『定住意向』は男性40～49歳で約9割と多くなっている。(図1-4-4)

図 1-4-5 定住意向—居住年数別



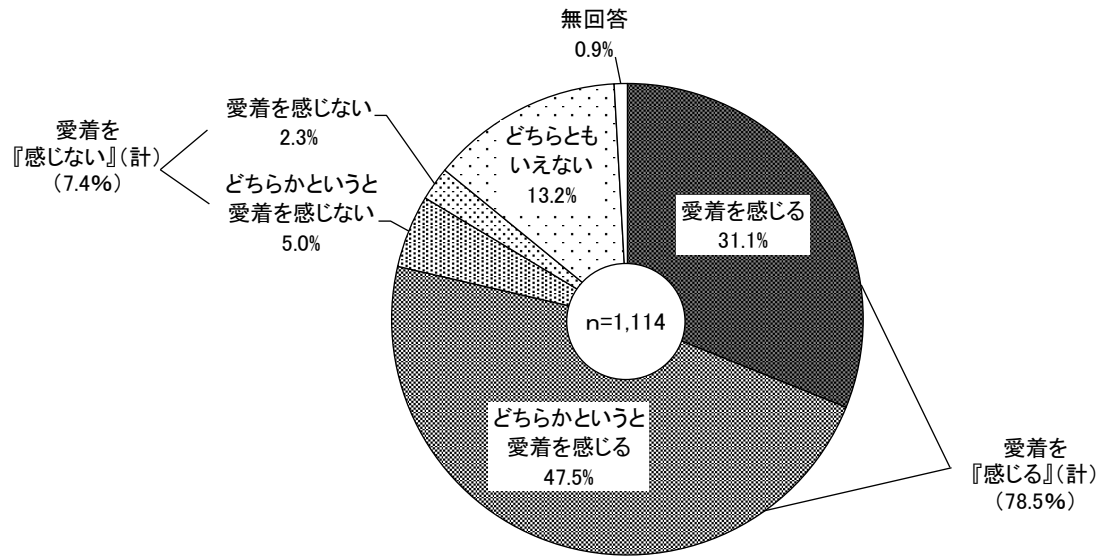
居住年数別にみると、「ずっと住み続けたい」は居住年数がおおむね長くなるほど割合が多くなっており、31年以上居住している人で5割を超えている。(図1-4-5)

(5) 練馬区への愛着

◇愛着を『感じる』が8割近く

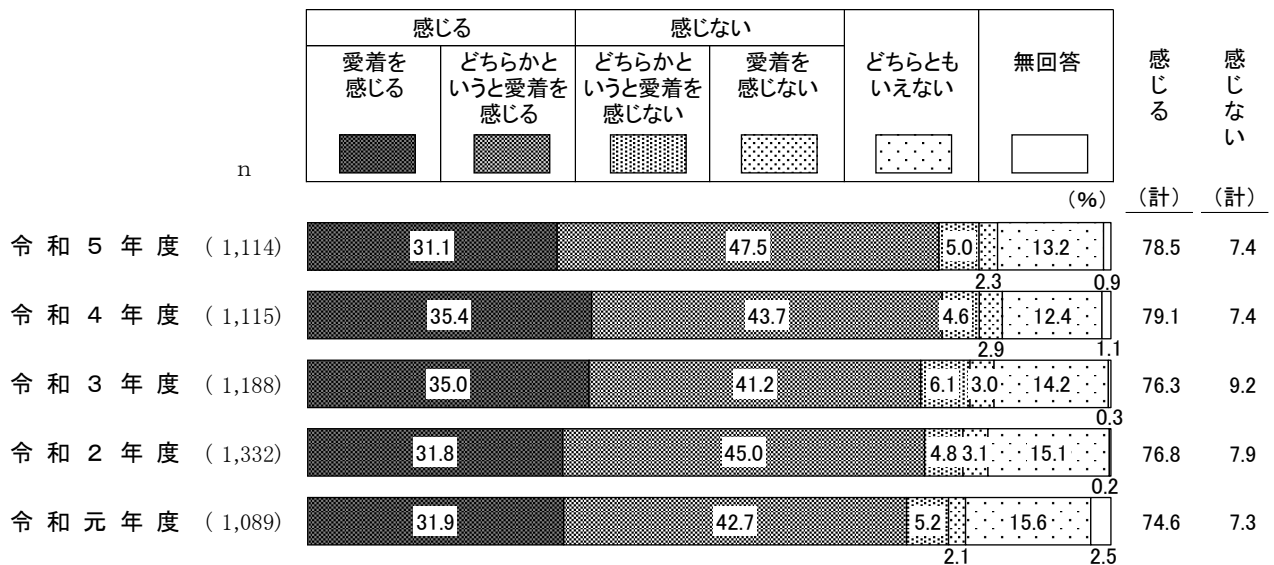
問5 あなたは、練馬区に愛着を感じますか。(○は1つ)

図1-5-1 練馬区への愛着



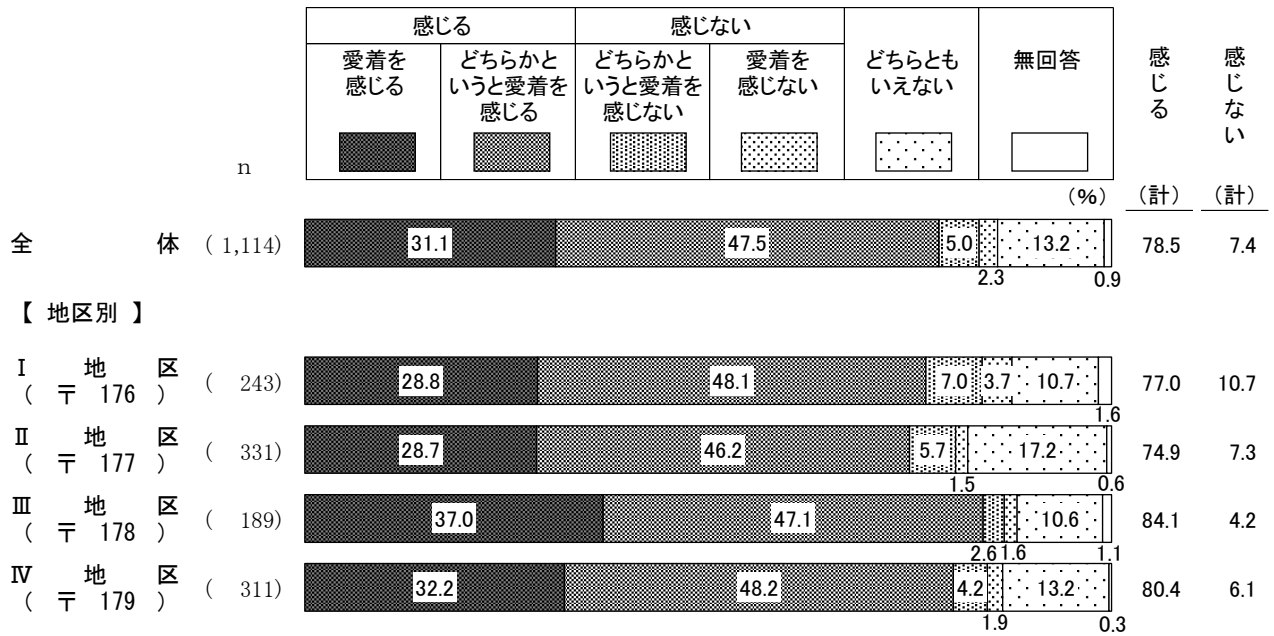
練馬区に愛着を感じるか聞いたところ、「愛着を感じる」(31.1%)と「どちらかという愛着を感じる」(47.5%)を合わせた、愛着を『感じる』(78.5%)が8割近くとなっている。一方、「どちらかという愛着を感じない」(5.0%)と「愛着を感じない」(2.3%)を合わせた、愛着を『感じない』(7.4%)は1割近くとなっている。(図1-5-1)

図1-5-2 練馬区への愛着—過年度比較



過去の調査と比較すると、愛着を『感じる』は前回調査(令和4年度)と大きな傾向の違いはみられない。(図1-5-2)

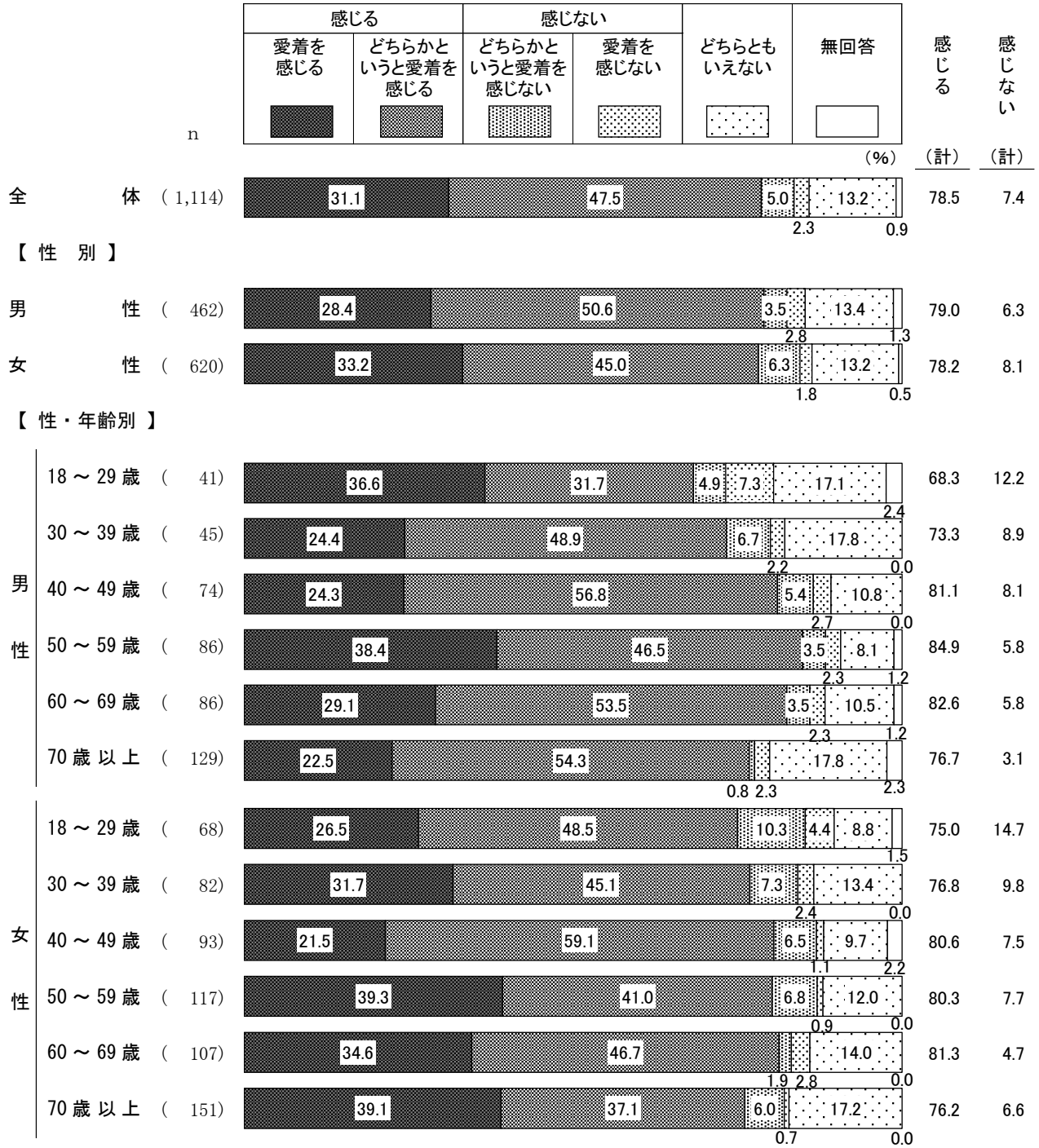
図1-5-3 練馬区への愛着—地区別



地区別にみると、愛着を『感じる』はⅢ地区（〒178）で8割半ばと多くなっている。

（図1-5-3）

図 1-5-4 練馬区への愛着—性別／性・年齢別

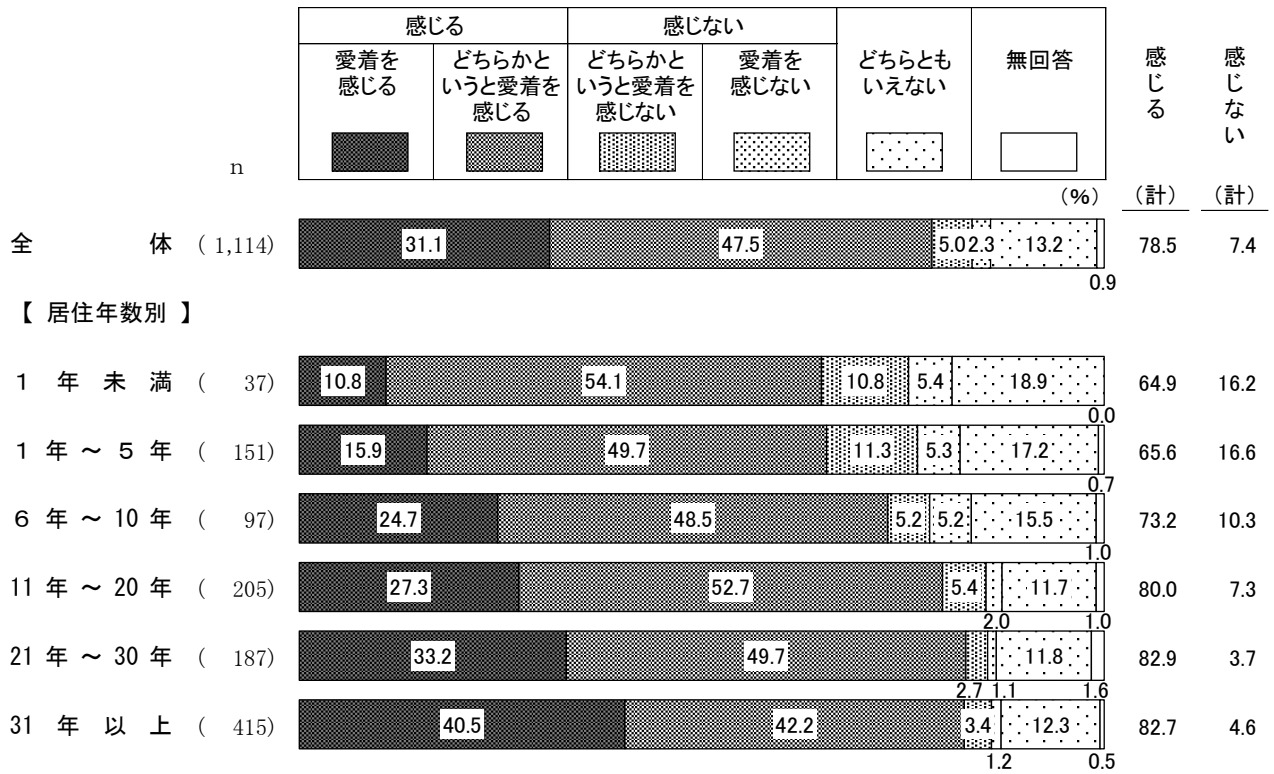


性別にみると、愛着を『感じる』は男性が約8割、女性が8割近くとなっている

性・年齢別にみると、愛着を『感じる』は男性50～59歳で8割半ばと多くなっている。

(図 1-5-4)

図 1-5-5 練馬区への愛着－居住年数別



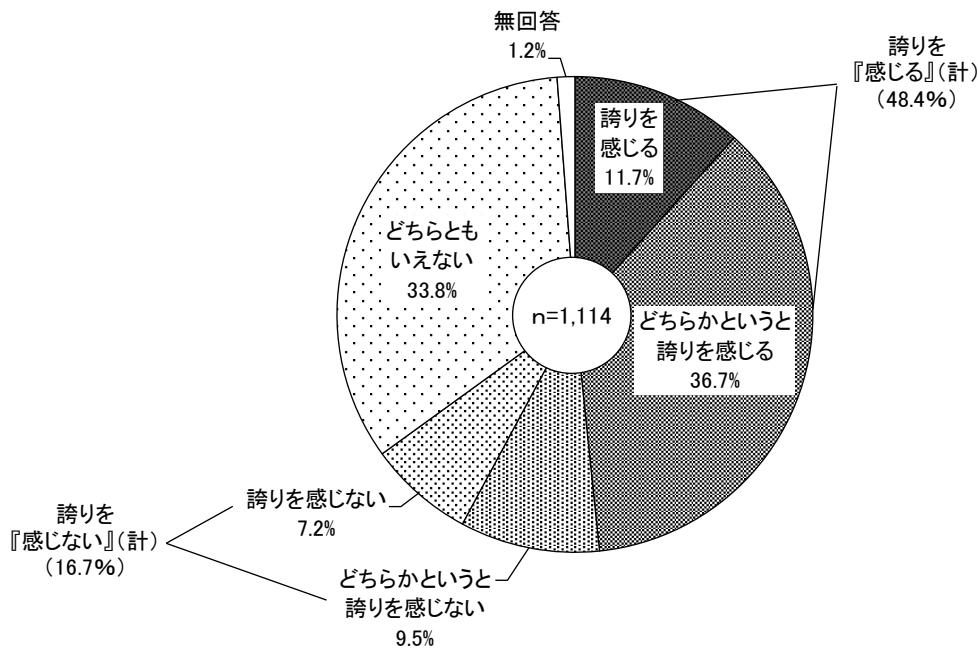
居住年数別にみると、愛着を『感じる』は居住年数が長くなるほど割合が多くなっており、21年～30年居住している人と31年以上居住している人で8割を超えている。(図1-5-5)

(6) 練馬区に対する誇り

◇誇りを『感じる』が5割近く

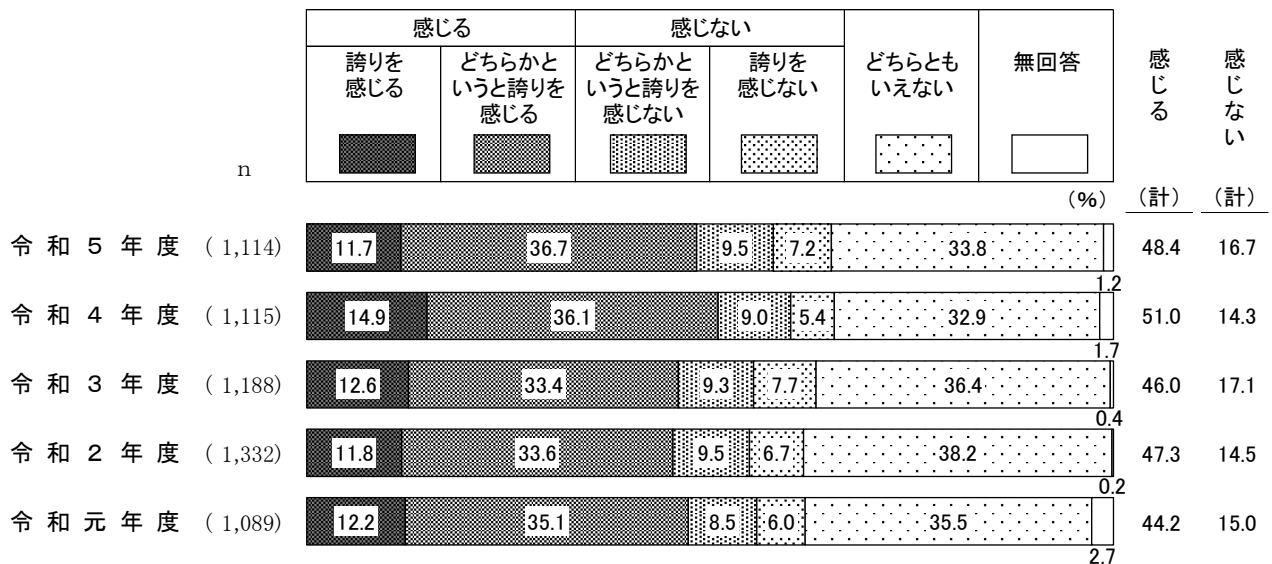
問6 あなたは、練馬区に誇りを感じますか。(○は1つ)

図1-6-1 練馬区に対する誇り



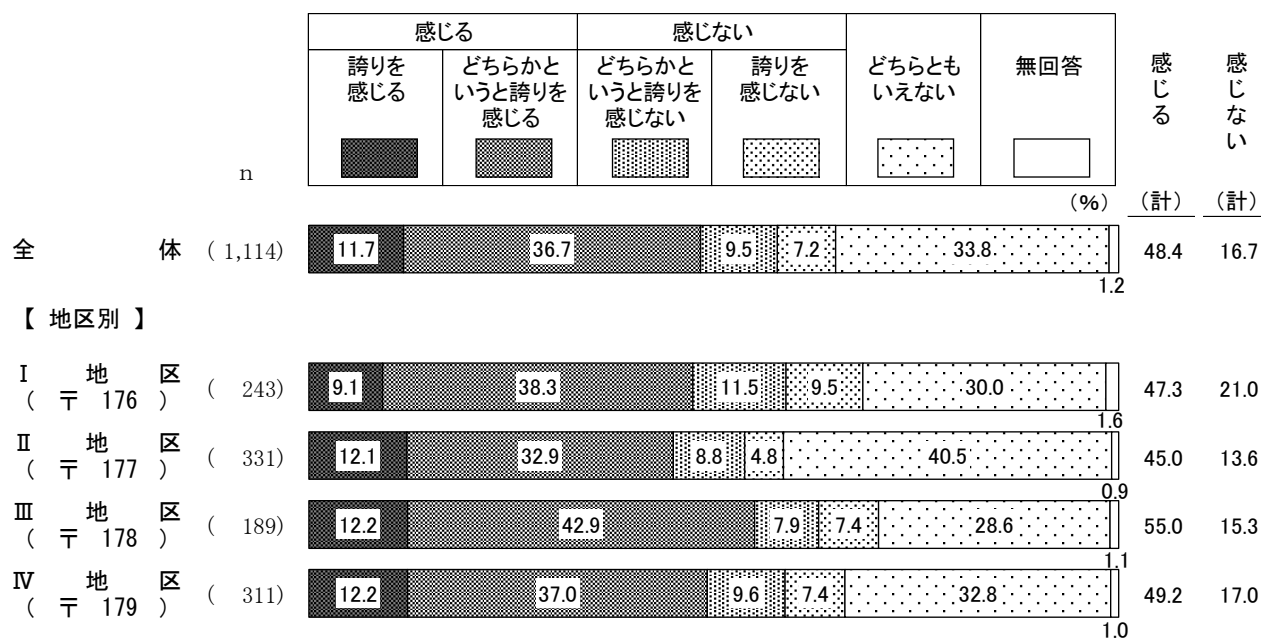
練馬区に誇りを感じるか聞いたところ、「誇りを感じる」(11.7%)と「どちらかというと誇りを感じる」(36.7%)を合わせた、誇りを『感じる』(48.4%)が5割近くとなっている。一方、「どちらかというと誇りを感じない」(9.5%)と「誇りを感じない」(7.2%)を合わせた、誇りを『感じる』(16.7%)は2割近くとなっている。(図1-6-1)

図1-6-2 練馬区に対する誇り一過年度比較



過去の調査と比較すると、誇りを『感じる』は前回調査(令和4年度)より2.6ポイント減少している。(図1-6-2)

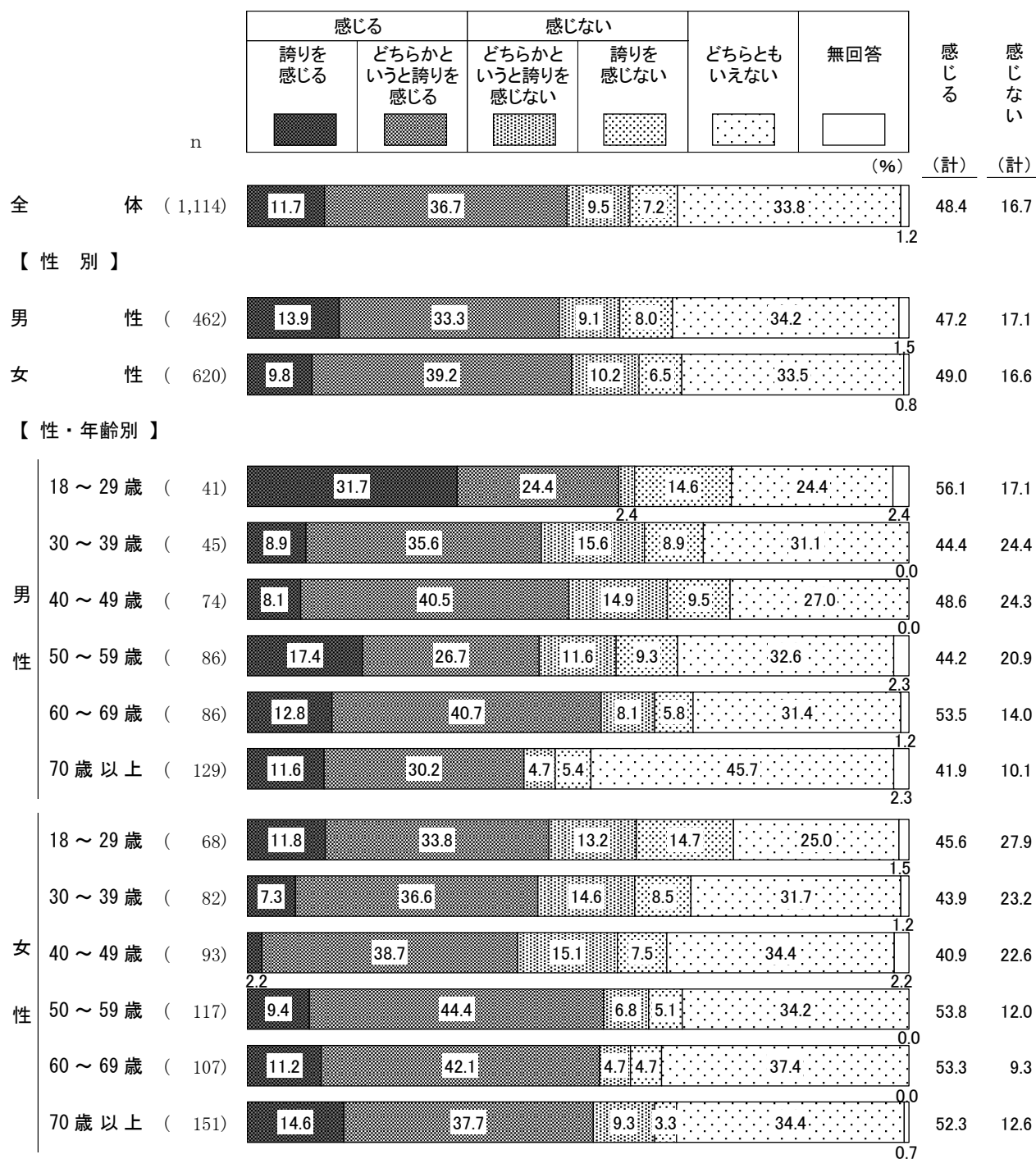
図 1 - 6 - 3 練馬区に対する誇り—地区別



地区別にみると、誇りを『感じる』はⅢ地区（〒178）で5割半ばと多くなっている。

(図 1 - 6 - 3)

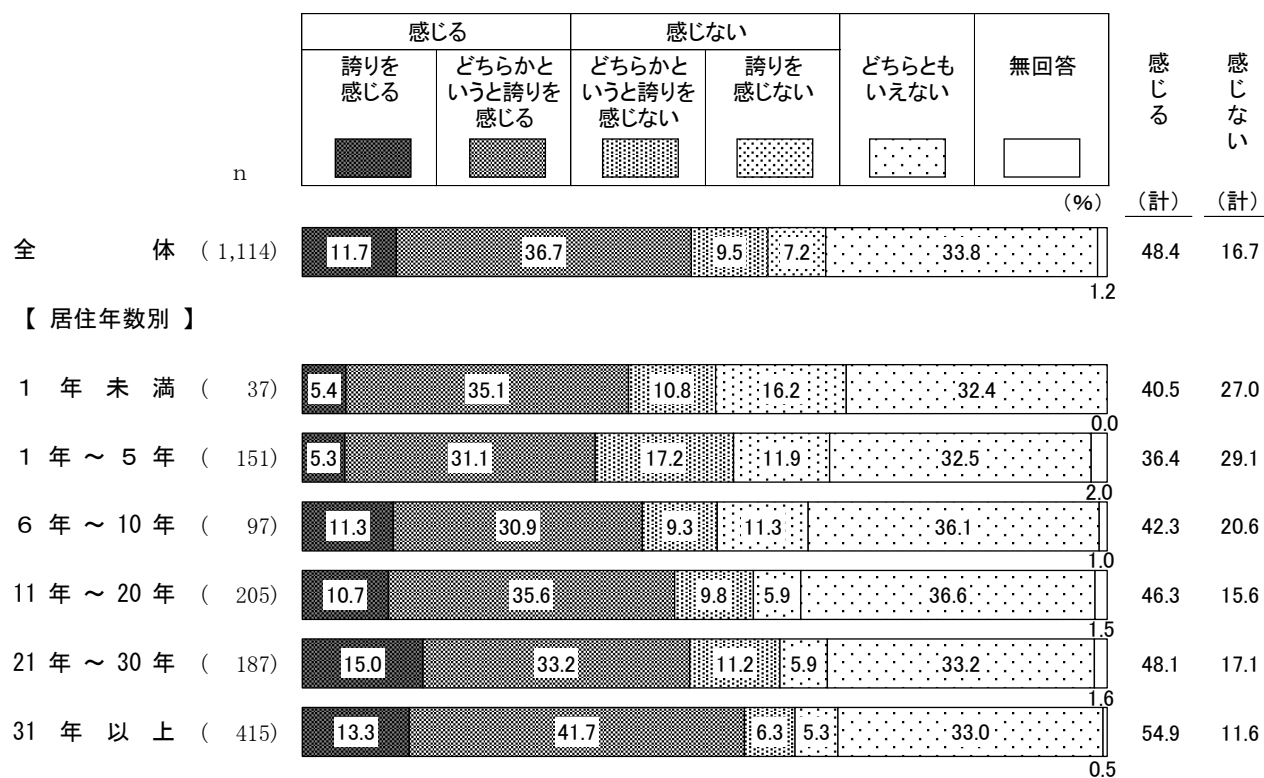
図1-6-4 練馬区に対する誇り—性別／性・年齢別



性別にみると、誇りを『感じる』は大きな差異はみられない。

性・年齢別にみると、誇りを『感じる』は男性18～29歳で5割半ばと多くなっている。一方、誇りを『感じない』は女性18～29歳で3割近くと多くなっている。(図1-6-4)

図 1-6-5 練馬区に対する誇り—居住年数別



居住年数別にみると、誇りを『感じる』はおおむね居住年数が長くなるほど割合が多くなっており、31年以上居住している人で5割半ばとなっている。(図1-6-5)

(7) 施策の満足度と必要性

◇満足度の高い施策は「健康づくりの推進」が8割近く

◇必要性の高い施策は「医療環境の充実」が8割半ば

問7 区は様々な施策を行っていますが、あなたは、次にあげる施策にどの程度満足していますか。

問10 これらの施策に関する今後の必要性について、どのように考えますか。

子ども・子育て	1 子育て支援 (保育所・学童クラブの充実、幼稚園の預かり保育、一時預かりや親子で交流できる場の拡充、子育ての相談をしやすい体制の整備など)
	2 学校教育 (学力の定着・向上、教員の質の向上、教育環境の整備、家庭や地域と連携した教育の推進、支援が必要な子どもたちへの取り組みの充実など)
	3 青少年の健全育成 (子ども向け講座・行事、社会環境の浄化活動、遊び場の確保、青少年館など)
福祉・医療・健康	4 高齢者福祉 (医療・介護等の連携による高齢者の生活支援、高齢者施設の整備、介護予防・介護サービスの充実など)
	5 障害者福祉 (生活状況に応じた地域生活支援の強化、家族支援、住まいの確保、就労支援など)
	6 医療環境の充実 (病床の確保、病院整備の促進、在宅療養ネットワークの構築など)
	7 地域福祉の推進 (地域における平常時の見守り、災害時の要援護者支援の充実、民生委員による福祉活動など)
	8 健康づくりの推進 (健康診査、がん検診、母子保健、健康相談、食育、感染症対策、精神保健など)
	9 生活の安定に向けた自立支援 (生活の相談や支援、生活保護など)
都市基盤整備	10 鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備 (都営大江戸線の延伸、都市計画道路の整備、西武新宿線の立体化、公共交通空白地域の改善など)
	11 災害に強い安全なまちづくり (建築物の耐震化・不燃化、無電柱化、木造住宅密集地域の改善、都市型水害対策の強化など)
	12 地域防災力の向上、安全・安心な地域づくり (自主的な防災への取組支援、防犯・防火など)
	13 交通安全対策 (歩行者空間の確保、自転車対策など)
	14 駅周辺のまちづくり (駅へのアクセス道路、生活利便性の高い駅前空間、良好な景観の形成など)

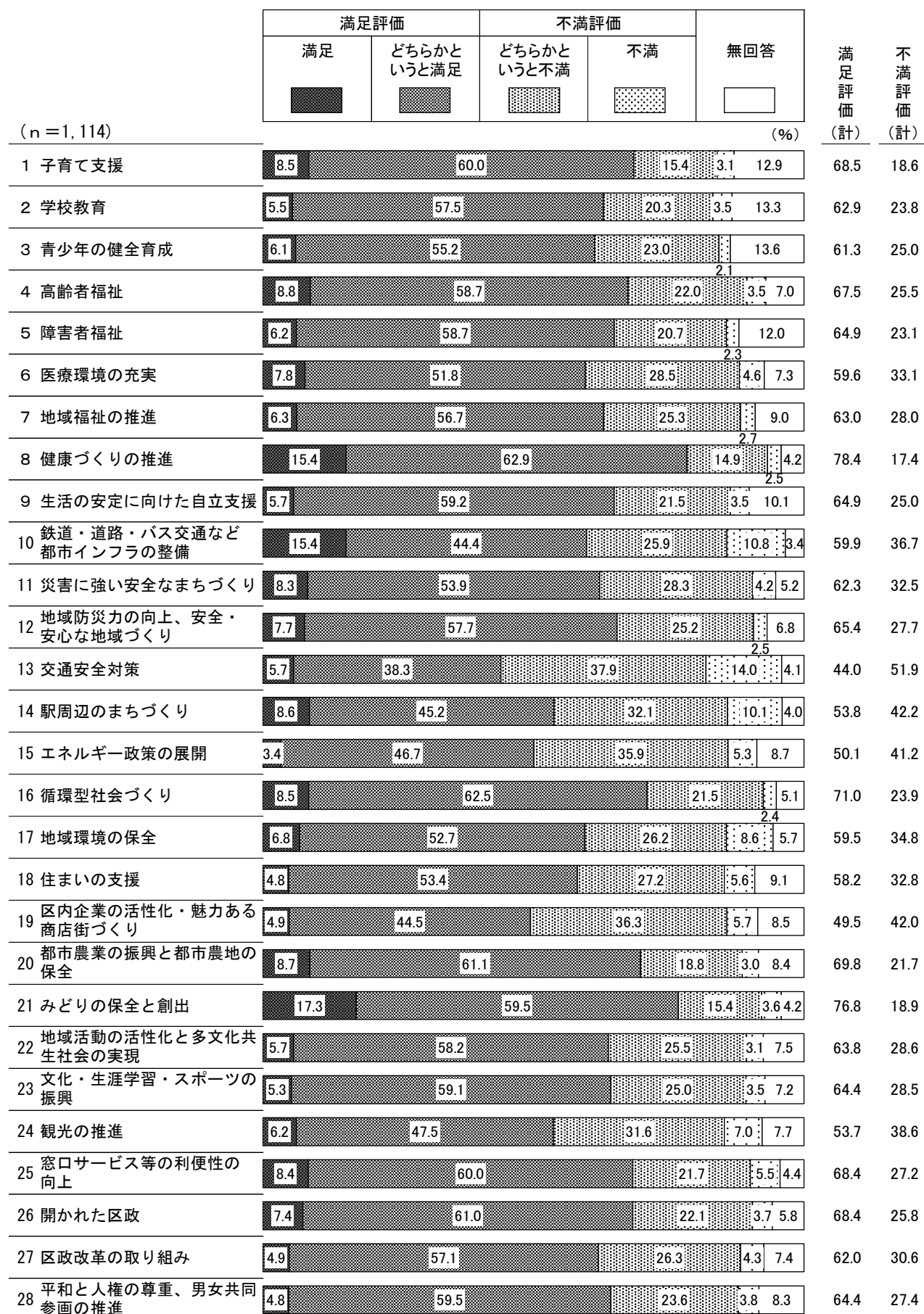
都市基盤整備（続き）	15 エネルギー政策の展開 (災害時のエネルギーセキュリティの確保、住宅都市にふさわしい自立分散型エネルギー社会へ向けた取り組み、省エネルギー、地球温暖化防止など)
	16 循環型社会づくり (ごみの減量・リサイクル・環境学習の推進など)
	17 地域環境の保全 (騒音などの公害問題、たばこのポイ捨て・歩きたばこ防止など)
	18 住まいの支援 (区営住宅の運営、高齢者世帯への住宅支援など)
練馬区の魅力	19 区内企業の活性化・魅力ある商店街づくり (創業支援、企業活動活性化、個店・商店街支援など)
	20 都市農業の振興と都市農地の保全
	21 みどりの保全と創出 (公園の整備、樹林地の保全、みどりの美しい街並みづくりなど)
	22 地域活動の活性化と多文化共生社会の実現 (町会・自治会等の支援、地域集会施設の運営、国際交流など)
	23 文化・生涯学習・スポーツの振興
	24 観光の推進 (徒歩や自転車によるまち歩き観光、区の魅力・観光情報の発信など)
区政運営	25 窓口サービス等の利便性の向上 (窓口の受付日や時間の拡充、窓口の効率化、対応の質の向上、ICT（情報通信技術）の活用など)
	26 開かれた区政 (区報やホームページなどの情報発信の充実、区民参加・協働の推進など)
	27 区政改革の取り組み (サービスの質の向上や費用対効果、受益と負担のあり方、行政と民間の役割分担等の観点からのサービス・事務の見直しなど)
	28 平和と人権の尊重、男女共同参画の推進 (啓発イベントや講座、女性に対する各種相談の実施、情報誌の発行など)

満足度

「満足」および「どちらかという満足」の2項目を合わせた『満足評価』と、「不満」および「どちらかという不満」の2項目を合わせた『不満評価』のそれぞれ上位5項目は、以下のようになっている。(図1-7-1)

『満足評価』上位5項目		『不満評価』上位5項目	
①健康づくりの推進	(78.4%)	①交通安全対策	(51.9%)
②みどりの保全と創出	(76.8%)	②駅周辺のまちづくり	(42.2%)
③循環型社会づくり	(71.0%)	③区内企業の活性化・魅力ある商店街づくり	(42.0%)
④都市農業の振興と都市農地の保全	(69.8%)	④エネルギー政策の展開	(41.2%)
⑤子育て支援	(68.5%)	⑤観光の推進	(38.6%)

図 1-7-1 施策の満足度



必要性

「とても必要」および「必要」の2項目を合わせた『必要性が高い評価』と、「どちらかという必要」および「あまり必要でない」の2項目を合わせた『必要性が低い評価』のそれぞれ上位5項目は、以下のようになっている。(図1-7-2)

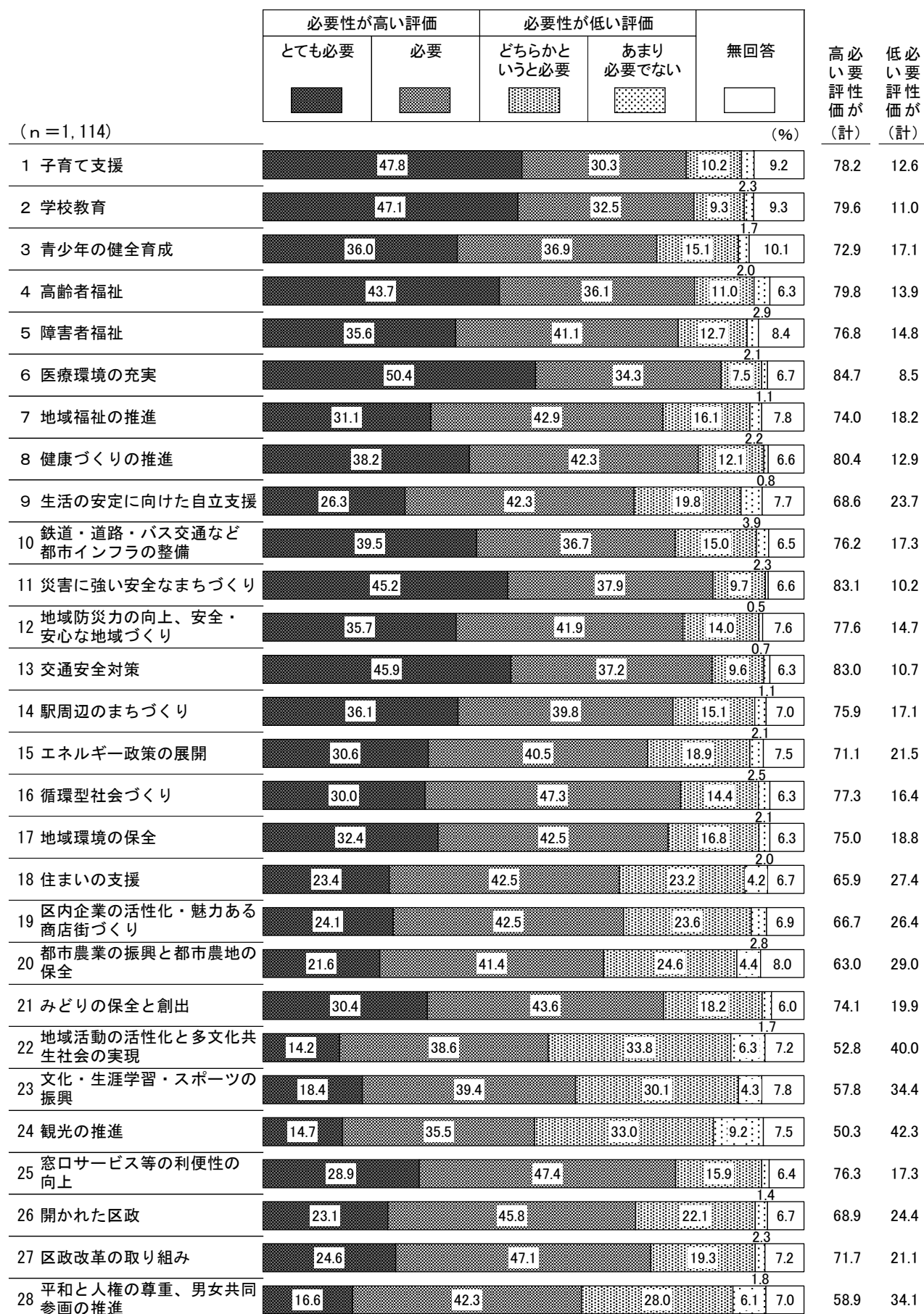
『必要性が高い評価』上位5項目

①医療環境の充実	(84.7%)
②災害に強い安全なまちづくり	(83.1%)
③交通安全対策	(83.0%)
④健康づくりの推進	(80.4%)
⑤高齢者福祉	(79.8%)

『必要性が低い評価』上位5項目

①観光の推進	(42.3%)
②地域活動の活性化と多文化共生 社会の実現	(40.0%)
③文化・生涯学習・スポーツの振興	(34.4%)
④平和と人権の尊重、男女共同参画 の推進	(34.1%)
⑤都市農業の振興と都市農地の保全	(29.0%)

図1-7-2 施策への必要性



加重平均値

満足度と必要性を比率でみるのとは別に、その比較をより明確にするために、加重平均値による数量化を試みた。これは、下記の計算式にあるように、数段階の評価に点数を与え、評価点を算出する方法である。

$$\text{満足度評価点} = \frac{\left\{ \begin{array}{l} (\text{「満足」の回答者数} \times 2) + (\text{「どちらかという満足」の回答者数} \times 1) \\ + (\text{「どちらかという不満」の回答者数} \times -1) + (\text{「不満」の回答者数} \times -2) \end{array} \right\}}{\text{回答者数 (「全体」 - 「無回答」)}}$$

$$\text{必要性評価点} = \frac{\left\{ \begin{array}{l} (\text{「とても必要」の回答者数} \times 2) + (\text{「必要」の回答者数} \times 1) \\ + (\text{「どちらかという必要」の回答者数} \times -1) + (\text{「あまり必要でない」の回答者数} \times -2) \end{array} \right\}}{\text{回答者数 (「全体」 - 「無回答」)}}$$

この計算方法では、評価点は+2.0点～-2.0点の間に分布し、中間点の0.0点を境に、+2.0点に近くなるほど満足度・必要性は高くなり、逆に、-2.0点に近くなるほど満足度・必要性が低くなる。

満足度と必要性の加重平均値の上位5項目と下位5項目は、以下のようになっている。

(表1-7-1)

『満足度評価点』上位5項目		『満足度評価点』下位5項目	
①健康づくりの推進	(0.77)	①交通安全対策	(-0.17)
②みどりの保全と創出	(0.75)	②区内企業の活性化・魅力ある 商店街づくり	(0.07)
③子育て支援	(0.64)	③エネルギー政策の展開	(0.08)
④都市農業の振興と都市農地の保全	(0.59)	④駅周辺のまちづくり	(0.11)
⑤循環型社会づくり	(0.56)	⑤観光の推進	(0.15)
『必要性評価点』上位5項目		『必要性評価点』下位5項目	
①医療環境の充実	(1.35)	①観光の推進	(0.15)
②学校教育	(1.26)	②地域活動の活性化と多文化共生 社会の実現	(0.22)
②災害に強い安全なまちづくり	(1.26)	③平和と人権の尊重、男女共同参画 の推進	(0.38)
④交通安全対策	(1.25)	④文化・生涯学習・スポーツの振興	(0.41)
⑤子育て支援	(1.22)	⑤都市農業の振興と都市農地の保全	(0.56)

表 1-7-1 施策の満足度と必要性（加重平均値）－地区別

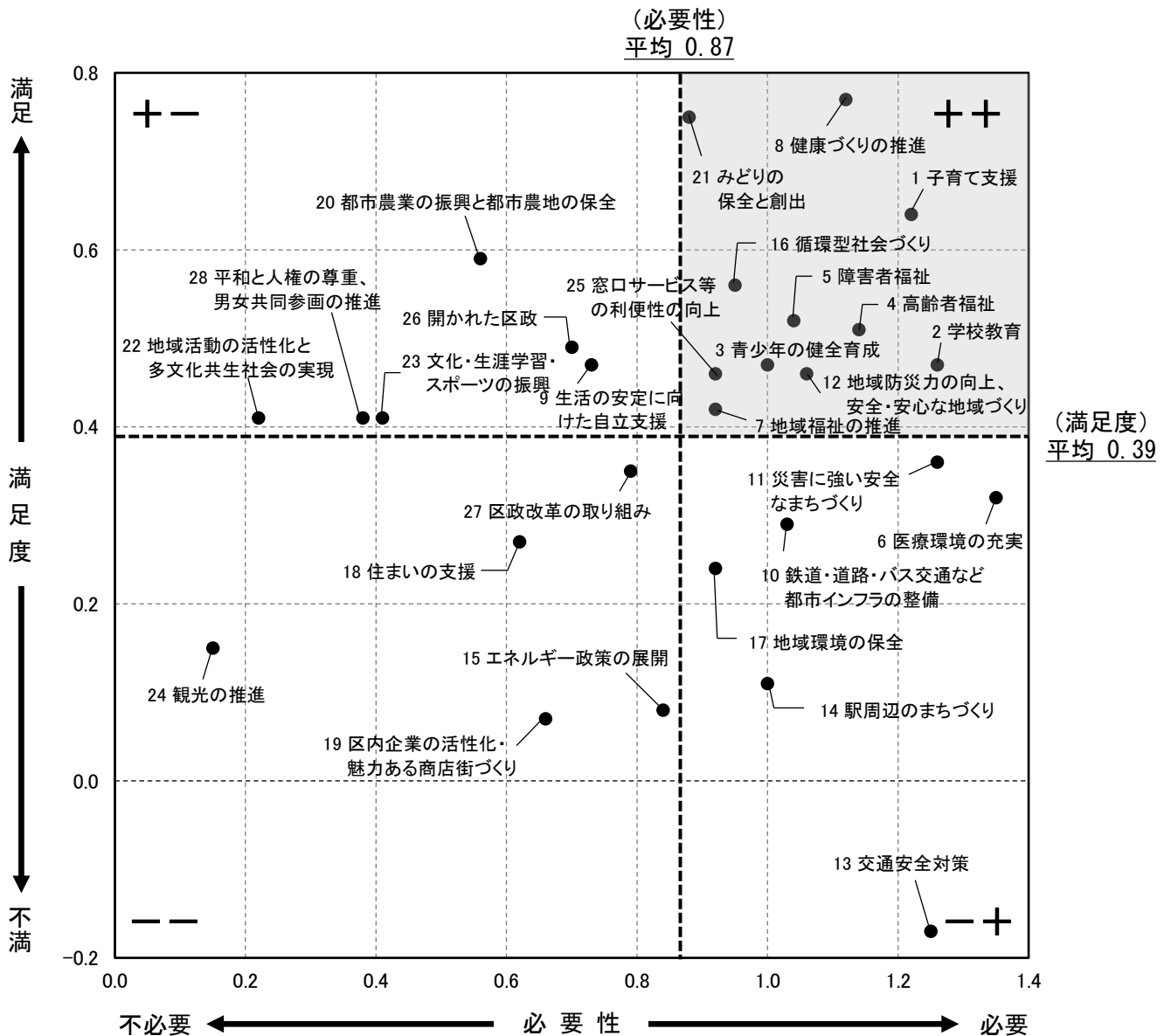
		満足度評価点					必要性評価点				
		区 全 体	I 地 区	II 地 区	III 地 区	IV 地 区	区 全 体	I 地 区	II 地 区	III 地 区	IV 地 区
子ども・子育て	1 子育て支援	0.64	0.55	0.58	0.72	0.68	1.22	1.28	1.20	1.16	1.27
	2 学校教育	0.47	0.49	0.41	0.50	0.48	1.26	1.38	1.19	1.19	1.28
	3 青少年の健全育成	0.47	0.40	0.41	0.52	0.52	1.00	1.06	0.97	0.96	1.01
福祉・医療・健康	4 高齢者福祉	0.51	0.51	0.42	0.46	0.59	1.14	1.19	1.04	1.26	1.15
	5 障害者福祉	0.52	0.57	0.44	0.40	0.60	1.04	1.04	0.95	1.19	1.06
	6 医療環境の充実	0.32	0.37	0.33	0.26	0.27	1.35	1.36	1.28	1.36	1.42
	7 地域福祉の推進	0.42	0.43	0.36	0.44	0.45	0.92	0.98	0.85	0.95	0.92
	8 健康づくりの推進	0.77	0.71	0.81	0.76	0.80	1.12	1.12	1.13	1.08	1.13
	9 生活の安定に向けた自立支援	0.47	0.49	0.41	0.42	0.55	0.73	0.81	0.63	0.71	0.76
都市基盤整備	10 鉄道・道路・バス交通など 都市インフラの整備	0.29	0.61	-0.01	-0.08	0.53	1.03	0.89	1.05	1.37	0.92
	11 災害に強い安全なまちづくり	0.36	0.45	0.28	0.23	0.44	1.26	1.29	1.19	1.26	1.30
	12 地域防災力の向上、安全・安心な 地域づくり	0.46	0.47	0.40	0.28	0.60	1.06	1.13	0.99	1.09	1.07
	13 交通安全対策	-0.17	-0.16	-0.19	-0.42	-0.05	1.25	1.26	1.21	1.39	1.21
	14 駅周辺のまちづくり	0.11	0.20	-0.13	-0.11	0.38	1.00	1.05	1.04	1.15	0.87
	15 エネルギー政策の展開	0.08	0.02	0.03	-0.05	0.19	0.84	0.84	0.83	0.79	0.87
	16 循環型社会づくり	0.56	0.49	0.54	0.55	0.63	0.95	1.00	0.92	0.93	0.97
	17 地域環境の保全	0.24	0.13	0.25	0.13	0.39	0.92	0.96	0.90	0.91	0.90
	18 住まいの支援	0.27	0.23	0.22	0.11	0.44	0.62	0.63	0.51	0.69	0.67
練馬区の魅力	19 区内企業の活性化・魅力ある商店街 づくり	0.07	0.21	-0.11	0.02	0.16	0.66	0.73	0.71	0.67	0.60
	20 都市農業の振興と都市農地の保全	0.59	0.58	0.48	0.63	0.67	0.56	0.54	0.57	0.56	0.57
	21 みどりの保全と創出	0.75	0.69	0.65	0.73	0.89	0.88	0.91	0.95	0.90	0.82
	22 地域活動の活性化と多文化共生社会 の実現	0.41	0.46	0.29	0.32	0.52	0.22	0.24	0.21	0.29	0.19
	23 文化・生涯学習・スポーツの振興	0.41	0.35	0.37	0.40	0.47	0.41	0.39	0.36	0.51	0.43
	24 観光の推進	0.15	0.08	0.18	0.02	0.22	0.15	0.24	0.08	0.31	0.05
区政運営	25 窓口サービス等の利便性の向上	0.46	0.50	0.42	0.26	0.56	0.92	0.87	0.89	0.97	1.01
	26 開かれた区政	0.49	0.46	0.47	0.37	0.60	0.70	0.83	0.66	0.73	0.62
	27 区政改革の取り組み	0.35	0.36	0.29	0.24	0.43	0.79	0.83	0.80	0.82	0.73
	28 平和と人権の尊重、男女共同参画 の推進	0.41	0.42	0.33	0.41	0.48	0.38	0.32	0.34	0.43	0.45

満足度と必要性の相関

満足度と必要性の相関を加重平均値でみると、下の図1-7-3のようになっている。
この相関図では、●の点が上に分布するほど満足度が高く、右に分布するほど必要性が高くなる。

さらに、満足度の平均（0.39点）および必要性の平均（0.87点）を相関図上に点線を引いて4つに分割し、平均より上位であるか下位であるかが明確になるように示した。

図1-7-3 施策の満足度と必要性（加重平均値）の相関



これによると、満足度も必要性も高い（++：網かけ部分）のは、「健康づくりの推進」「子育て支援」「学校教育」「高齢者福祉」「障害者福祉」などである。

満足度が高いが必要性が低い（+-）のは、「都市農業の振興と都市農地の保全」「開かれた区政」などである。

満足度が低いが必要性が高い（-+）のは、「交通安全対策」「医療環境の充実」「駅周辺のまちづくり」などである。

満足度も必要性も低い（--）のは、「観光の推進」「区内企業の活性化・魅力ある商店街づくり」などである。（図1-7-3）

満足度の区全体と地区別比較

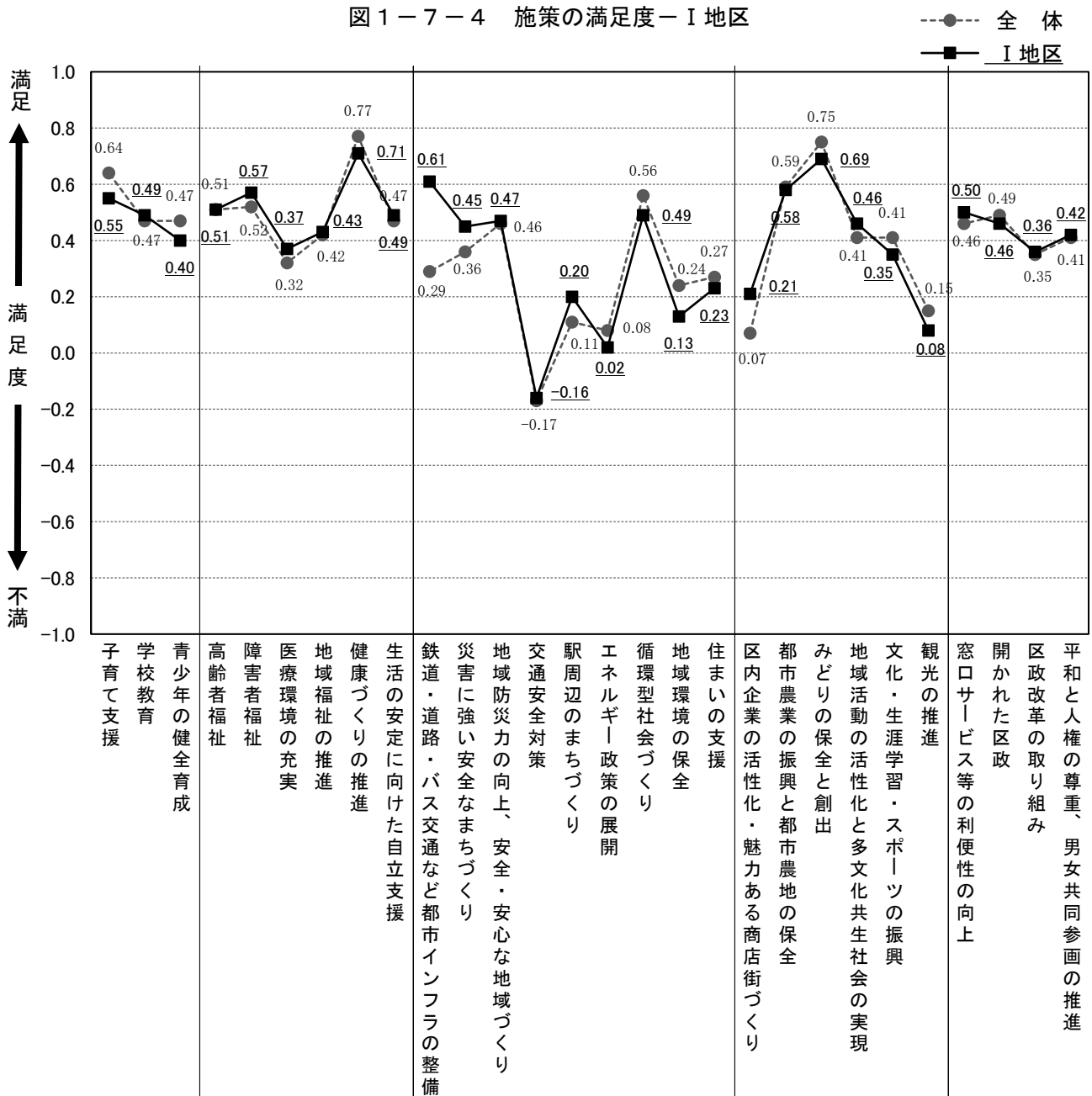
【I地区（〒176）】

全体と比較して満足度が高いのは「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」（+0.32点）、「区内企業の活性化・魅力ある商店街づくり」（+0.14点）、「災害に強い安全なまちづくり」「駅周辺のまちづくり」（いずれも+0.09点）などである。

満足度が低いのは「地域環境の保全」（-0.11点）、「子育て支援」（-0.09点）、「青少年の健全育成」「循環型社会づくり」「観光の推進」（いずれも-0.07点）などである。（図1-7-4）



図1-7-4 施策の満足度－I地区



【Ⅱ地区（〒177）】

全体と比較して満足度が高いのは「健康づくりの推進」（+0.04点）、「観光の推進」（+0.03点）などである。

満足度が低いのは「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」（-0.30点）、「駅周辺のまちづくり」（-0.24点）、「区内企業の活性化・魅力ある商店街づくり」（-0.18点）、「地域活動の活性化と多文化共生社会の実現」（-0.12点）などである。（図1-7-5）

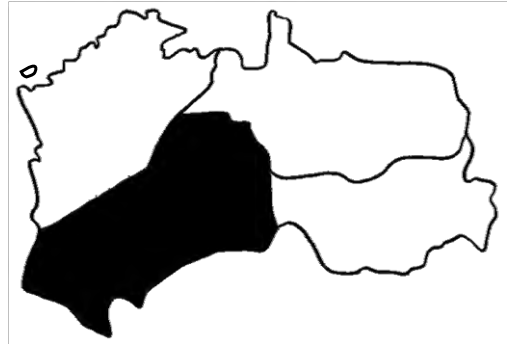
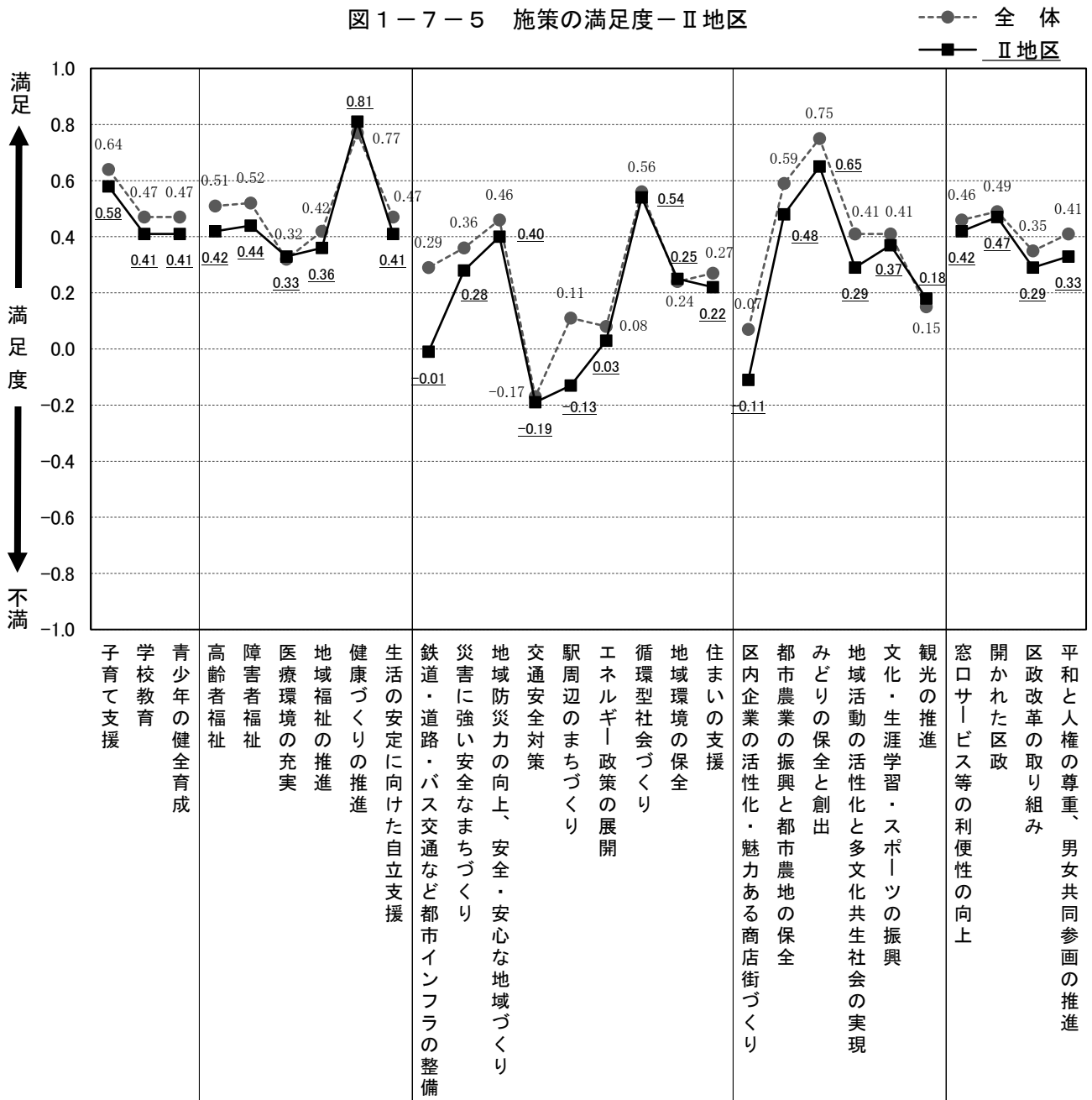


図1-7-5 施策の満足度－Ⅱ地区



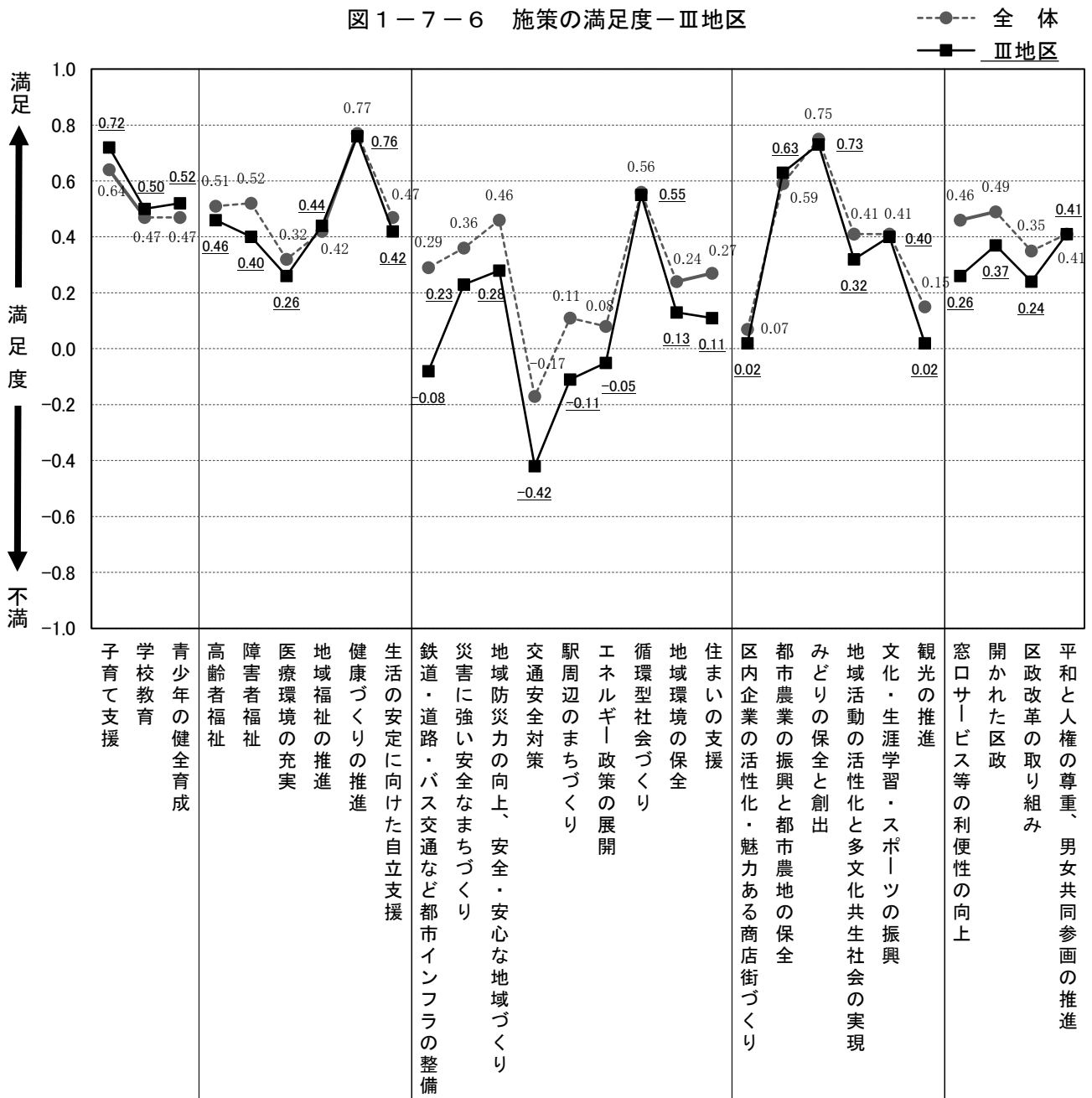
【Ⅲ地区（〒178）】

全体と比較して満足度が高いのは「子育て支援」（+0.08点）、「青少年の健全育成」（+0.05点）、「都市農業の振興と都市農地の保全」（+0.04点）などである。

満足度が低いのは「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」（-0.37点）、「交通安全対策」（-0.25点）、「駅周辺のまちづくり」（-0.22点）、「窓口サービス等の利便性の向上」（-0.20点）などである。（図1-7-6）



図1-7-6 施策の満足度－Ⅲ地区

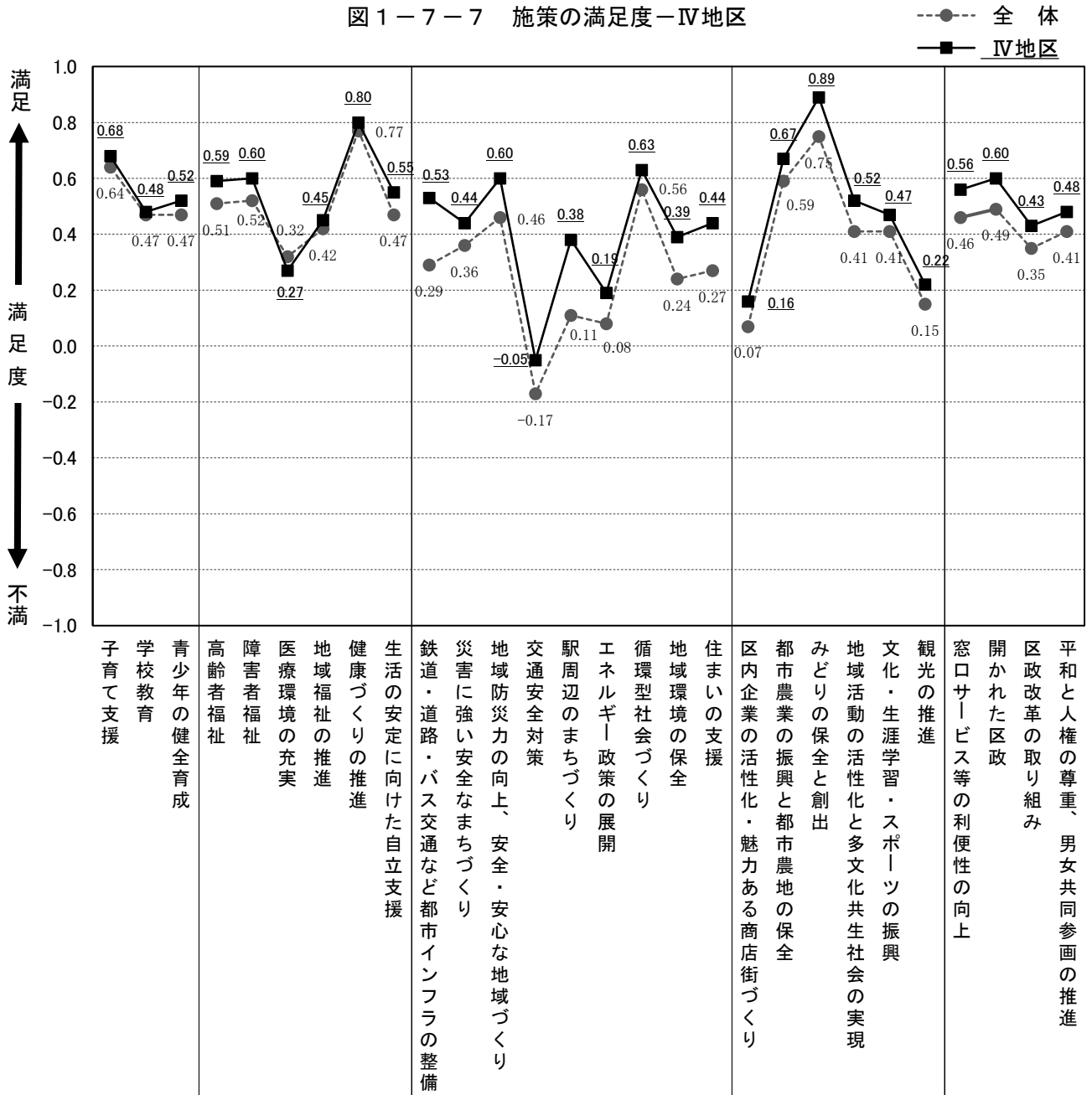


【IV地区（〒179）】

全体と比較して満足度が高いのは「駅周辺のまちづくり」（+0.27点）、「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」（+0.24点）、「住まいの支援」（+0.17点）、「地域環境の保全」（+0.15点）などである。
 満足度が低いのは「医療環境の充実」（-0.05点）などである。（図1-7-7）



図1-7-7 施策の満足度－IV地区



(8) 施策への要望

◇「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」が2割半ば

問8 練馬区の施策（問7の1～28）の中で、あなたが特に力を入れてほしいと思うものを、第1位、第2位、第3位と順位をつけて、その番号を下の該当する欄に記入してください。

図1-8-1 施策への要望



特に力を入れてほしい施策を第1位から第3位まで挙げてもらった。その3つを合わせた累計をみると、「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」(24.1%)が2割半ばと最も多く、次いで「医療環境の充実」(19.5%)、「高齢者福祉」(19.4%)、「子育て支援」(18.3%)、「交通安全対策」(17.7%)などの順となっている。(図1-8-1)

表 1-8-1 施策への要望一過年度比較

	第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位
令和 5 年度	鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備	医療環境の充実	高齢者福祉	子育て支援	交通安全対策
令和 4 年度	鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備	駅周辺のまちづくり	子育て支援	高齢者福祉	医療環境の充実
令和 3 年度	鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備	医療環境の充実	交通安全対策	高齢者福祉	子育て支援
令和 2 年度	鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備	交通安全対策	医療環境の充実	駅周辺のまちづくり	高齢者福祉
令和元年度	鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備	交通安全対策	高齢者福祉	子育て支援	災害に強い安全なまちづくり
平成 30 年度	鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備	交通安全対策	医療環境の充実	高齢者福祉	子育て支援
平成 29 年度	鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備	交通安全対策	子育て支援	高齢者福祉	医療環境の充実
平成 28 年度	鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備	交通安全対策	高齢者福祉	子育て支援	駅周辺のまちづくり
平成 27 年度	鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備	高齢者福祉	交通安全対策	子育て支援	医療環境の充実
平成 26 年度	交通安全対策	高齢者福祉	子育て支援	医療体制の確立	道路や公共交通の整備

過去の調査と比較すると、^{注1}「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」が9年連続で第1位となっている。また、前回調査（令和4年度）で第5位だった「医療環境の充実」が今回調査では第2位となっている。（表1-8-1）

注1) 「医療環境の充実」は平成26年度までは「医療体制の確立」としていた。
「地域福祉の推進」は平成26年度までは「地域で支える福祉」としていた。
「健康づくりの推進」は平成26年度までは「健康づくり」としていた。
「生活の安定に向けた自立支援」は平成26年度までは「生活の安定のための支援」としていた。
「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」は平成26年度までは「道路や公共交通（鉄道やバスなど）の整備」としていた。
「災害に強い安全なまちづくり」は平成26年度までは「災害に強く生活しやすいまちづくり」としていた。
「地域防災力の向上、安全・安心な地域づくり」は平成26年度までは「防犯・防火・防災」としていた。
「住まいの支援」は平成26年度までは「公共住宅の整備や住まいづくりの情報提供」としていた。
「区内企業の活性化・魅力ある商店街づくり」は平成26年度までは「中小企業・商店街の振興」としていた。
「都市農業の振興と都市農地の保全」は平成26年度までは「都市農業の振興・農地の保全」としていた。
「みどりの保全と創出」は平成26年度までは「みどりの保全と創造」としていた。
「地域活動の活性化と多文化共生社会の実現」は平成26年度までは「地域活動の支援」「地域の国際交流」としていた。
「文化・生涯学習・スポーツの振興」は平成26年度までは「文化芸術・生涯学習活動、スポーツ活動の支援」としていた。
「窓口サービス等の利便性の向上」は平成26年度までは「区の窓口サービスの向上」としていた。
「開かれた区政」は平成26年度までは「開かれた行政運営」としていた。
「持続可能な行財政改革の取組」は平成26年度までは「行財政改革の取組」としていた。
「平和と人権の尊重、男女共同参画の推進」は平成26年度までは「平和と人権の尊重や男女共同参画の推進」としていた。

注2) 「駅周辺のまちづくり」「エネルギー政策の展開」は平成27年度から追加された選択肢。

表 1 - 8 - 2 施策への要望—地区別／性別／性・年齢別

(%)

		AA (50%以上)	A (40～50%未満)	B (30～40%未満)	C (20～30%未満)
全 体					・ 鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備 24.1
地区別	I 地区 (千 176)				・ 高齢者福祉 23.5 ・ 子育て支援 21.4
	II 地区 (千 177)				・ 鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備 28.1 ・ 学校教育 21.8 ・ 高齢者福祉 20.5 ・ 医療環境の充実 20.2
	III 地区 (千 178)			・ 鉄道・道路・バス交通 など都市インフラの 整備 35.4	・ 交通安全対策 23.8
	IV 地区 (千 179)				・ 医療環境の充実 22.8
性別	男 性				・ 鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備 29.0
	女 性				・ 鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備 21.5 ・ 医療環境の充実 21.0
性・年齢別	男	18～29歳		・ 学校教育 39.0 ・ 鉄道・道路・バス交通 など都市インフラの 整備 34.1	・ 子育て支援 29.3 ・ 駅周辺のまちづくり 22.0
		30～39歳	・ 子育て支援 44.4 ・ 鉄道・道路・バス交通 など都市インフラの 整備 44.4 ・ 駅周辺のまちづくり 40.0		・ 学校教育 24.4 ・ 交通安全対策 22.2 ・ 災害に強い安全なまちづくり 20.0
		40～49歳	・ 鉄道・道路・バス交通 など都市インフラの 整備 43.2	・ 子育て支援 39.2 ・ 学校教育 39.2	・ 交通安全対策 21.6 ・ 医療環境の充実 20.3
		50～59歳		・ 高齢者福祉 31.4	・ 医療環境の充実 29.1 ・ 鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備 27.9 ・ 駅周辺のまちづくり 27.9 ・ 交通安全対策 22.1
		60～69歳			・ 医療環境の充実 29.1 ・ 鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備 24.4 ・ 高齢者福祉 22.1 ・ 災害に強い安全なまちづくり 22.1
		70歳以上			・ 高齢者福祉 23.3
		18～29歳		・ 鉄道・道路・バス交通 など都市インフラの 整備 33.8 ・ 子育て支援 32.4	・ 駅周辺のまちづくり 22.1
	女	30～39歳	・ 子育て支援 48.8	・ 学校教育 37.8 ・ 鉄道・道路・バス交通 など都市インフラの 整備 31.7	・ 交通安全対策 20.7
		40～49歳	・ 学校教育 40.9		・ 鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備 28.0 ・ 交通安全対策 26.9 ・ 医療環境の充実 21.5 ・ 駅周辺のまちづくり 21.5
		50～59歳			・ 高齢者福祉 28.2 ・ 医療環境の充実 28.2 ・ 災害に強い安全なまちづくり 28.2 ・ 鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備 24.8 ・ 交通安全対策 22.2
		60～69歳		・ 高齢者福祉 36.4	・ 医療環境の充実 25.2
		70歳以上			・ 医療環境の充実 20.5

次に、要望の大きさを、比率に応じてAA（50%以上）、A（40～50%未満）、B（30～40%未満）、C（20～30%未満）の4つのランクに分けて、地区別、性別、性・年齢別に分類した。その結果が表1-8-2である。

地区別にみると、各地区ともにAAランク、Aランクに入る施策はない。

「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」はⅢ地区（〒178）でBランク、Ⅱ地区（〒177）でCランクとなっている。

性別にみると、男女ともAAランク、Aランク、Bランクに入る施策はない。

「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」は男女ともにCランク、「医療環境の充実」は女性でCランクとなっている。

性・年齢別にみると、「子育て支援」は男性30～39歳、女性30～39歳でAランク、男性40～49歳、女性18～29歳でBランク、男性18～29歳でCランクとなっている。

「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」は男性30～39歳、男性40～49歳でAランク、男性18～29歳、女性18～29歳、女性30～39歳でBランクとなっている。

「駅周辺のまちづくり」は男性30～39歳でAランク、男性18～29歳、男性50～59歳、女性18～29歳、女性40～49歳でCランクとなっている。

「学校教育」は女性40～49歳でAランク、男性18～29歳、男性40～49歳、女性30～39歳でBランク、男性30～39歳でCランクとなっている。

「高齢者福祉」は男性50～59歳、女性60～69歳でBランク、男性60～69歳、男性70歳以上、女性50～59歳でCランクとなっている。

「交通安全対策」は男性30～39歳、男性40～49歳、男性50～59歳、女性30～39歳、女性40～49歳、女性50～59歳でCランクとなっている。

「医療環境の充実」は男性40～49歳、男性50～59歳、男性60～69歳、女性40～49歳、女性50～59歳、女性60～69歳、女性70歳以上でCランクとなっている。

「災害に強い安全なまちづくり」は男性30～39歳、男性60～69歳、女性50～59歳でCランクとなっている。（表1-8-2）

《 施策の満足度・要望（住みよいー満足度評価） 》

練馬区の住みごころ（問1・67ページ参照）の評価は、28項目の施策の満足度（問7・92～94ページ参照）および施策への要望（問8・104ページ参照）とどのような関係があるのかをみる。

練馬区が「住みよい」と答えた方（456人）の施策の満足度（問7）をみると、「満足」および「どちらかという満足」の2項目を合わせた『満足評価』と、「不満」および「どちらかという不満」の2項目を合わせた『不満評価』のそれぞれ上位5項目は、以下のようになっている。（図1-8-2）

『満足評価』上位5項目		『不満評価』上位5項目	
①健康づくりの推進	(85.1%)	①交通安全対策	(42.3%)
②みどりの保全と創出	(83.8%)	②区内企業の活性化・魅力ある 商店街づくり	(31.8%)
③循環型社会づくり	(79.6%)	③エネルギー政策の展開	(31.1%)
④高齢者福祉	(78.9%)	④駅周辺のまちづくり	(30.9%)
⑤窓口サービス等の利便性 の向上	(78.1%)	⑤観光の推進	(28.1%)

図 1-8-2 練馬区の住みごこちが「住みよい」と答えた方の施策の満足度

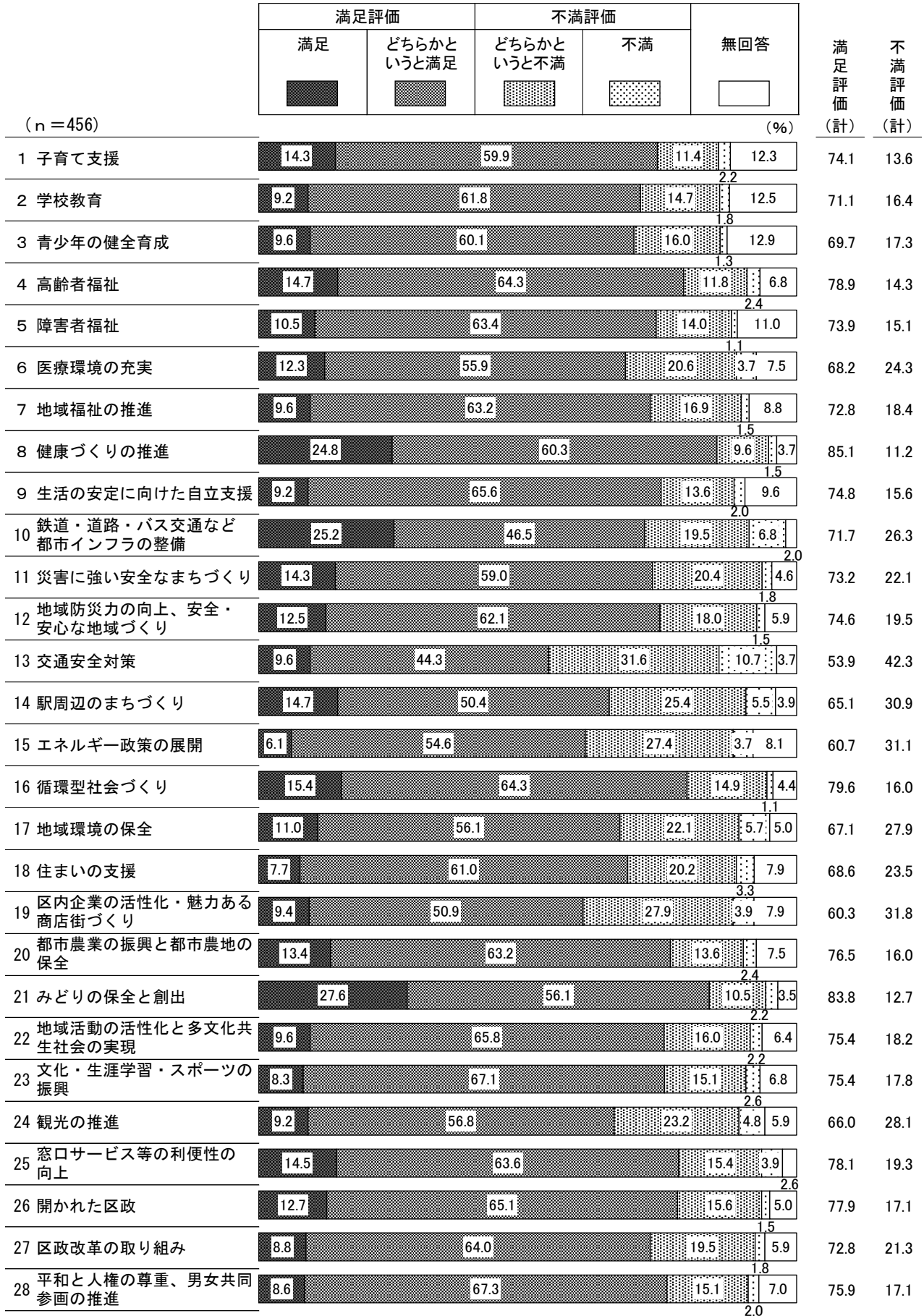
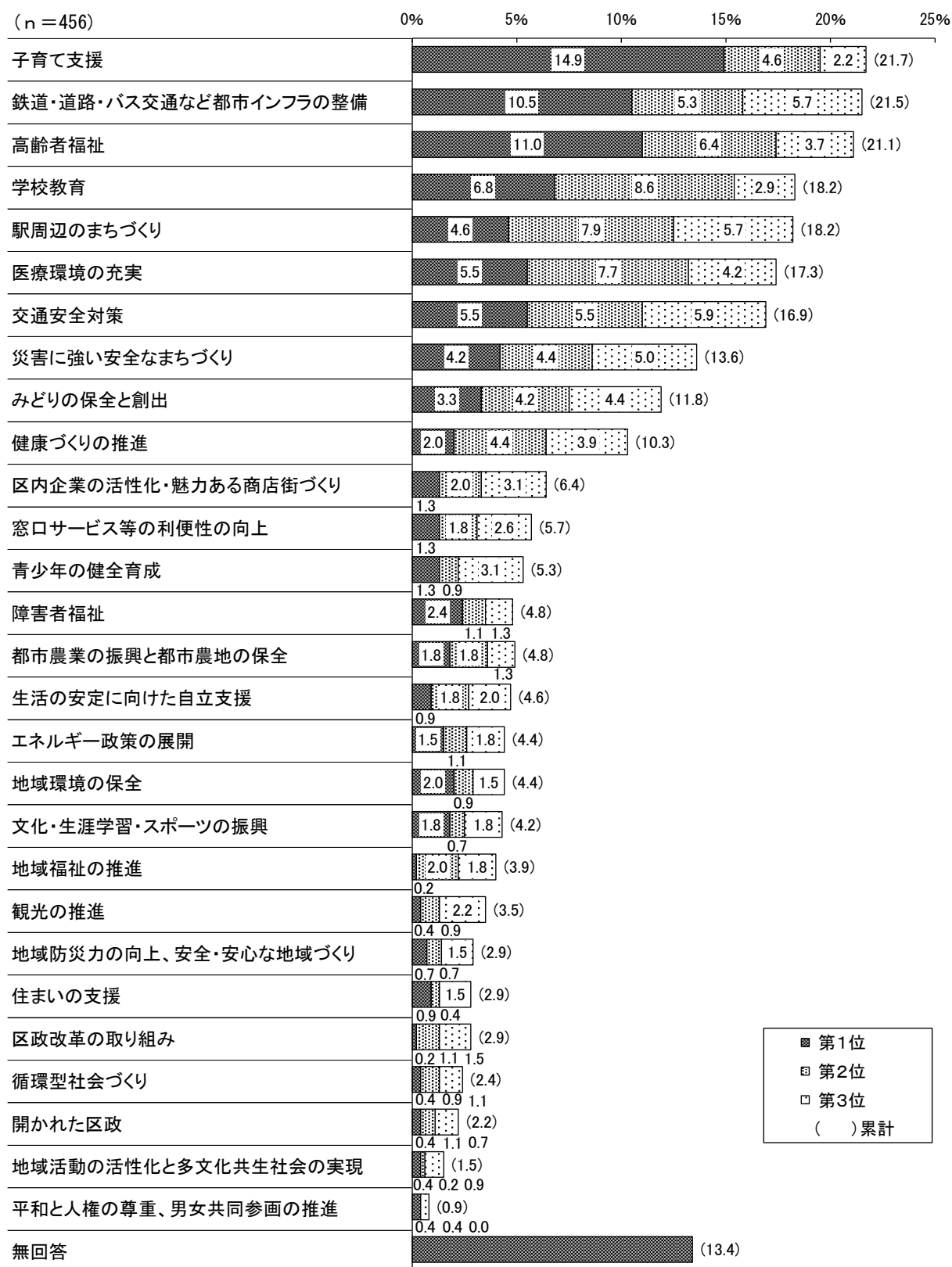


図 1-8-3 練馬区の住みごちが「住みよい」と答えた方の施策への要望



練馬区が「住みよい」と答えた方（456人）の施策への要望（問8）をみると、第1位から第3位までを合わせた累計は、「子育て支援」（21.7%）が2割を超えて最も多く、次いで「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」（21.5%）「高齢者福祉」（21.1%）、「学校教育」、「駅周辺のまちづくり」（いずれも18.2%）などの順となっている。（図1-8-3）

《 施策の満足度・要望（住みにくいー満足度評価） 》

次に、練馬区が「あまり住みよくない」または「住みにくい」と答えた方（34人）の施策の満足度（問7）をみると、『満足評価』と『不満評価』のそれぞれ上位5項目は、以下のようになっている。（図1-8-4）

『満足評価』上位5項目		『不満評価』上位5項目	
①循環型社会づくり	(50.0%)	①駅周辺のまちづくり	(79.4%)
②都市農業の振興と都市農地の 保全	(47.1%)	②医療環境の充実	(70.6%)
③高齢者福祉	(44.1%)	②交通安全対策	(70.6%)
③みどりの保全と創出	(44.1%)	②区内企業の活性化・魅力ある 商店街づくり	(70.6%)
⑤区政改革の取り組み	(41.2%)	⑤鉄道・道路・バス交通など 都市インフラの整備	(67.6%)
		⑤エネルギー政策の展開	(67.6%)

図1-8-4 練馬区の住みごちが「あまり住みよくない」「住みにくい」と答えた方の施策の満足度

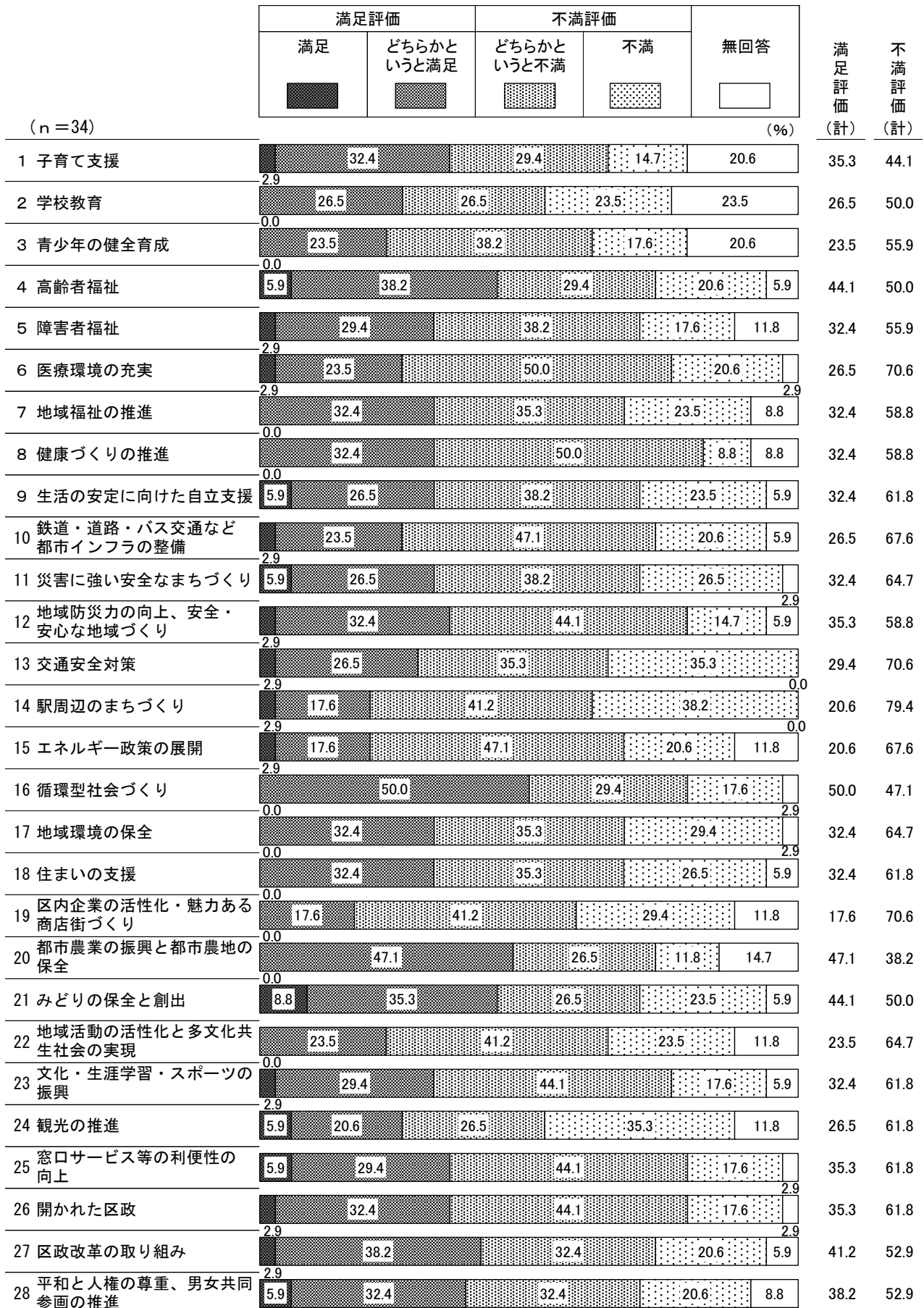
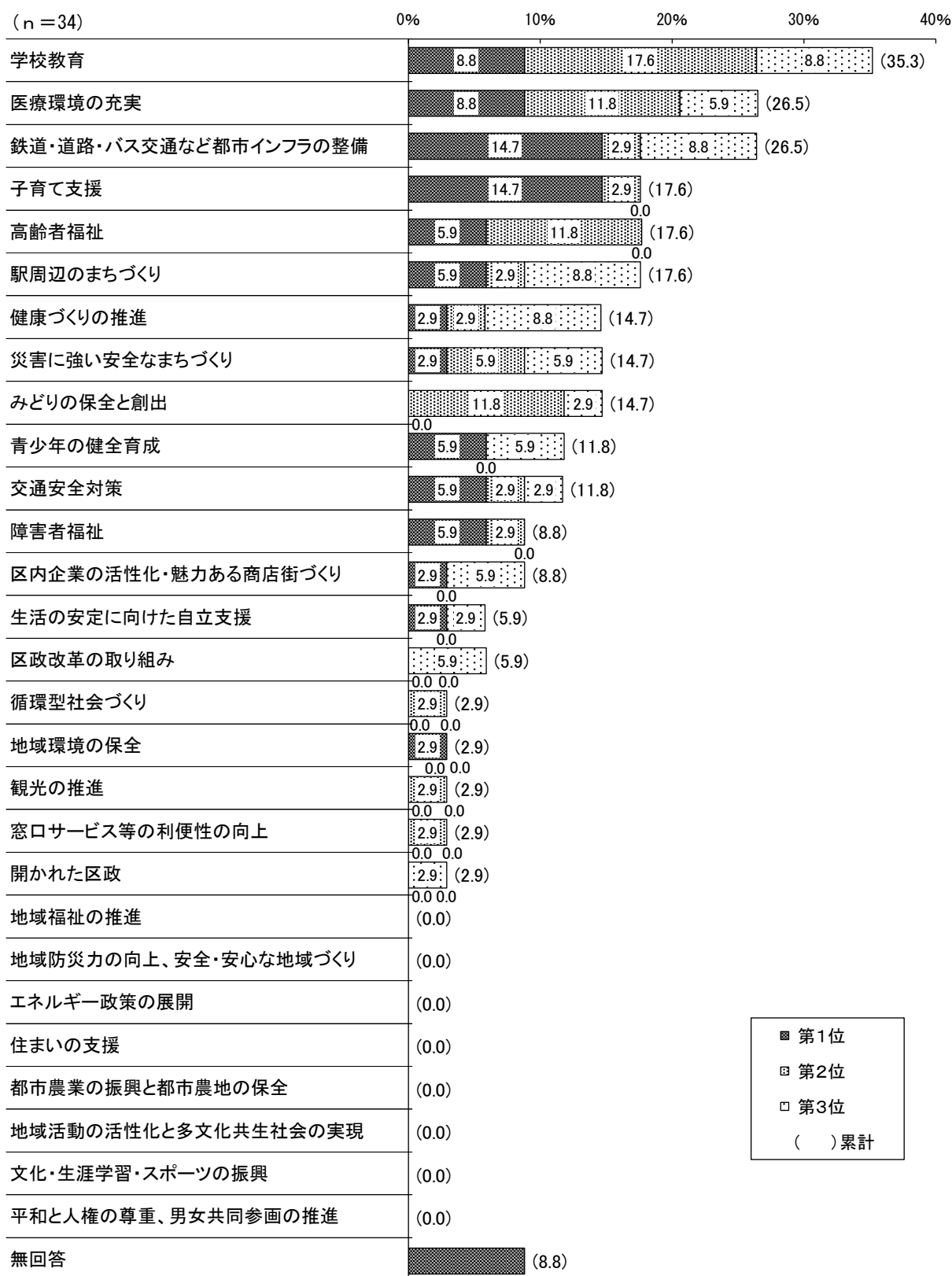


図1-8-5 練馬区の住みごちが「あまり住みよくない」「住みにくい」と答えた方の施策への要望



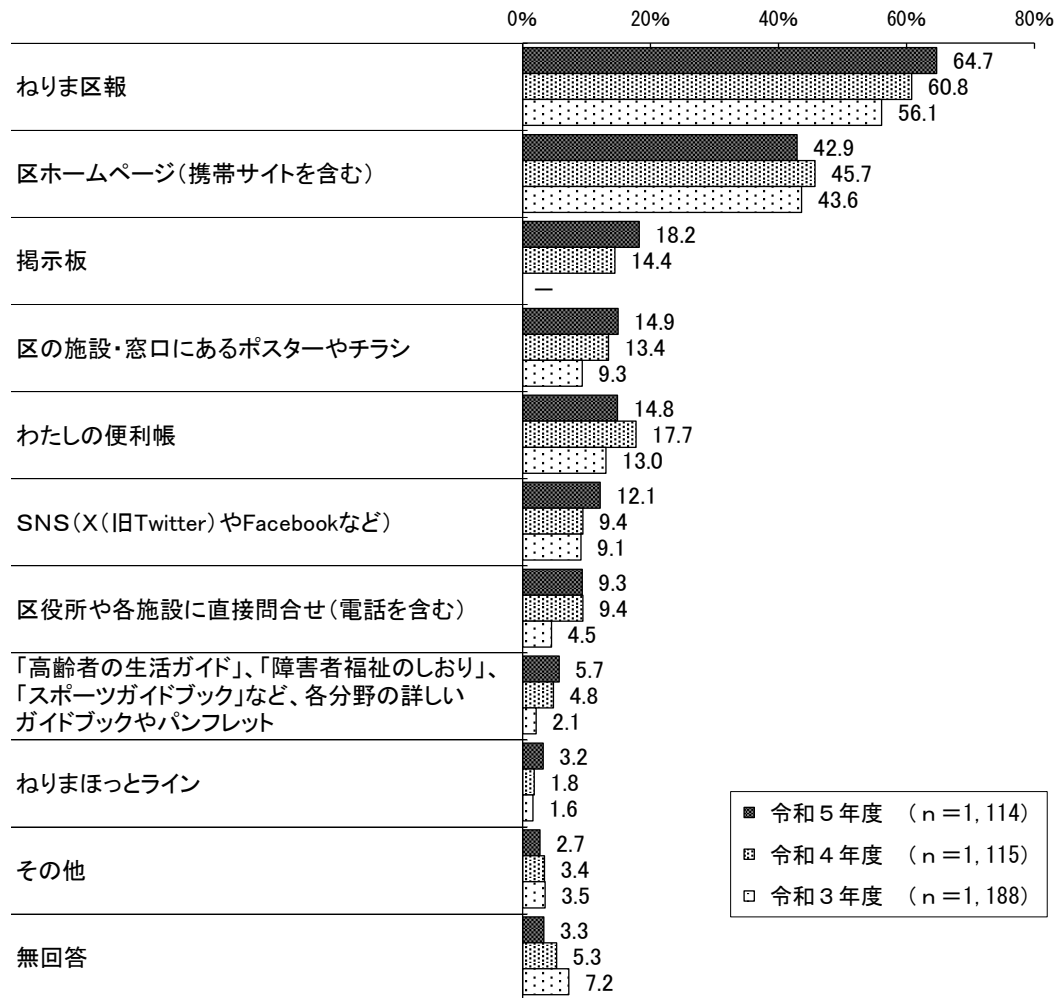
練馬区が「あまり住みよくない」または「住みにくい」と答えた方(34人)の施策への要望(問8)をみると、第1位から第3位までを合わせた累計は、「学校教育」(35.3%)が3割半ばと最も多く、次いで「医療環境の充実」、「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」(いずれも26.5%)、「子育て支援」、「高齢者福祉」、「駅周辺のまちづくり」(いずれも17.6%)などの順となっている。(図1-8-5)

(9) 区政情報の入手先

◇「ねりま区報」が6割半ば

問12 あなたは、区政の情報を主に何から入手していますか。(〇は3つまで)

図1-9-1 区政情報の入手先



注1) 「SNS(X(旧Twitter)やFacebookなど)」、「『高齢者の生活ガイド』、『障害者福祉のしおり』、『スポーツガイドブック』など、各分野の詳しいガイドブックやパンフレット」は令和3年度から追加された選択肢。

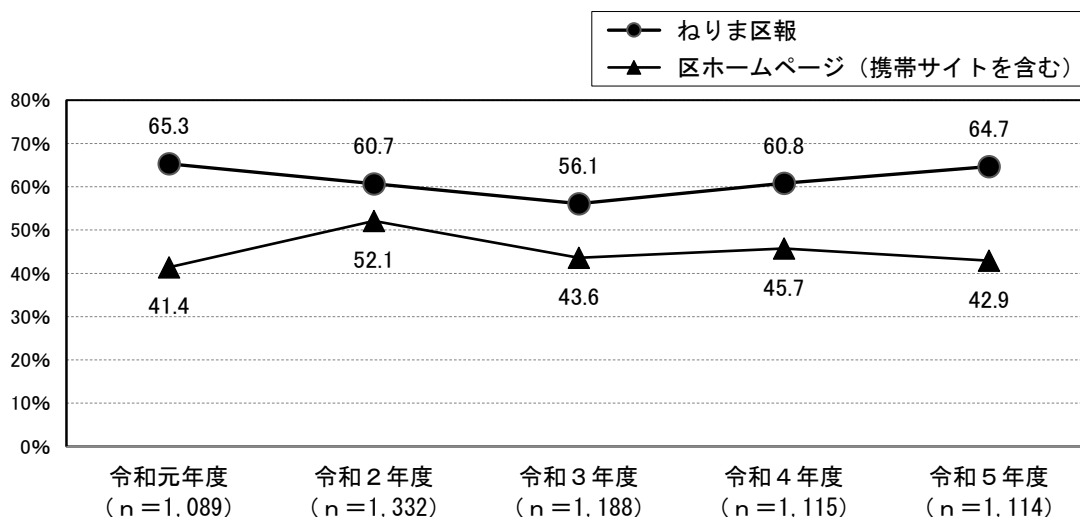
注2) 「掲示板」は令和4年度から追加された選択肢。

注3) 令和3年度までは、選択可能数を2つまでとしていた。

区政の情報を主に何から入手しているか聞いたところ、「ねりま区報」(64.7%)が6割半ばと最も多く、次いで「区ホームページ(携帯サイトを含む)」(42.9%)、「掲示板」(18.2%)、「区の施設・窓口にあるポスターやチラシ」(14.9%)などの順となっている。

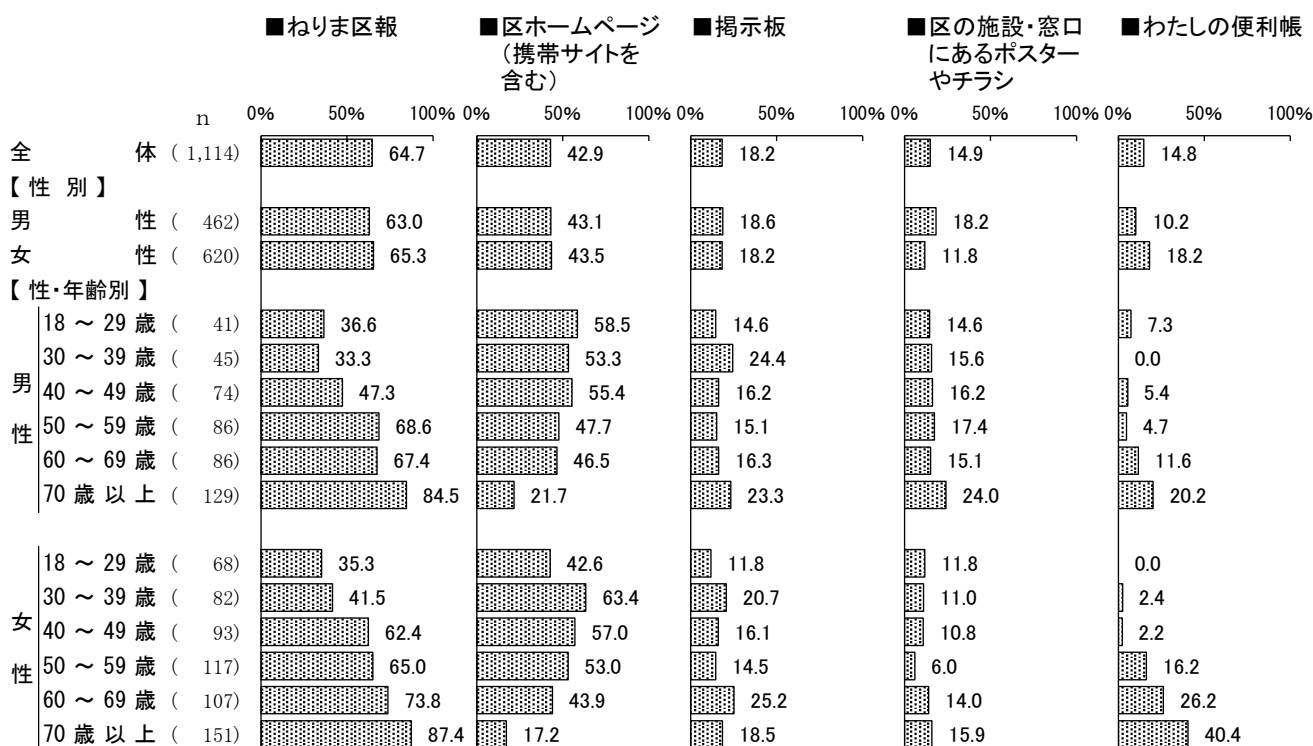
過去の調査と比較すると、前回調査(令和4年度)より「ねりま区報」は3.9ポイント、「掲示板」は3.8ポイント、それぞれ増加している。一方、「わたしの便利帳」は前回調査(令和4年度)より2.9ポイント、「区ホームページ(携帯サイトを含む)」は2.8ポイント、それぞれ減少している。(図1-9-1)

図1-9-2 区政情報の入手先（「ねりま区報」、「区ホームページ（携帯サイトを含む）」）
一過年度比較



「ねりま区報」と「区ホームページ（携帯サイトを含む）」を過去の調査と比較すると、「ねりま区報」は前回調査（令和4年度）より3.9ポイント増加し、「区ホームページ（携帯サイトを含む）」は前回調査（令和4年度）より2.8ポイント減少している。（図1-9-2）

図1-9-3 区政情報の入手先—性別／性・年齢別（上位5項目）



性別にみると、「わたしの便利帳」は女性の方が男性より8.0ポイント高くなっている。一方、「区の施設・窓口にあるポスターやチラシ」は男性の方が女性より6.4ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「ねりま区報」は男女ともにおおむね年代が上がるほど割合が多くなっており、女性70歳以上で9割近くと多くなっている。「区ホームページ（携帯サイトを含む）」は女性30～39歳で6割を超えて多くなっている。「わたしの便利帳」は女性70歳以上で4割と多くなっている。（図1-9-3）

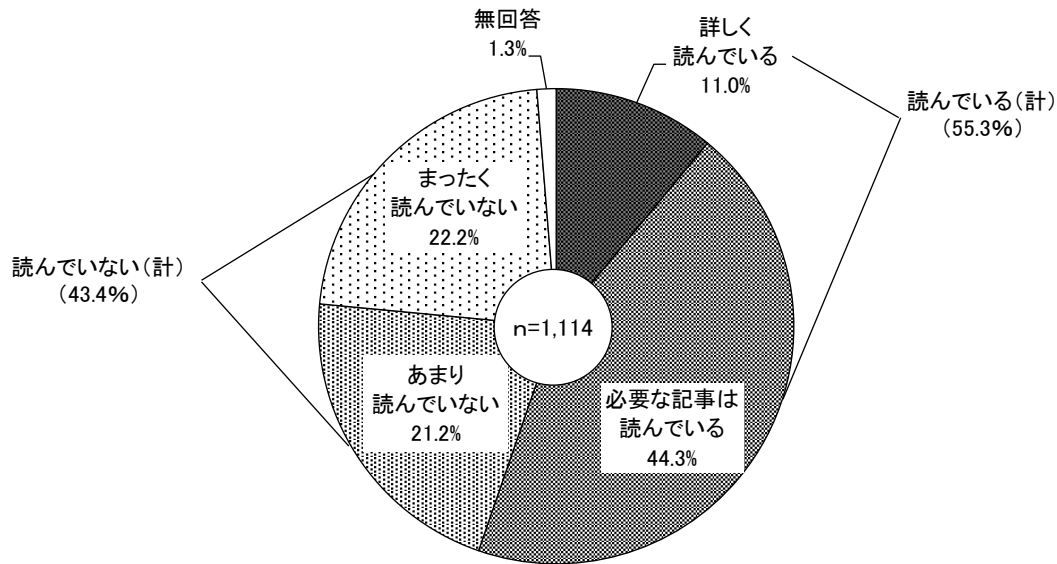
(10) 『ねりま区報』の閲読度

◇『読んでいる』が5割半ば

問13 あなたは、『ねりま区報』をどの程度読んでいますか。(○は1つ)

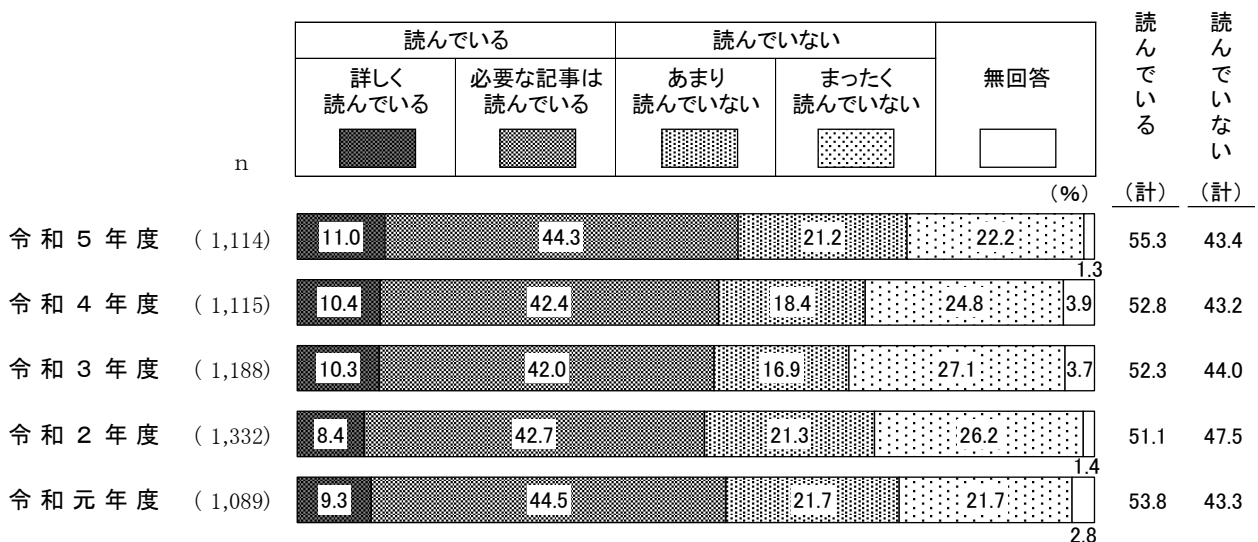
※『ねりま区報』は、毎月1日・11日・21日の月3回発行しています。日刊6紙(朝日・産経・東京・日経・毎日・読売)に折り込んでいるほか、駅・金融機関・郵便局・公衆浴場・薬局・ファミリーマート・セブンイレブン・西友・ライフ・サミット・ヤマダデンキ・コジマ・ルネサンスや区立施設に置いています。日刊6紙を購読していない世帯で、前記配布場所での入手が困難な方には送付もしています。また、区ホームページやスマートフォンからもご覧になることができます。

図1-10-1 『ねりま区報』の閲読度



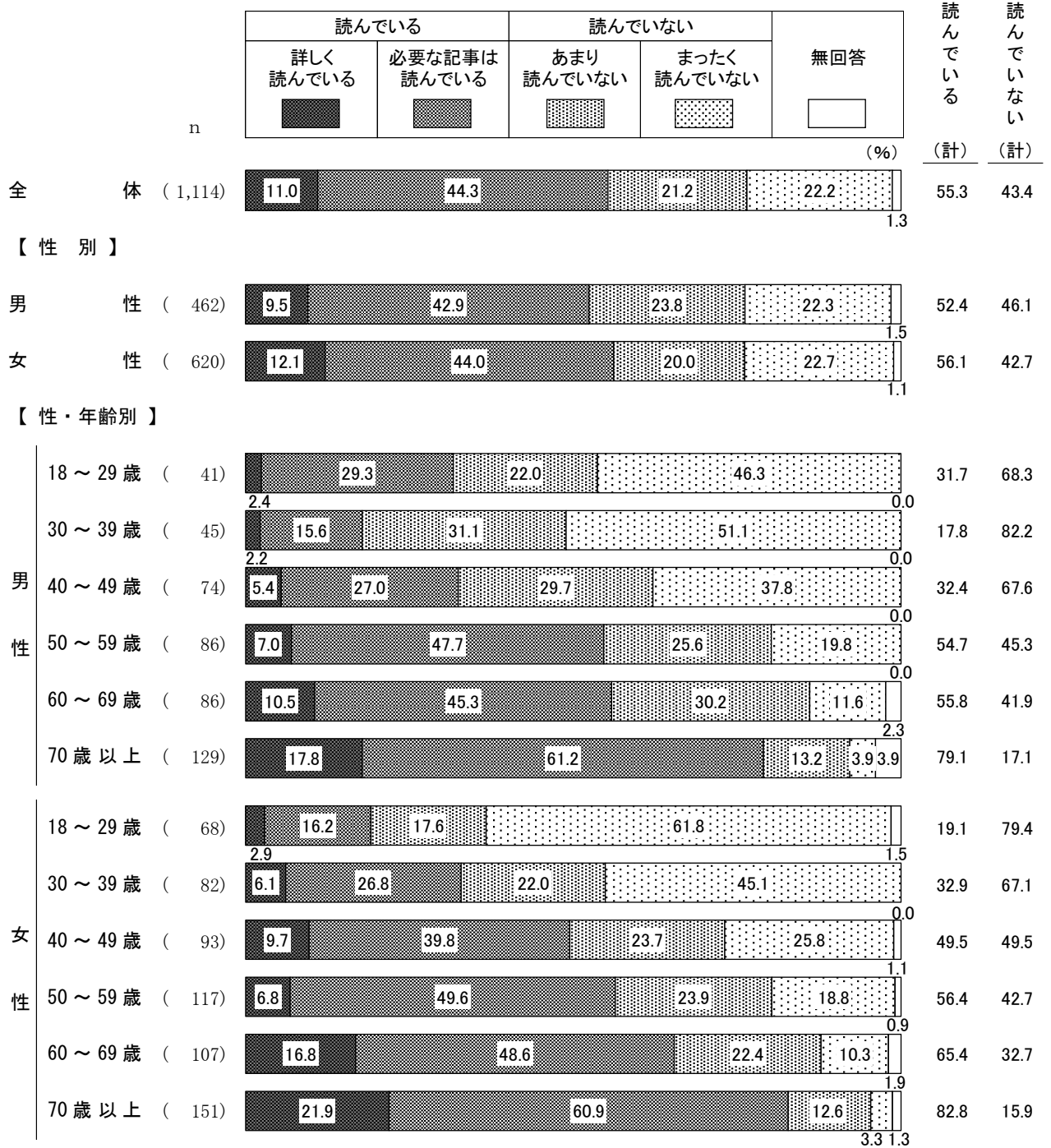
『ねりま区報』をどの程度読んでいるか聞いたところ、「詳しく読んでいる」(11.0%)と「必要な記事は読んでいる」(44.3%)を合わせた『読んでいる』(55.3%)が5割半ばとなっている。一方、「あまり読んでいない」(21.2%)と「まったく読んでいない」(22.2%)を合わせた『読んでいない』(43.4%)は4割を超えている。(図1-10-1)

図1-10-2 『ねりま区報』の閲読度一過年度比較



過去の調査と比較すると、『読んでいる』は前回調査(令和4年度)より2.5ポイント増加している。(図1-10-2)

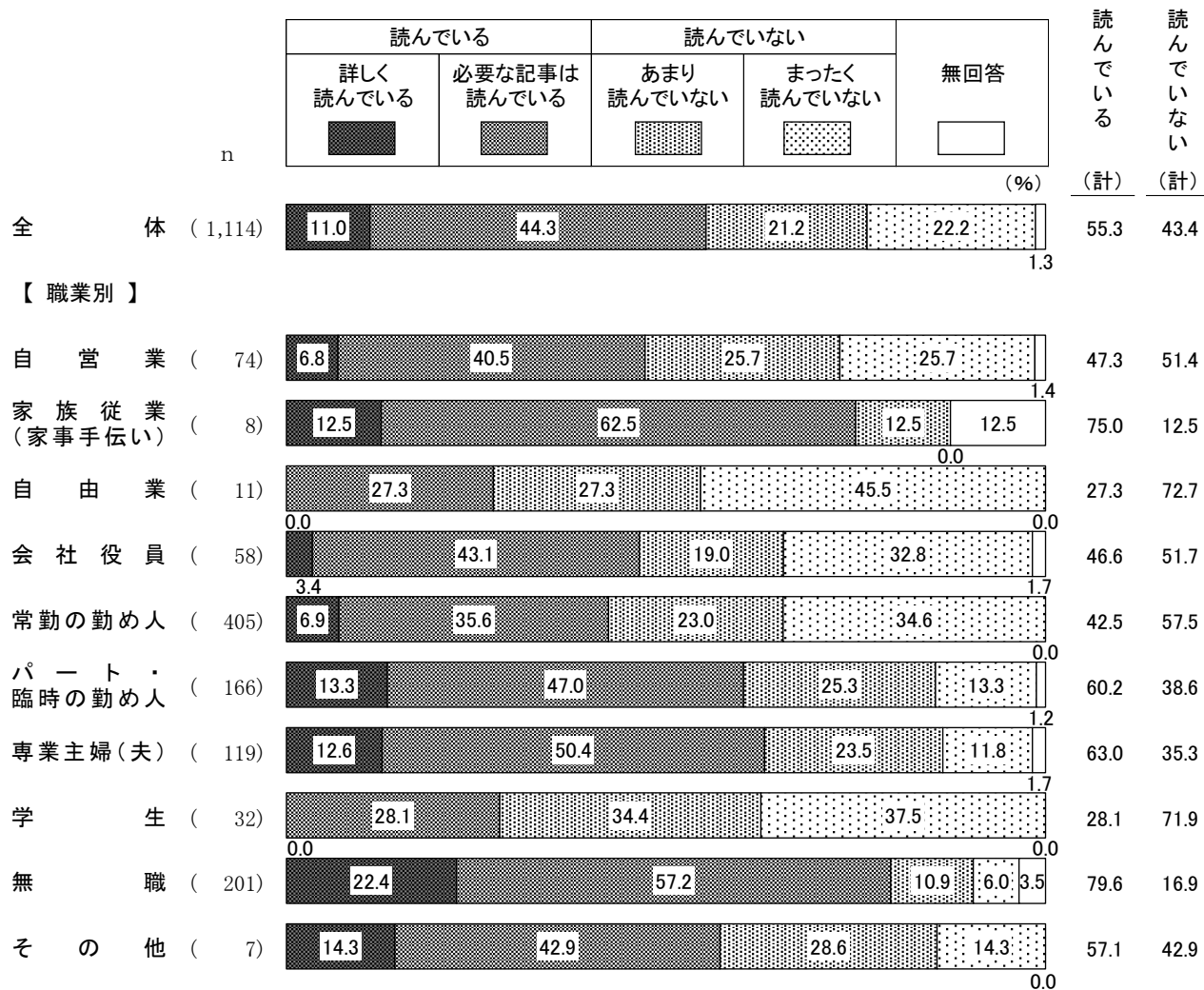
図1-10-3 『ねりま区報』の読読度—性別／性・年齢別



性別にみると、『読んでいる』は女性の方が男性より3.7ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、『読んでいる』は男女ともにおおむね年代が上がるほど割合が多くなっており、女性70歳以上で8割を超えている。一方、『読んでいない』は男性30～39歳で8割を超えて多くなっている。(図1-10-3)

図 1-10-4 『ねりま区報』の閲読度—職業別



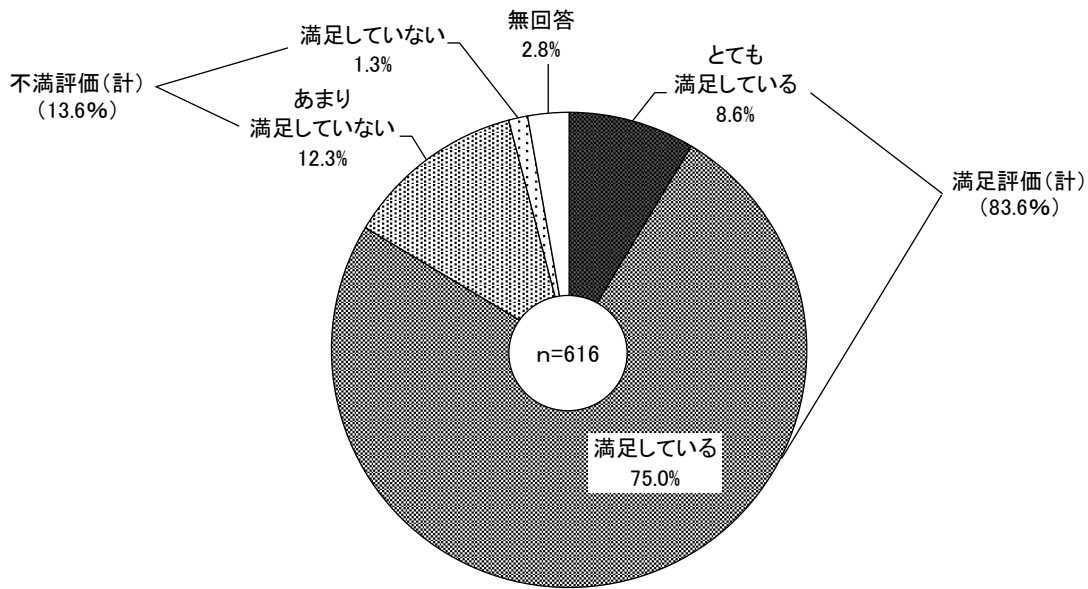
職業別にみると、『読んでいる』は無職で8割と多くなっている。(図 1-10-4)

(10-1) 『ねりま区報』の満足度

◇『満足評価』が8割を超える

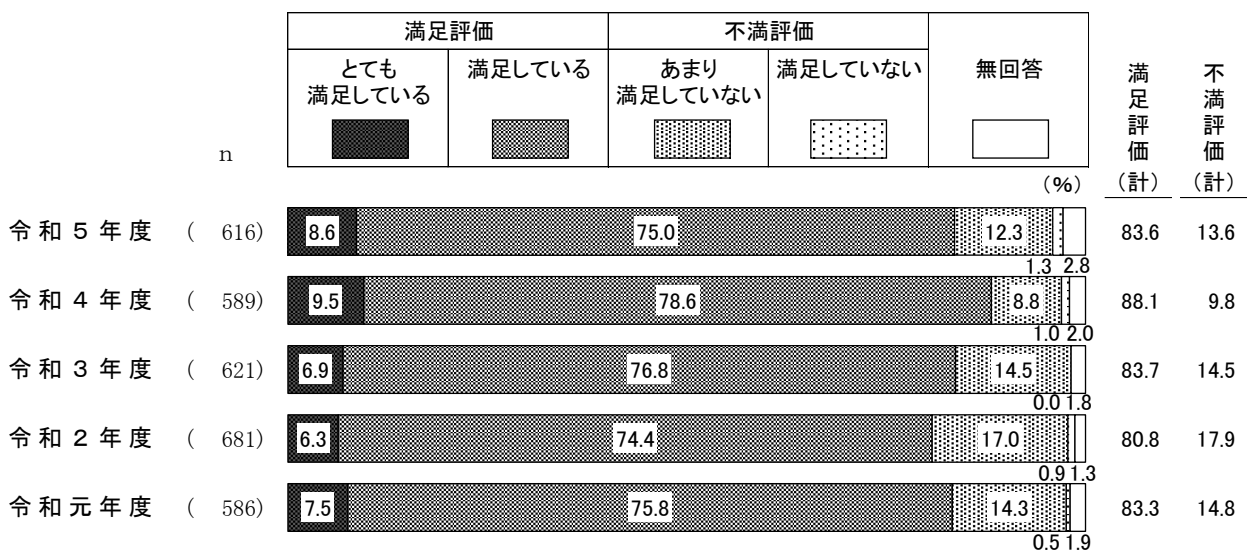
【問13で「1 詳しく読んでいる」または「2 必要な記事は読んでいる」と答えた方へ】
 問13-1 あなたは、『ねりま区報』にどの程度満足していますか。(○は1つ)

図1-10-5 『ねりま区報』の満足度



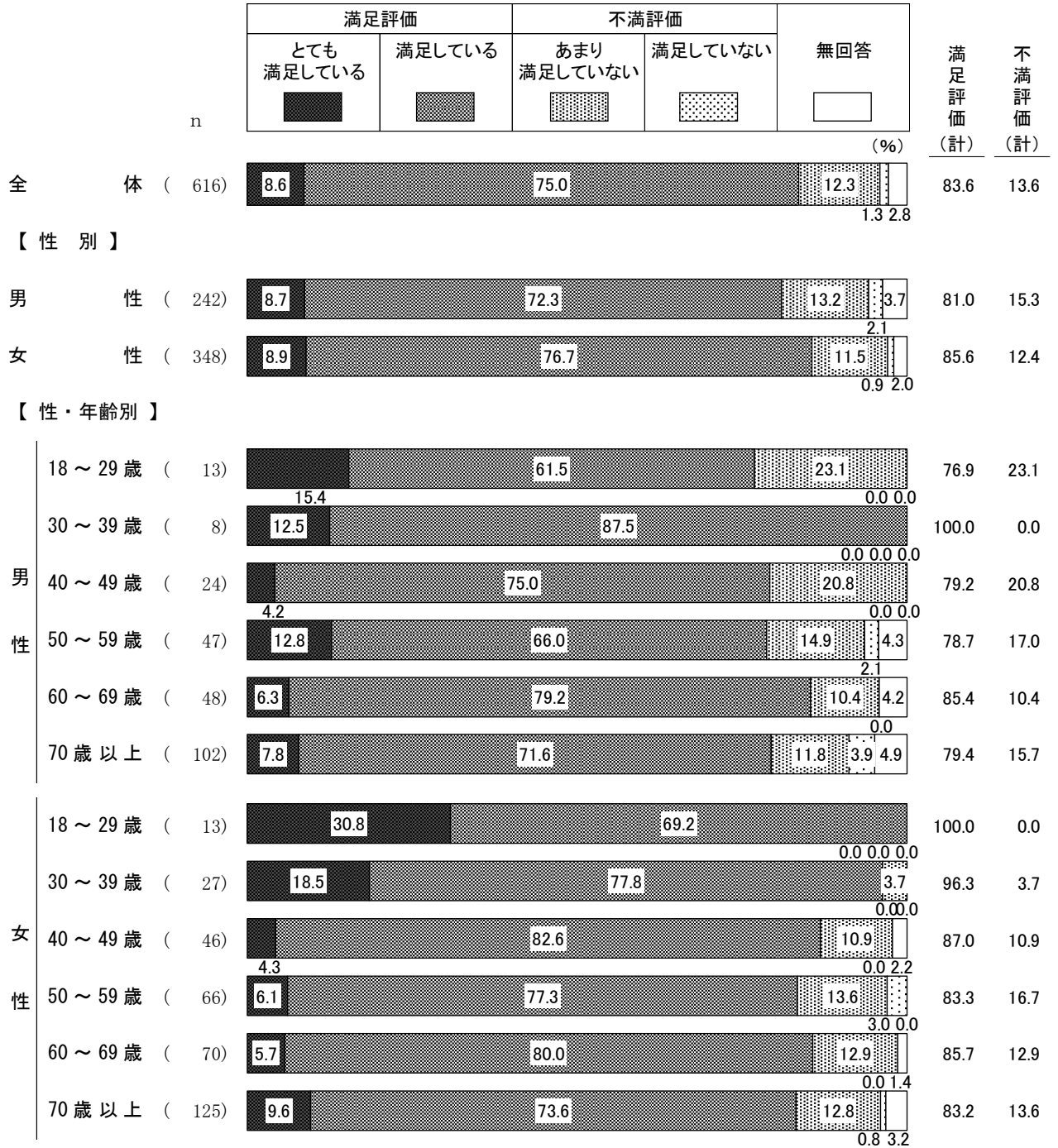
『ねりま区報』を「詳しく読んでいる」または「必要な記事は読んでいる」と答えた方(616人)に、『ねりま区報』にどの程度満足しているか聞いたところ、「とても満足している」(8.6%)と「満足している」(75.0%)を合わせた『満足評価』(83.6%)が8割を超えている。一方、「あまり満足していない」(12.3%)と「満足していない」(1.3%)を合わせた『不満評価』(13.6%)は1割を超えている。(図1-10-5)

図1-10-6 『ねりま区報』の満足度一過年度比較



過去の調査と比較すると、『満足評価』は前回調査(令和4年度)より4.5ポイント減少している。(図1-10-6)

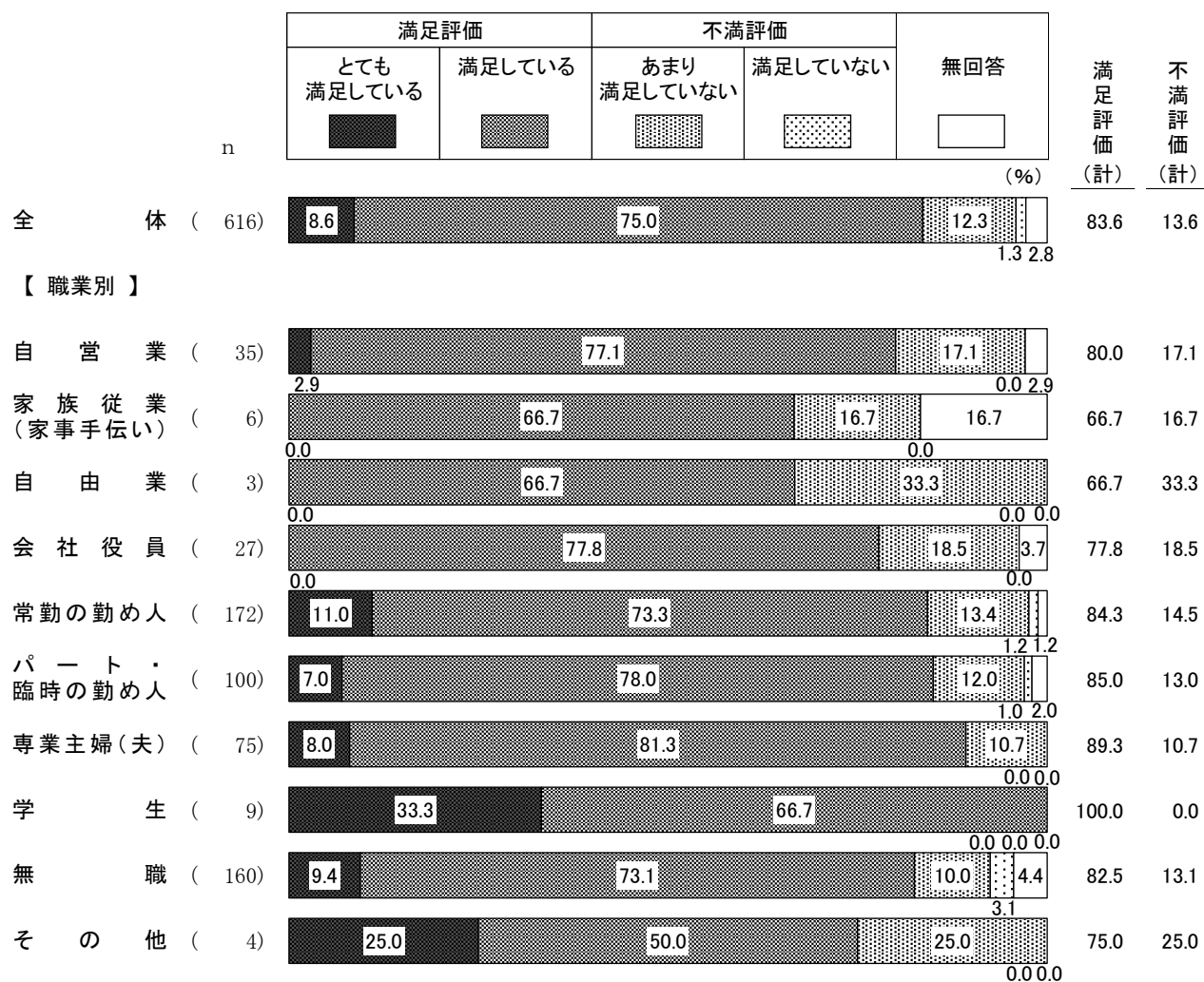
図1-10-7 『ねりま区報』の満足度－性別／性・年齢別



性別にみると、『満足評価』は女性の方が男性より4.6ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、『満足評価』は女性40～49歳で9割近くと多くなっている。一方、『不満評価』は男性50～59歳、女性50～59歳で2割近くと多くなっている。(図1-10-7)

図 1-10-8 『ねりま区報』の満足度—職業別



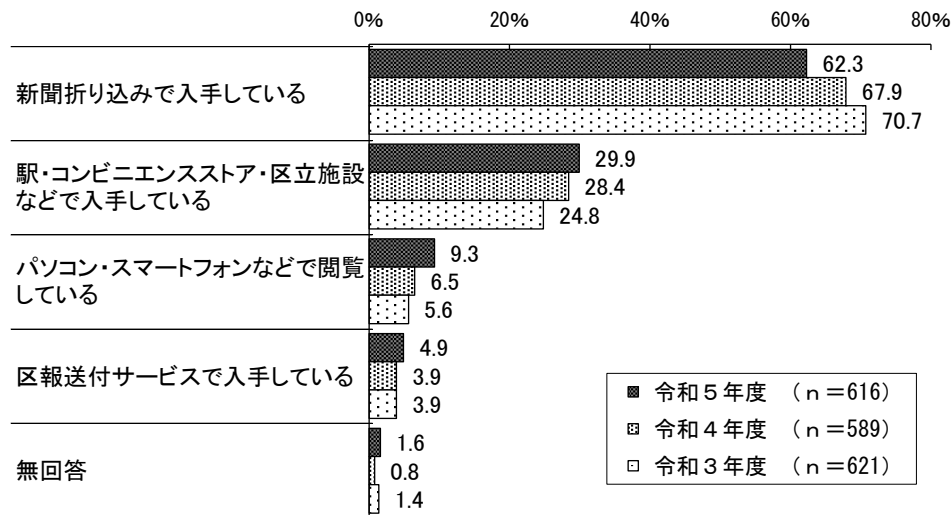
職業別にみると、『満足評価』は専業主婦（夫）で約9割と多くなっている。（図 1-10-8）

(10-2) 『ねりま区報』の入手手段

◇「新聞折り込みで入手している」が6割を超える

【問13で「1 詳しく読んでいる」または「2 必要な記事は読んでいる」と答えた方へ】
 問13-2 『ねりま区報』をどのような形で入手してご覧になっていますか。
 (〇はいくつでも)

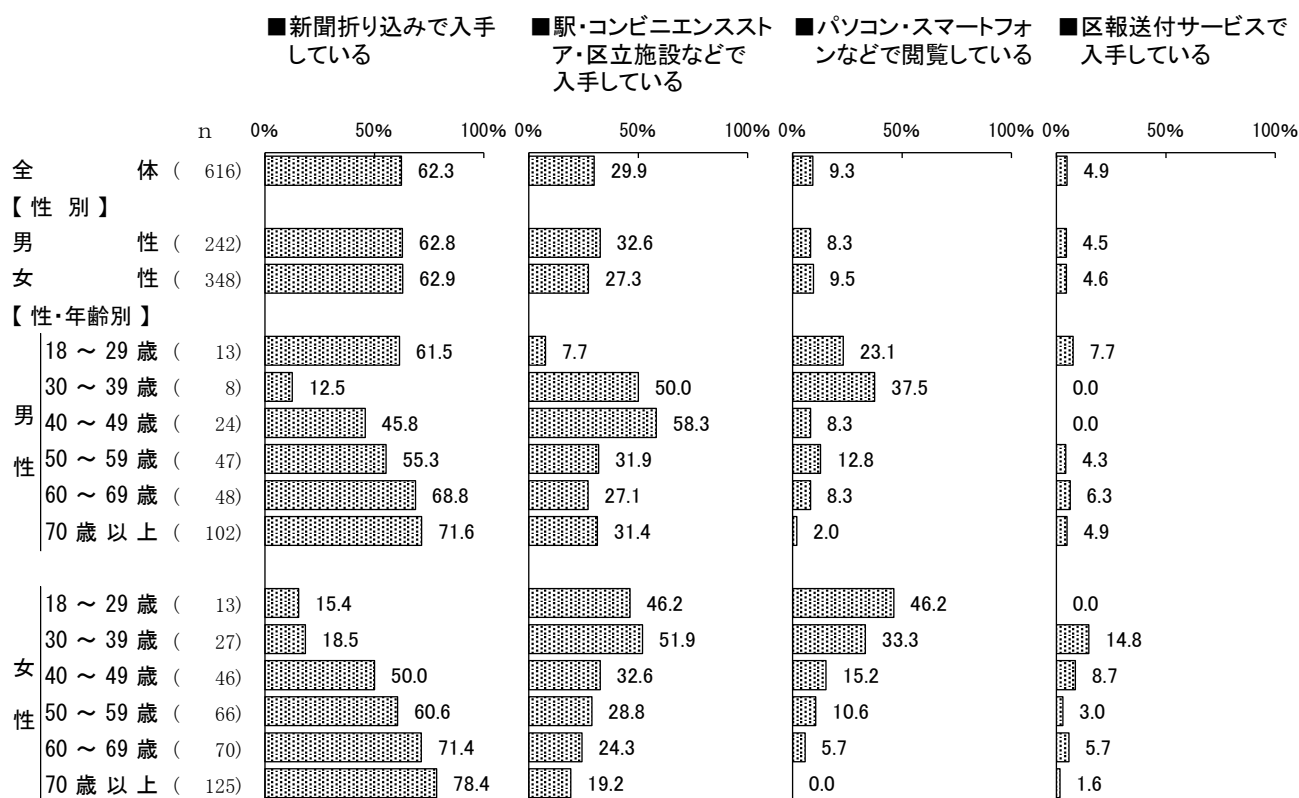
図1-10-9 『ねりま区報』の入手手段



『ねりま区報』を「詳しく読んでいる」または「必要な記事は読んでいる」と答えた方(616人)に、『ねりま区報』の入手手段を聞いたところ、「新聞折り込みで入手している」(62.3%)が6割を超えて最も多く、次いで「駅・コンビニエンスストア・区立施設などで入手している」(29.9%)、「パソコン・スマートフォンなどで閲覧している」(9.3%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、「新聞折り込みで入手している」は前回調査(令和4年度)より5.6ポイント減少している。(図1-10-9)

図 1-10-10 『ねりま区報』の入手手段—性別／性・年齢別



性別にみると、「駅・コンビニエンスストア・区立施設などで入手している」は男性の方が女性より5.3ポイント高くなっている。

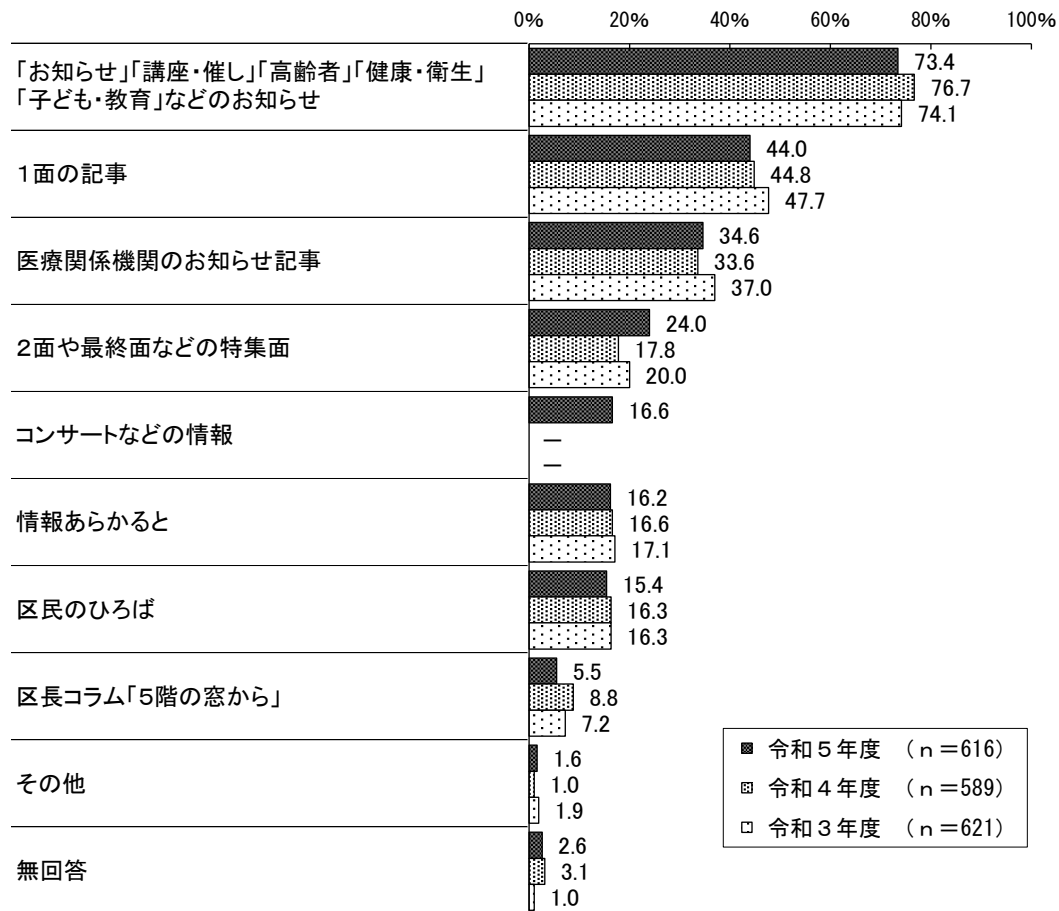
性・年齢別にみると、「新聞折り込みで入手している」は女性70歳以上で8割近くと多くなっている。(図1-10-10)

(10-3) 『ねりま区報』でよく閲覧している記事

◇ 「『お知らせ』『講座・催し』『高齢者』『健康・衛生』『子ども・教育』などのお知らせ」が7割を超える

【問13で「1 詳しく読んでいる」または「2 必要な記事は読んでいる」と答えた方へ】
問13-3 『ねりま区報』でよくご覧になる記事はどこですか。(〇は3つまで)

図1-10-11 『ねりま区報』でよく閲覧している記事

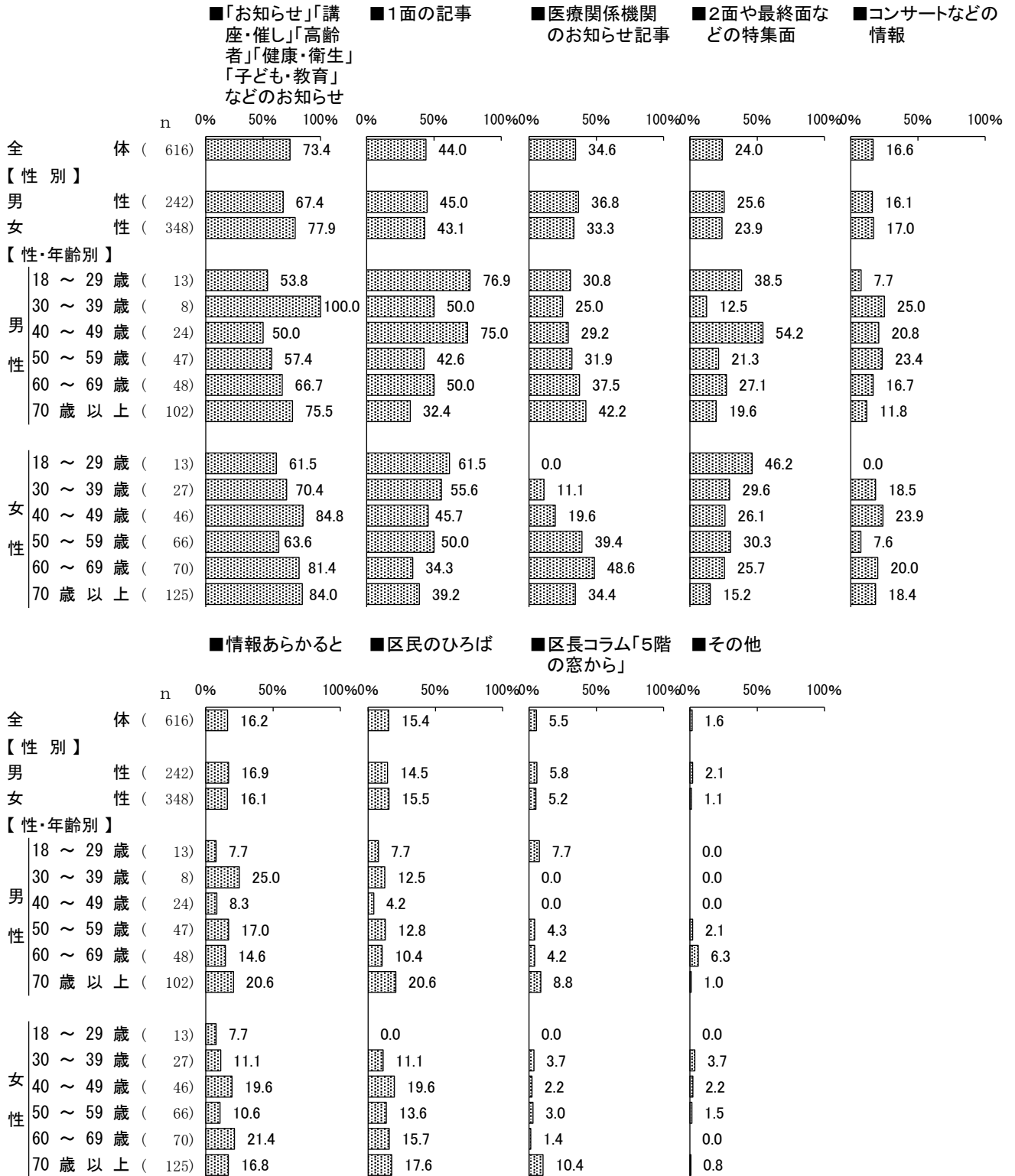


注1) 「コンサートなどの情報」は令和5年度から追加された選択肢。

『ねりま区報』を「詳しく読んでいる」または「必要な記事は読んでいる」と答えた方(616人)に、『ねりま区報』でよく閲覧している記事を聞いたところ、「『お知らせ』『講座・催し』『高齢者』『健康・衛生』『子ども・教育』などのお知らせ」(73.4%)が7割を超えて最も多く、次いで「1面の記事」(44.0%)、「医療関係機関のお知らせ記事」(34.6%)、「2面や最終面などの特集面」(24.0%)などの順となっている。

過去の調査と比較すると、「2面や最終面などの特集面」は前回調査(令和4年度)より6.2ポイント増加している。(図1-10-11)

図 1-10-12 『ねりま区報』でよく閲覧している記事－性別／性・年齢別



性別にみると、「『お知らせ』『講座・催し』『高齢者』『健康・衛生』『子ども・教育』などのお知らせ」は女性の方が男性より10.5ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「『お知らせ』『講座・催し』『高齢者』『健康・衛生』『子ども・教育』などのお知らせ」は女性40～49歳、女性70歳以上で8割半ばと多くなっている。

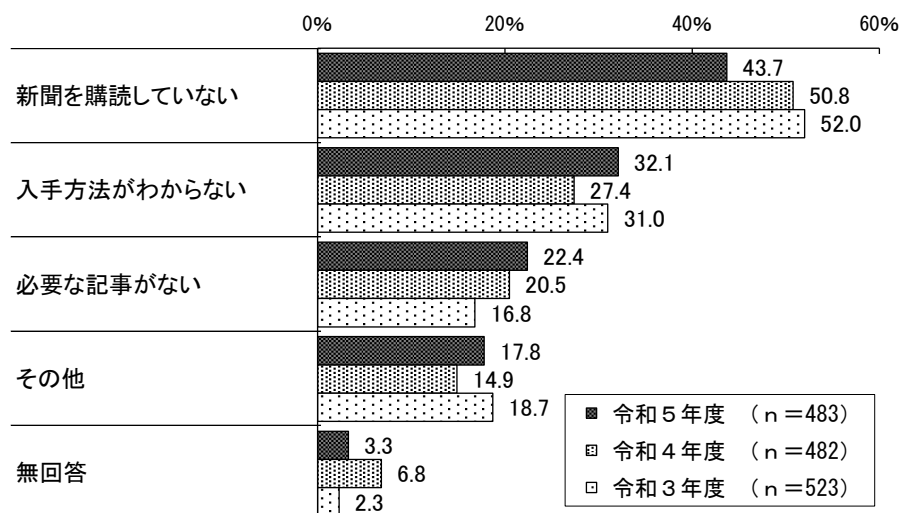
(図 1-10-12)

(10-4) 『ねりま区報』を読んでいない理由

◇「新聞を購読していない」が4割を超える

【問13で「3 あまり読んでいない」または「4 まったく読んでいない」と答えた方へ】
 問13-4 あなたが、『ねりま区報』を読んでいない理由はなぜですか。
 (〇はいくつでも)

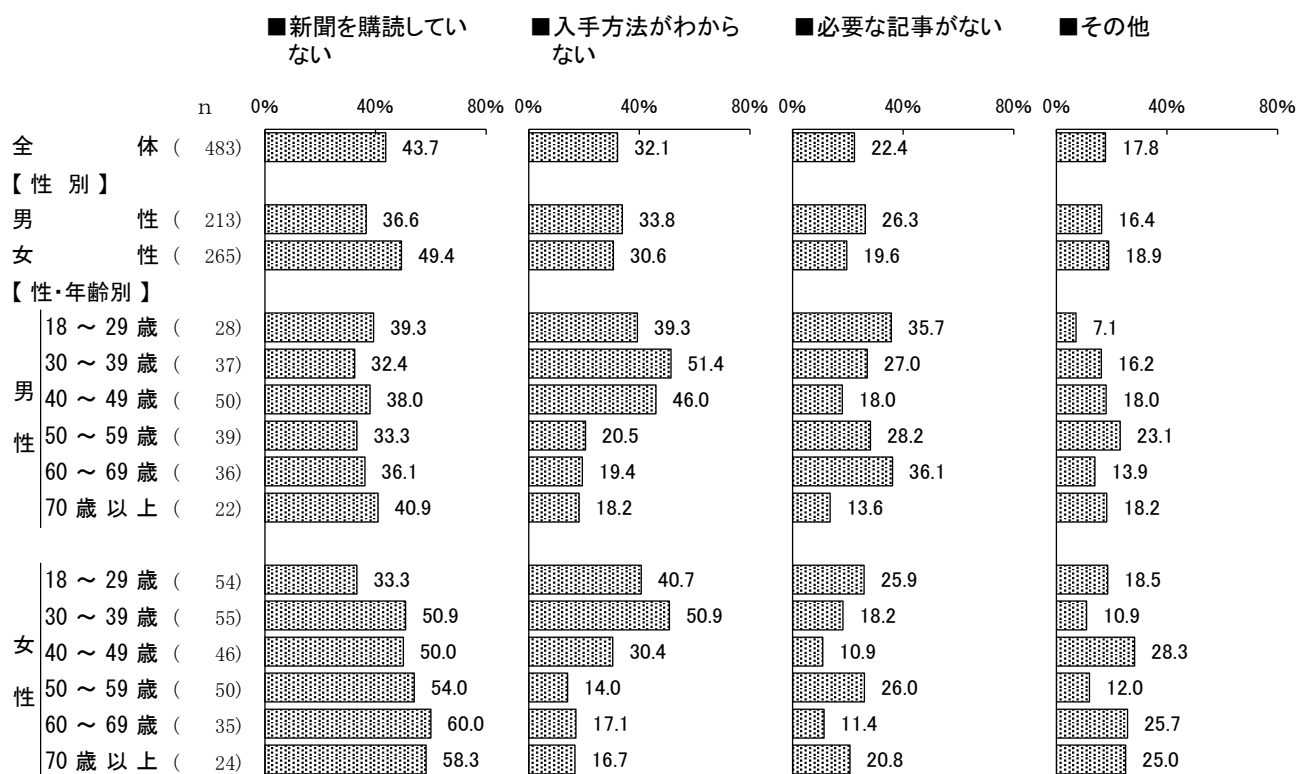
図1-10-13 『ねりま区報』を読んでいない理由



『ねりま区報』を「あまり読んでいない」または「まったく読んでいない」と答えた方(483人)に、その理由を聞いたところ、「新聞を購読していない」(43.7%)が4割を超えて最も多く、次いで「入手方法がわからない」(32.1%)、「必要な記事がない」(22.4%)などの順となっている。

過去の調査と比較すると、「新聞を購読していない」は前回調査(令和4年度)より7.1ポイント減少している。一方、「入手方法がわからない」は前回調査(令和4年度)より4.7ポイント増加している。(図1-10-13)

図1-10-14 『ねりま区報』を読んでいない理由—性別／性・年齢別



性別にみると、「新聞を購読していない」は女性の方が男性より12.8ポイント高くなっている。一方、「必要な記事がない」は男性の方が女性より6.7ポイント高くなっている。

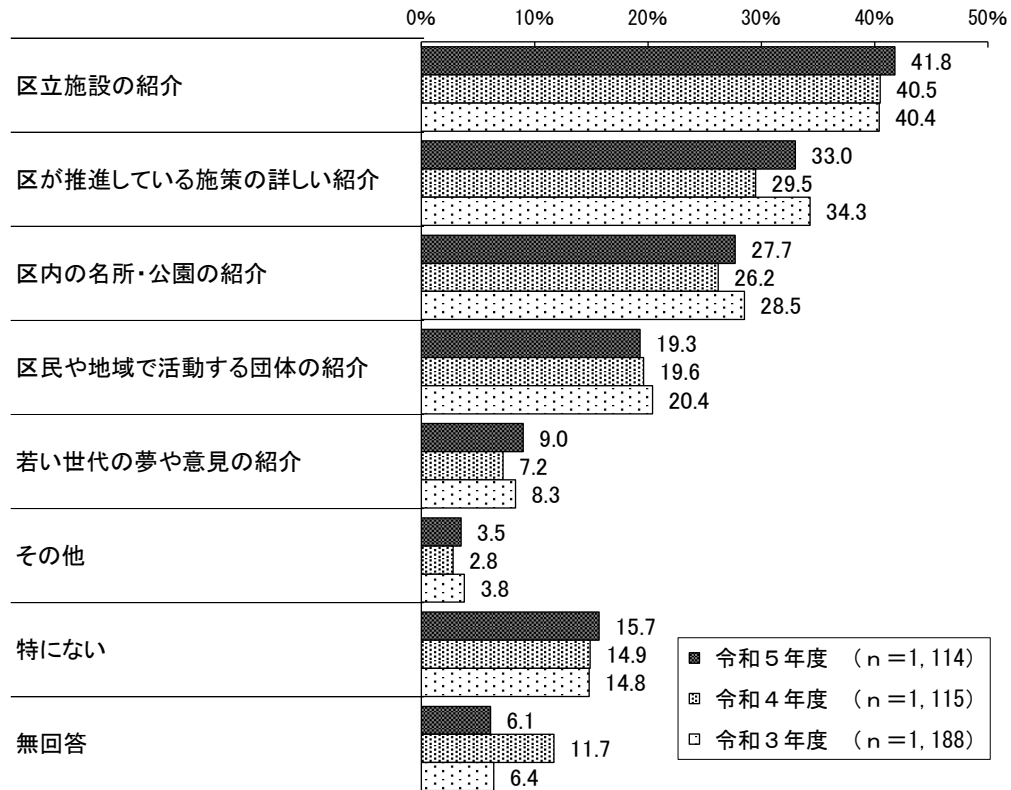
性・年齢別にみると、「新聞を購読していない」は女性60～69歳で6割と多くなっている。「入手方法がわからない」は男性30～39歳で5割を超えて多くなっている。「必要な記事がない」は男性60～69歳で3割半ばと多くなっている。（図1-10-14）

(11) 『ねりま区報』に掲載・連載してほしい内容（企画）

◇「区立施設の紹介」が4割を超える

問14 『ねりま区報』に掲載・連載してほしい内容（企画）はありますか。
（○は2つまで）

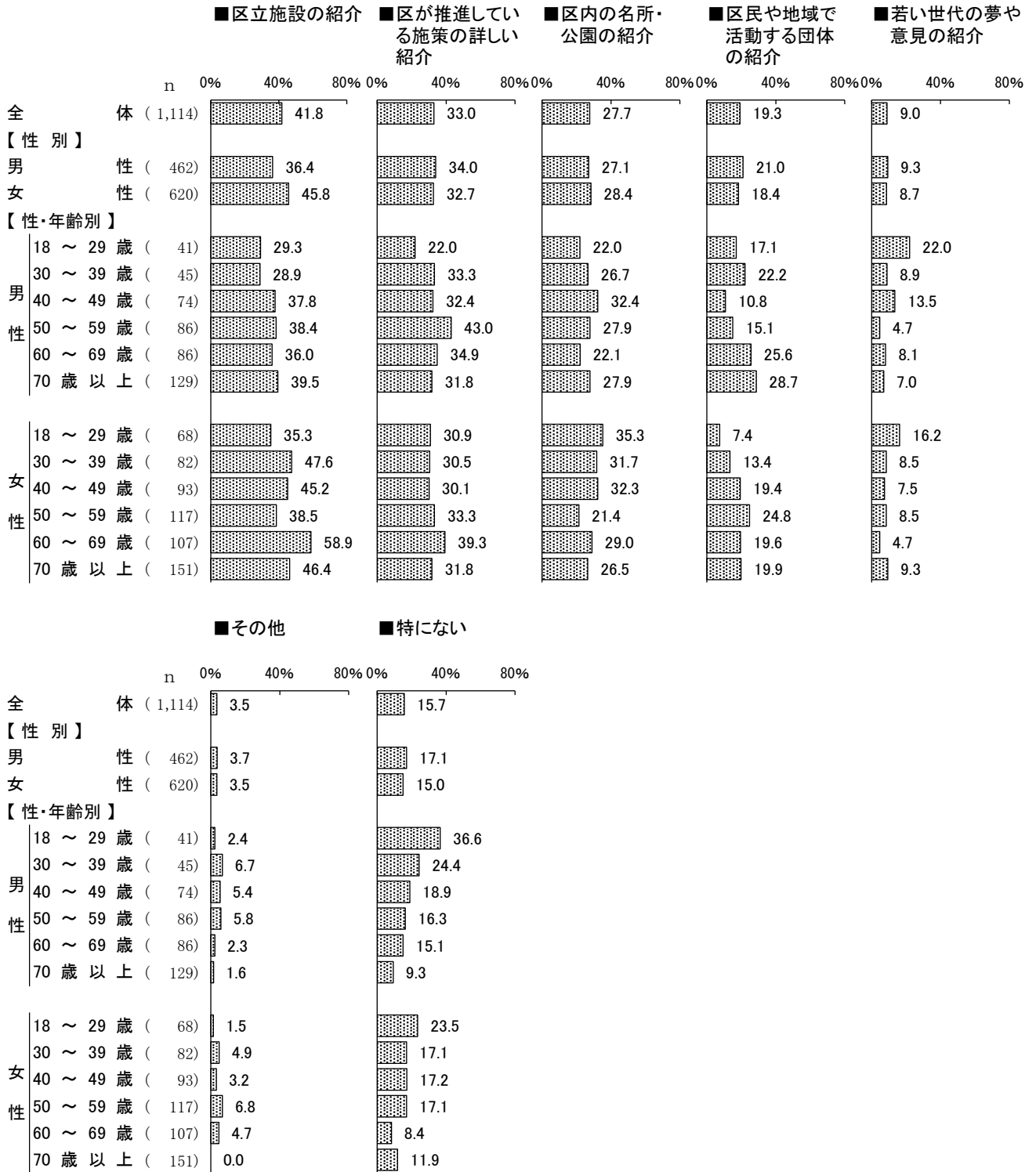
図1-11-1 『ねりま区報』に掲載・連載してほしい内容（企画）



『ねりま区報』に掲載・連載してほしい内容（企画）を聞いたところ、「区立施設の紹介」（41.8%）が4割を超えて最も多く、次いで「区が推進している施策の詳しい紹介」（33.0%）、「区内の名所・公園の紹介」（27.7%）、「区民や地域で活動する団体の紹介」（19.3%）などの順となっている。

過去の調査と比較すると、「区が推進している施策の詳しい紹介」は前回調査（令和4年度）より3.5ポイント増加している。（図1-11-1）

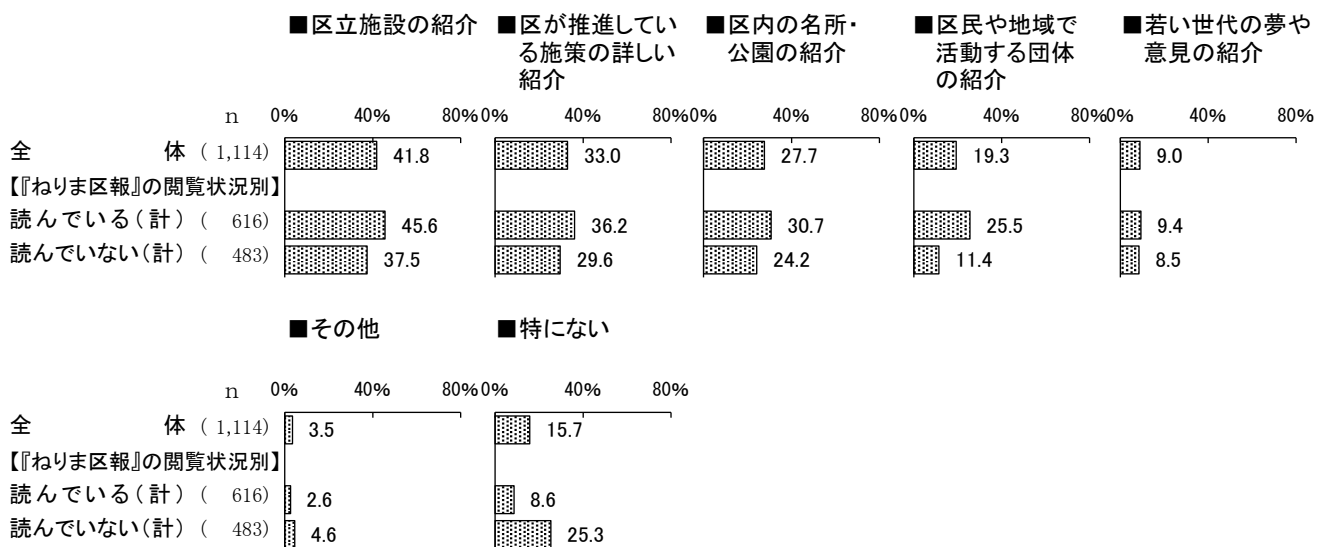
図1-11-2 『ねりま区報』に掲載・連載してほしい内容（企画）－性別／性・年齢別



性別にみると、「区立施設の紹介」は女性の方が男性より9.4ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「区立施設の紹介」は女性60～69歳で6割近くと多くなっている。「区が推進している施策の詳しい紹介」は男性50～59歳で4割を超えて多くなっている。「区内の名所・公園の紹介」は女性18～29歳で3割半ばと多くなっている。（図1-11-2）

図1-11-3 『ねりま区報』に掲載・連載してほしい内容（企画）－『ねりま区報』の閲覧度別



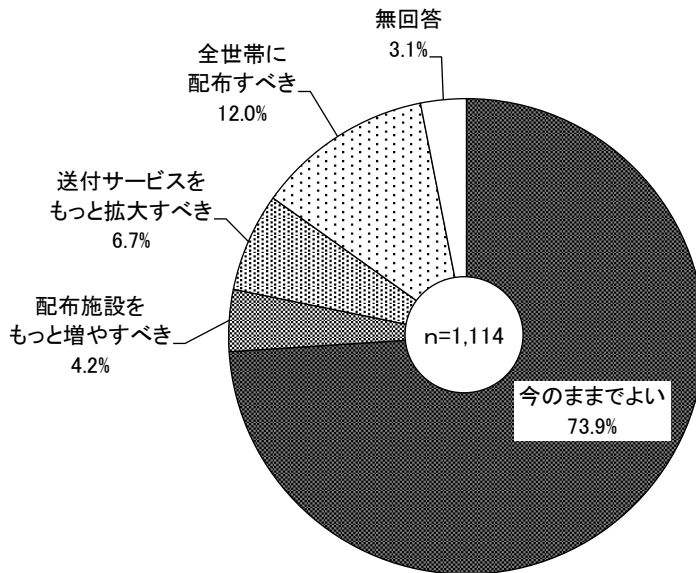
『ねりま区報』の閲覧状況別にみると、ほとんどの項目で『ねりま区報』を読んでいる人の方が読んでいない人より高くなっており、「区民や地域で活動する団体の紹介」で14.1ポイント、「区立施設の紹介」で8.1ポイント、「区が推進している施策の詳しい紹介」で6.6ポイント、「区内の名所・公園の紹介」で6.5ポイント、それぞれ高くなっている。（図1-11-3）

(12) 『ねりま区報』の配布方法の意向

◇「今のままでよい」が7割を超える

問15 『ねりま区報』は新聞折り込みに加え、区立施設、区内の全駅、コンビニエンスストアなどで配布しています。また、新聞を未購読で、前記の施設に取りに行くのが難しい方に送付サービスを行っています。区報の配布方法についてどう思いますか。(〇は1つ)

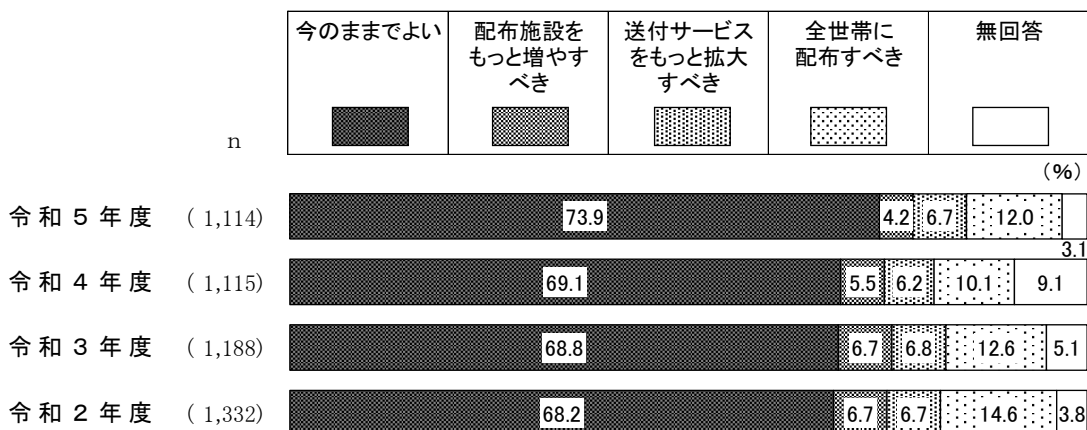
図1-12-1 『ねりま区報』の配布方法の意向



『ねりま区報』の配布方法の意向を聞いたところ、「今のままでよい」(73.9%)が7割を超えて最も多く、次いで「全世帯に配布すべき」(12.0%)、「送付サービスをもっと拡大すべき」(6.7%)、「配布施設をもっと増やすべき」(4.2%)の順となっている。

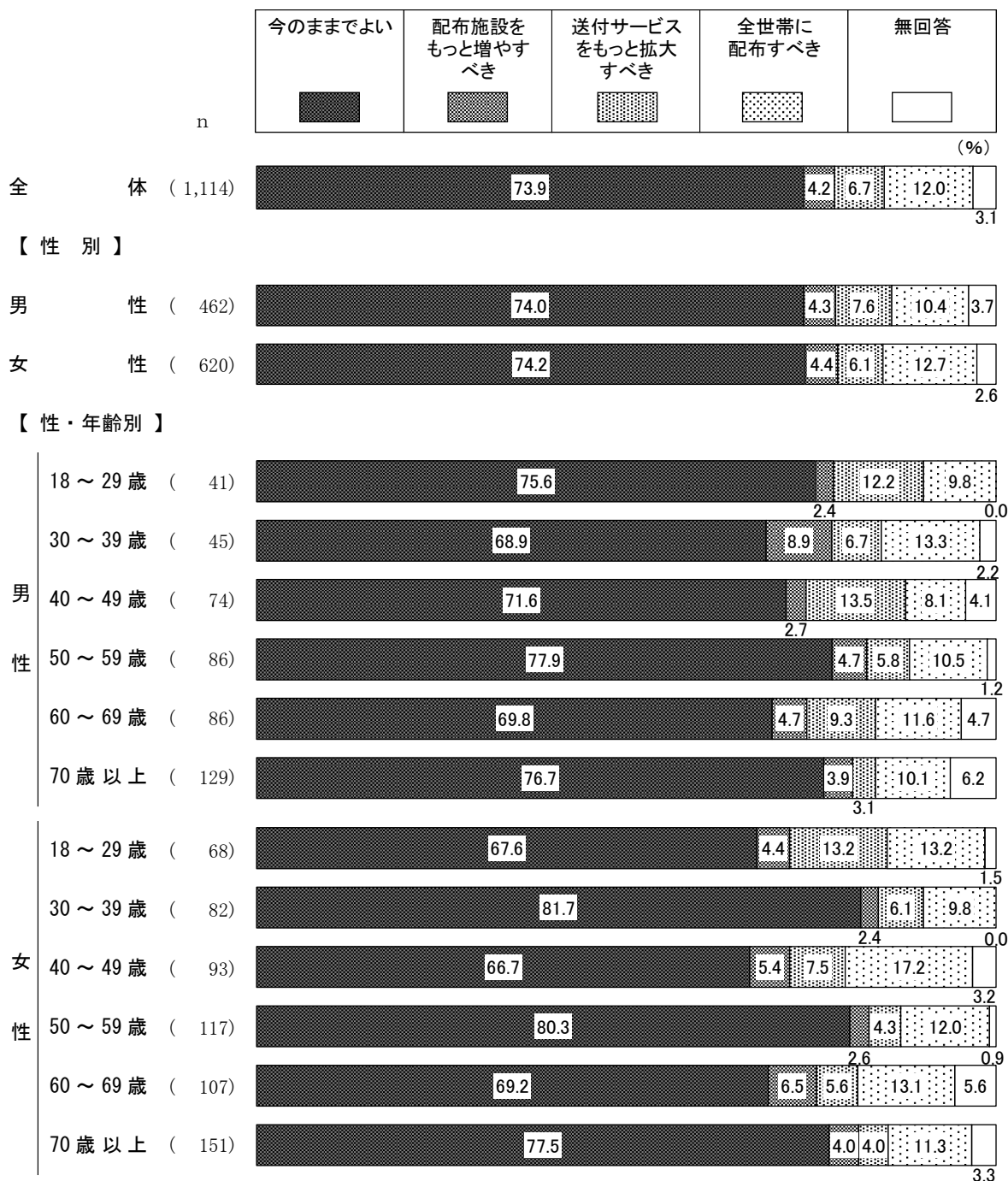
(図1-12-1)

図1-12-2 『ねりま区報』の配布方法の意向一過年度比較



過去の調査と比較すると、「今のままでよい」は前回調査(令和4年度)より4.8ポイント増加している。(図1-12-2)

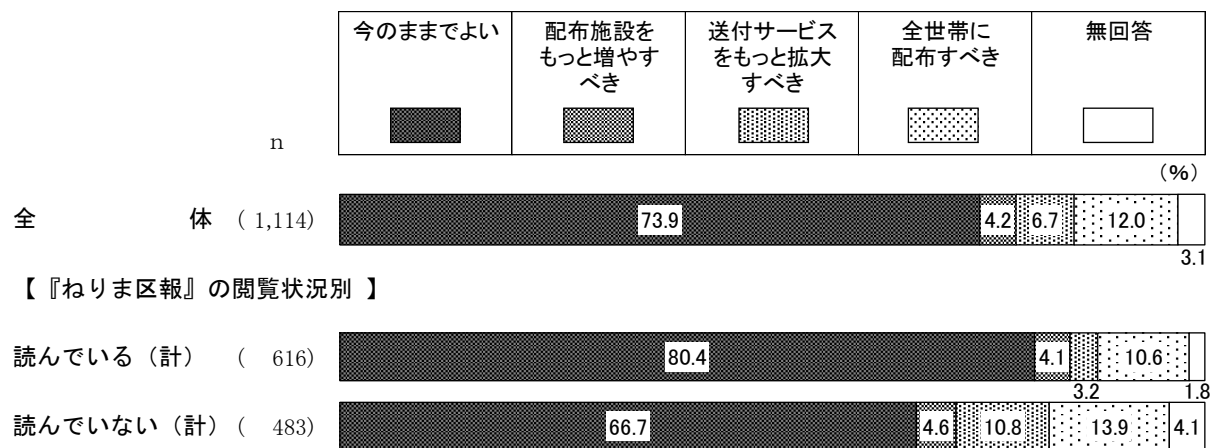
図 1-12-3 『ねりま区報』の配布方法の意向—性別／性・年齢別



性別にみると、大きな差異はみられない。

性・年齢別にみると、「今のままでよい」は女性30～39歳で8割を超えて多くなっている。「送付サービスをもっと拡大すべき」は男性18～29歳、男性40～49歳、女性18～29歳で1割を超えている。「全世帯に配布すべき」は女性40～49歳で2割近くとなっている。(図1-12-3)

図1-12-4 『ねりま区報』の配布方法の意向－『ねりま区報』の閲覧度別



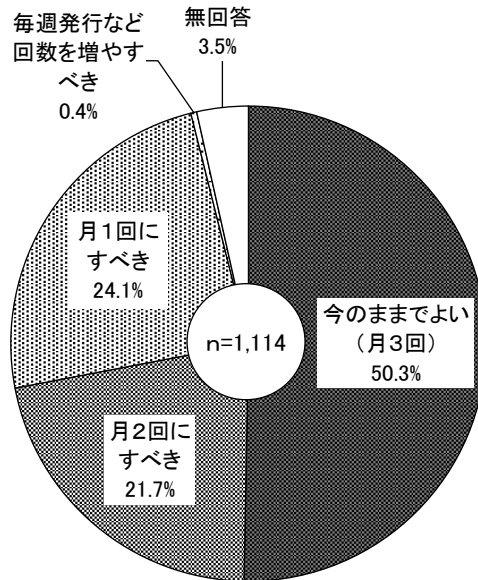
『ねりま区報』の閲覧状況別にみると、「今のままでよい」は『ねりま区報』を読んでいるの方が読んでいない人より13.7ポイント高くなっている。一方、「送付サービスをもっと拡大すべき」は『ねりま区報』を読んでいない人の方が読んでいる人より7.6ポイント高くなっている。
(図1-12-4)

(13) 『ねりま区報』の発行回数の意向

◇「今のままでよい（月3回）」が5割

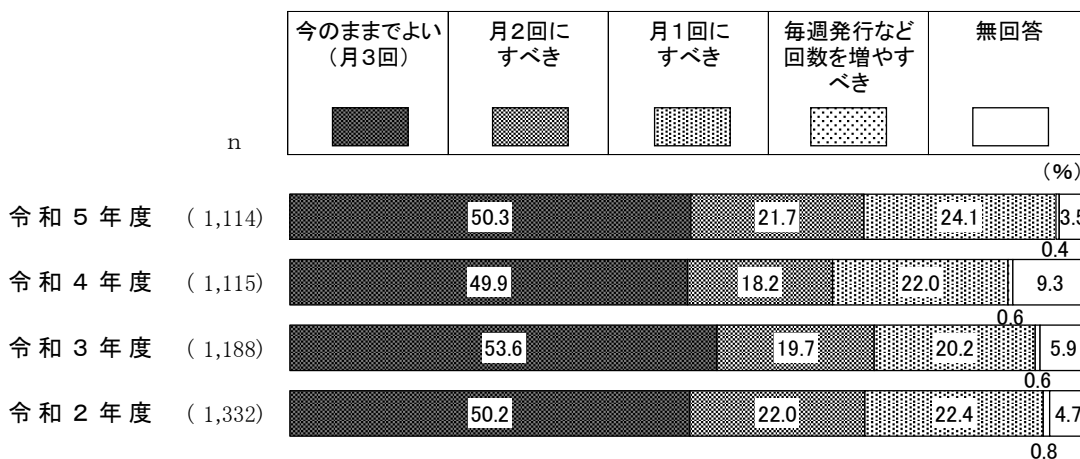
問16 『ねりま区報』は月3回発行しています。東京23区では月3回、月2回が主流ですが、都外では月1回の発行が多くなっています。区報の発行回数についてどう思いますか。（○は1つ）

図1-13-1 『ねりま区報』の発行回数の意向



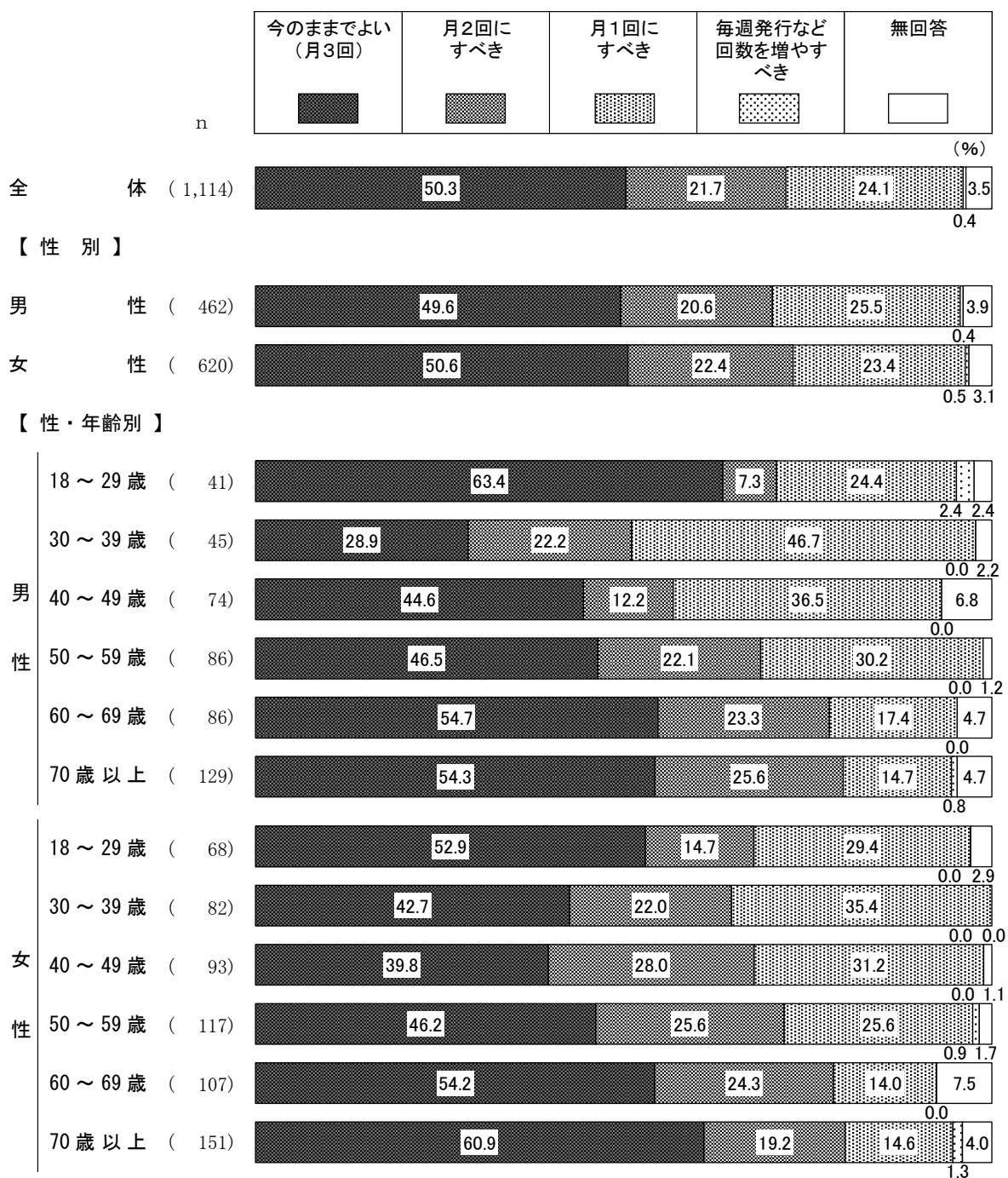
『ねりま区報』の発行回数の意向を聞いたところ、「今のままでよい（月3回）」（50.3%）が5割と最も多く、次いで「月1回にすべき」（24.1%）、「月2回にすべき」（21.7%）、「毎週発行など回数を増やすべき」（0.4%）の順となっている。（図1-13-1）

図1-13-2 『ねりま区報』の発行回数の意向—過年度比較



過去の調査と比較すると、「月2回にすべき」は前回調査（令和4年度）より3.5ポイント増加している。（図1-13-2）

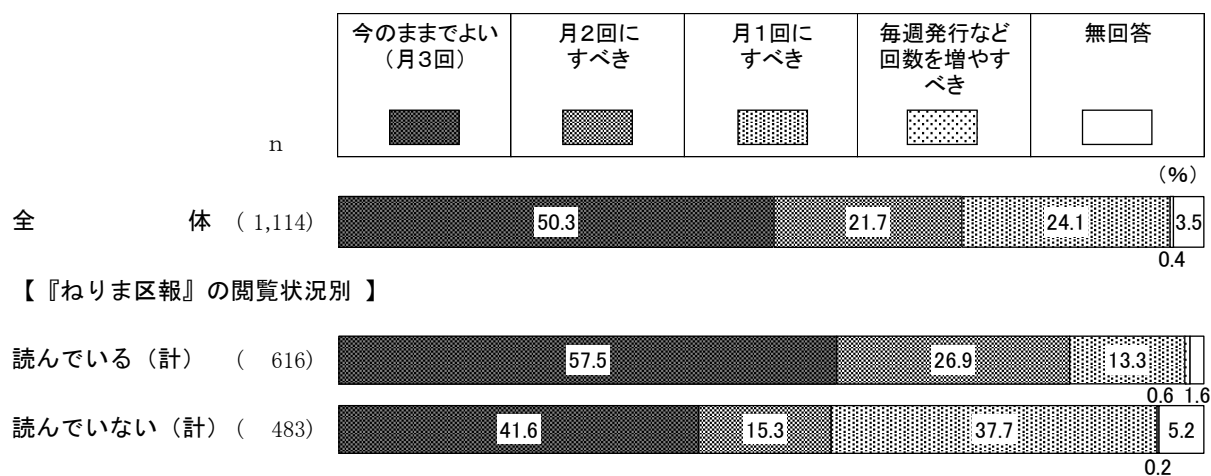
図 1-13-3 『ねりま区報』の発行回数の意向—性別／性・年齢別



性別にみると、大きな差異はみられない。

性・年齢別にみると、「今のままでよい（月3回）」は男性18～29歳6割を超えて多くなっている。「月2回にすべき」は女性40～49歳で3割近くと多くなっている。「月1回にすべき」は男性30～39歳で5割近くと多くなっている。（図1-13-3）

図1-13-4 『ねりま区報』の発行回数の意向－『ねりま区報』の閲覧度別



『ねりま区報』の閲覧度別にみると、「今のままでよい（月3回）」は『ねりま区報』を読んでいるの方が読んでいない人より15.9ポイント高くなっている。一方、「月1回にすべき」は『ねりま区報』を読んでいないの方が読んでいる人より24.4ポイント高くなっている。

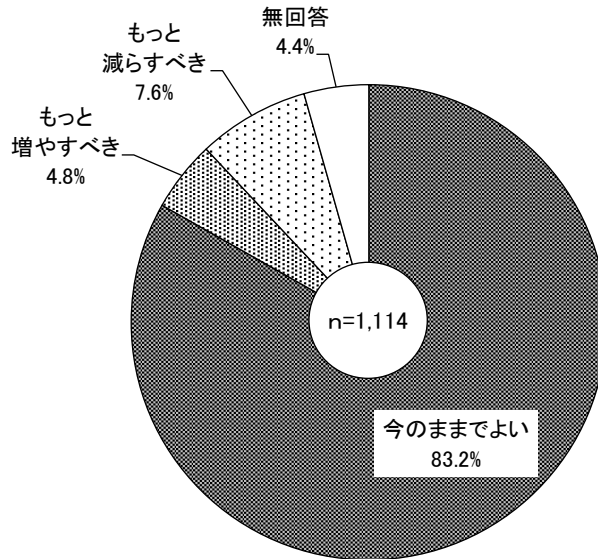
(図1-13-4)

(14) 『ねりま区報』の情報量の意向

◇「今のままでよい」が8割を超える

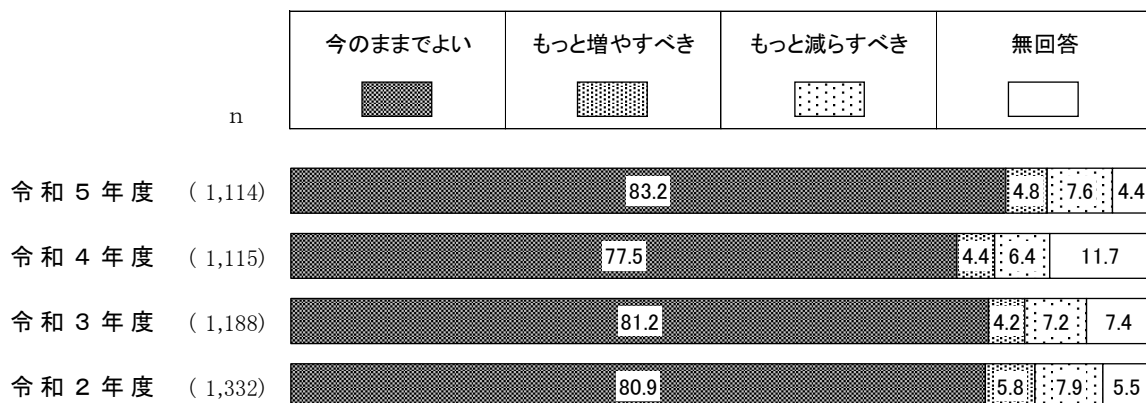
問17 『ねりま区報』では、原則として1日号12ページ、11日号・21日号8ページとなっています。ねりま区報の情報量についてどう思いますか。(〇は1つ)

図1-14-1 『ねりま区報』の情報量の意向



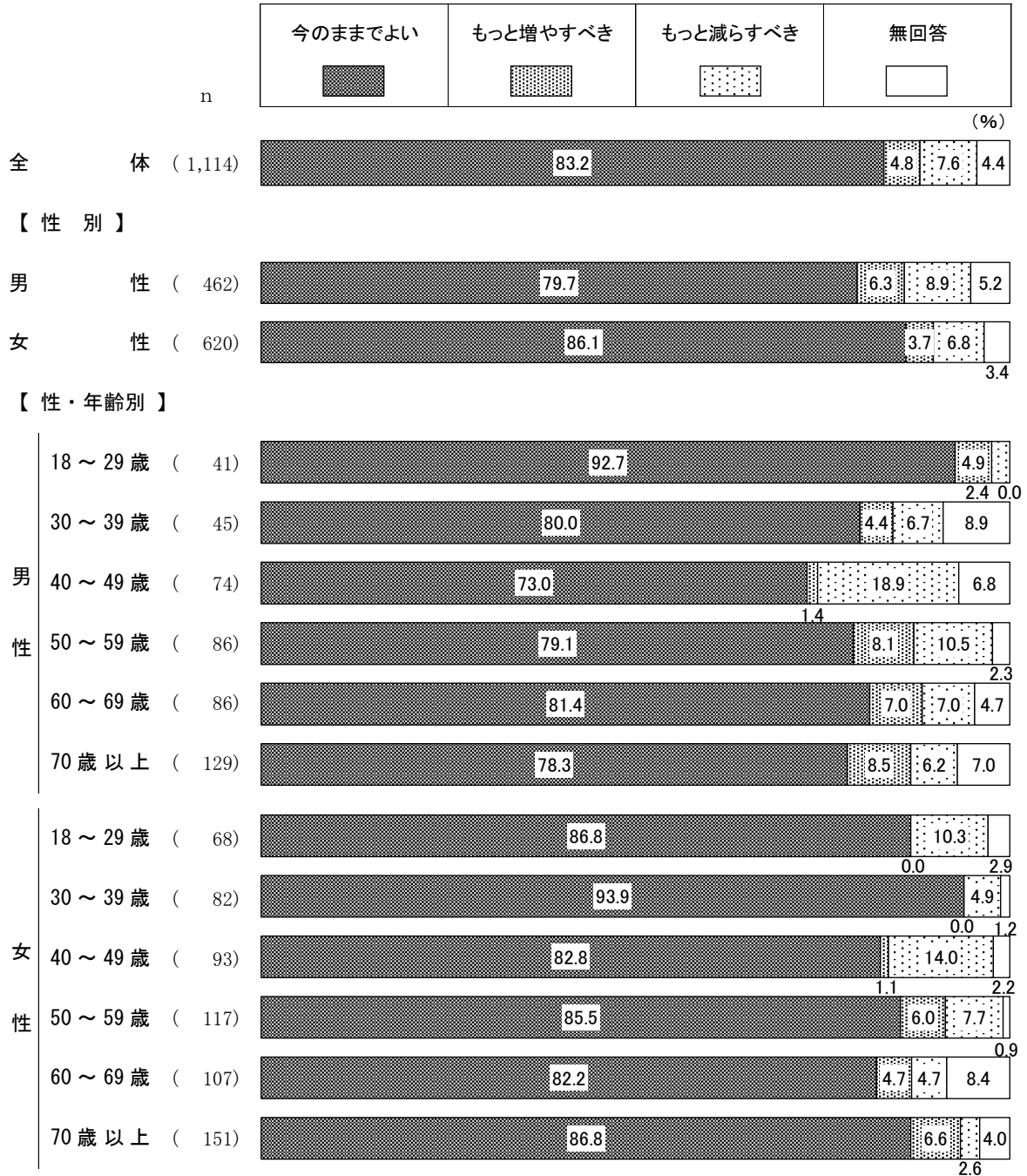
『ねりま区報』の情報量の意向を聞いたところ、「今のままでよい」(83.2%)が8割を超えて最も多く、次いで「もっと減らすべき」(7.6%)、「もっと増やすべき」(4.8%)の順となっている。(図1-14-1)

図1-14-2 『ねりま区報』の情報量の意向一過年度比較



過去の調査と比較すると、「今のままでよい」は前回調査(令和4年度)より5.7ポイント増加している。(図1-14-2)

図 1-14-3 『ねりま区報』の情報量の意向—性別／性・年齢別



性別にみると、「今のままでよい」は女性の方が男性より6.4ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「今のままでよい」は男性18～29歳、女性30～39歳で9割を超えて多くなっている。一方、「もっと減らすべき」は男性40～49歳で2割近くと多くなっている。

(図 1-14-3)

(15) 練馬区情報番組『ねりまほっとライン』の認知度

◇「知っている」が2割半ば

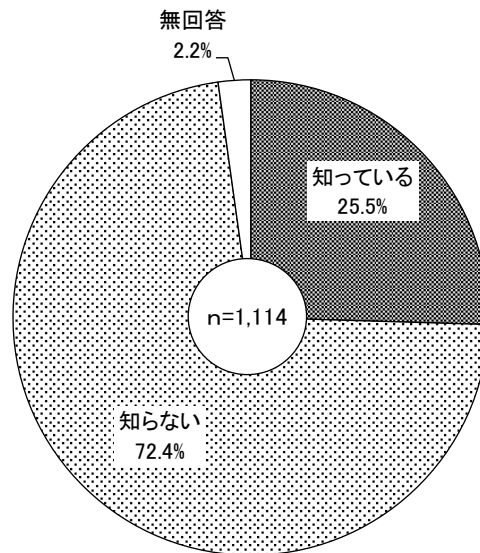
問18 あなたは、練馬区情報番組『ねりまほっとライン』を知っていますか。

(○は1つ)

※練馬区情報番組『ねりまほっとライン』は、ケーブルテレビJ：COM東京（デジタル：11チャンネル）で毎日放映しています。区の事業やできごとなどを紹介し、区民のみなさまに、区政に関心を持っていただくことを目的としています。

※放送時間は、毎日午前9時、正午の2回です（1回10分）。

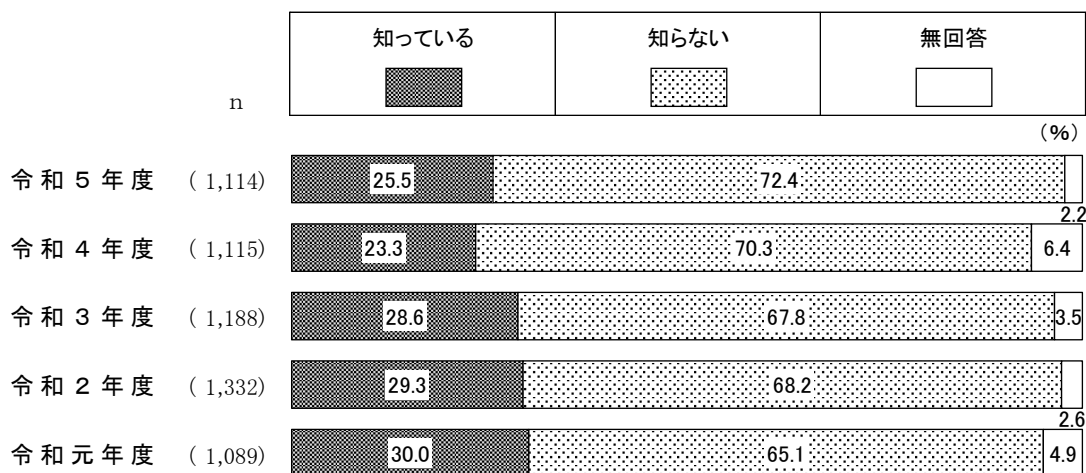
図1-15-1 練馬区情報番組『ねりまほっとライン』の認知度



練馬区情報番組『ねりまほっとライン』を知っているか聞いたところ、「知っている」(25.5%)が2割半ばとなっている。一方、「知らない」(72.4%)は7割を超えている。

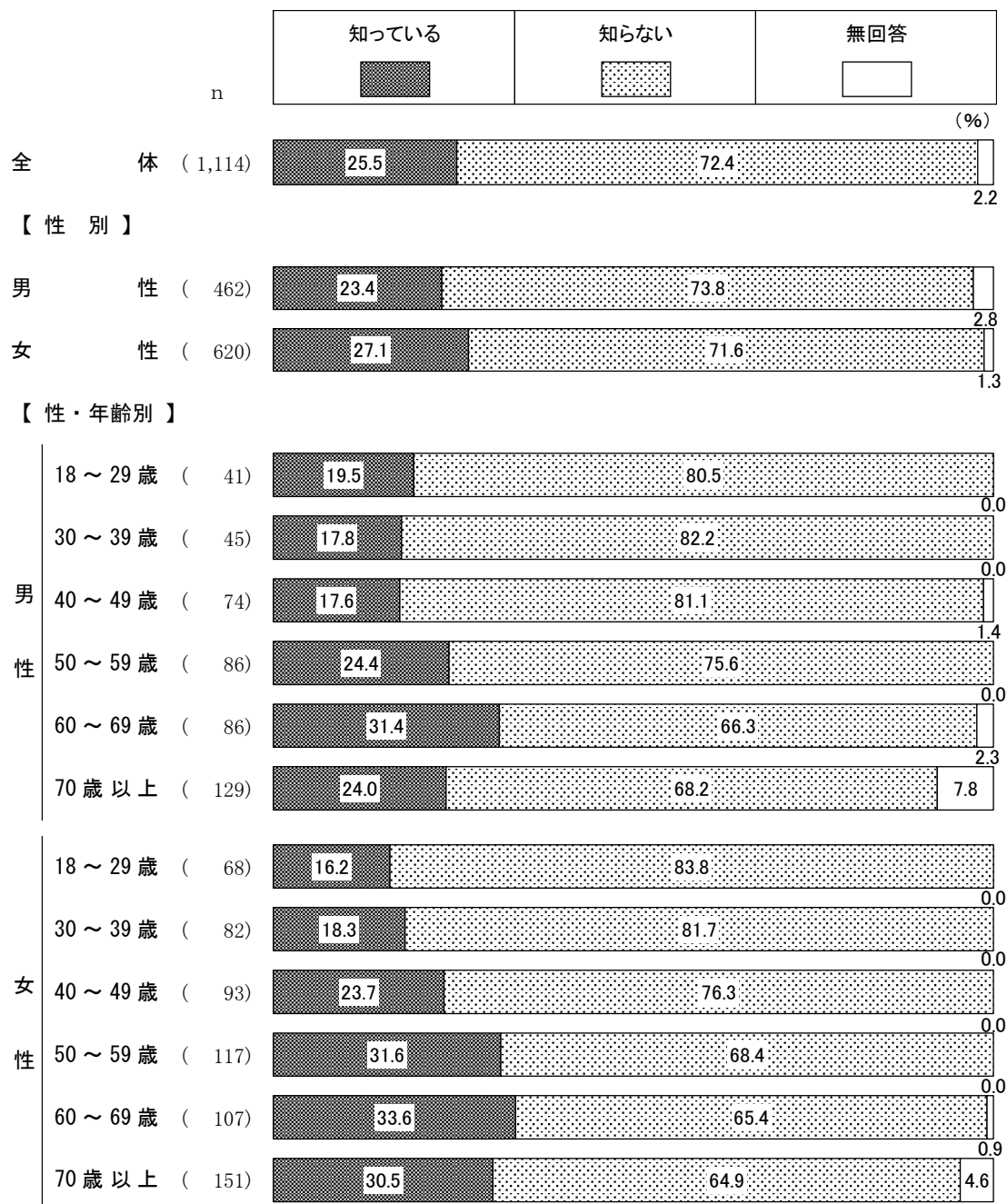
(図1-15-1)

図1-15-2 練馬区情報番組『ねりまほっとライン』の認知度－過年度比較



過去の調査と比較すると、「知っている」は前回調査（令和4年度）より2.2ポイント増加している。(図1-15-2)

図 1-15-3 練馬区情報番組『ねりまほっとライン』の認知度—性別／性・年齢別



性別にみると、「知っている」は女性の方が男性より3.7ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「知っている」は男性60～69歳、女性60～69歳で3割を超えて多くなっている。一方、「知らない」は女性18～29歳で8割を超えて多くなっている。(図1-15-3)

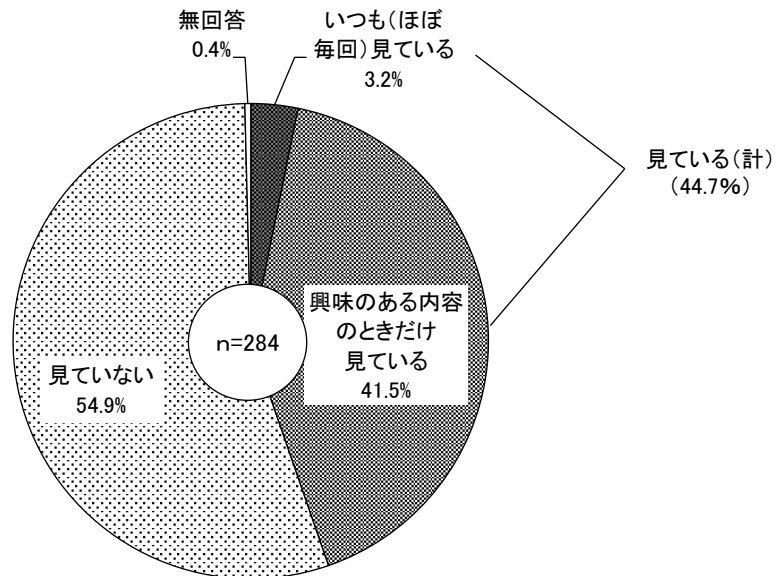
(15-1) 練馬区情報番組『ねりまほっとライン』の視聴度

◇『見ている』が4割半ば

【問18で「1 知っている」と答えた方へ】

問18-1 あなたは、練馬区情報番組『ねりまほっとライン』を見ていますか。
(○は1つ)

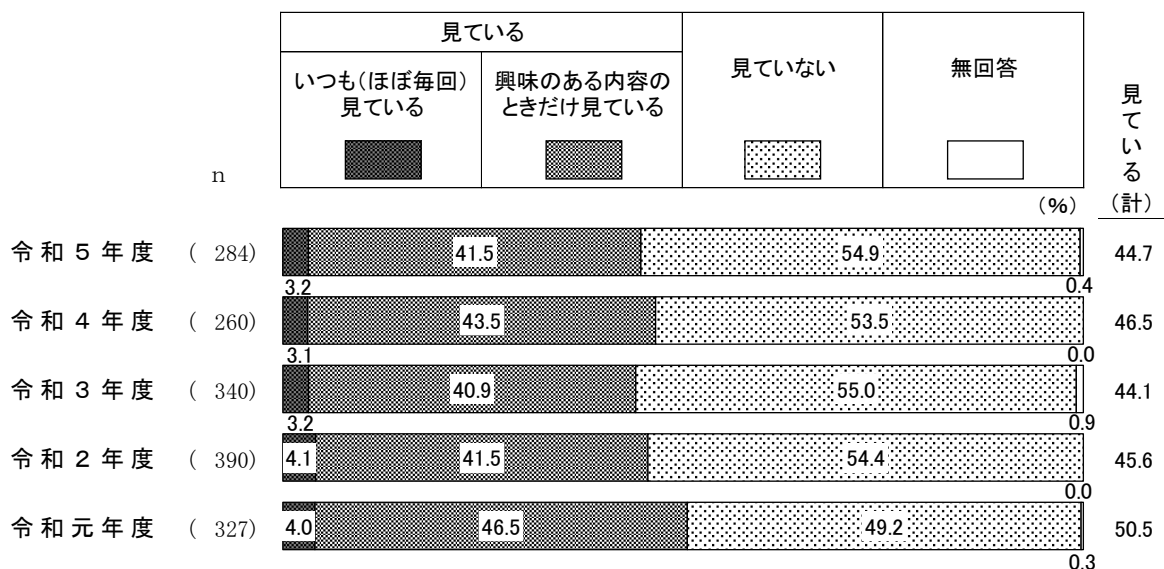
図1-15-4 練馬区情報番組『ねりまほっとライン』の視聴度



『練馬区情報番組ねりまほっとライン』を「知っている」と答えた方(284人)に、番組の視聴度を聞いたところ、「いつも(ほぼ毎回)見ている」(3.2%)と「興味のある内容のときだけ見ている」(41.5%)を合わせた『見ている』(44.7%)が4割半ばとなっている。

(図1-15-4)

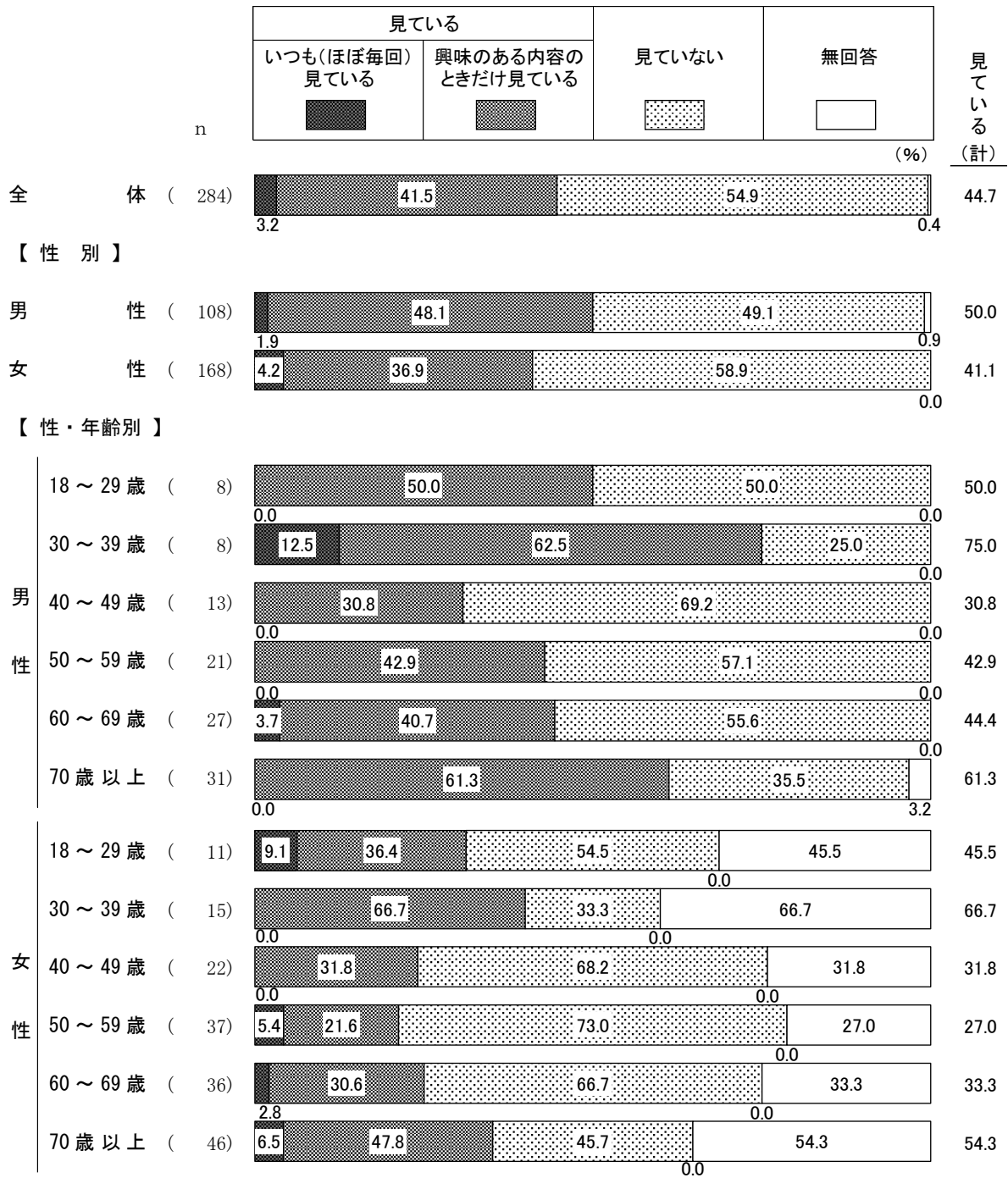
図1-15-5 練馬区情報番組『ねりまほっとライン』の視聴度—過年度比較



過去の調査と比較すると、前回調査(令和4年度)と大きな傾向の違いはみられない。

(図1-15-5)

図 1-15-6 練馬区情報番組『ねりまほっとライン』の視聴度—性別／性・年齢別



性別にみると、『見ている』は男性の方が女性より8.9ポイント高くなっている。

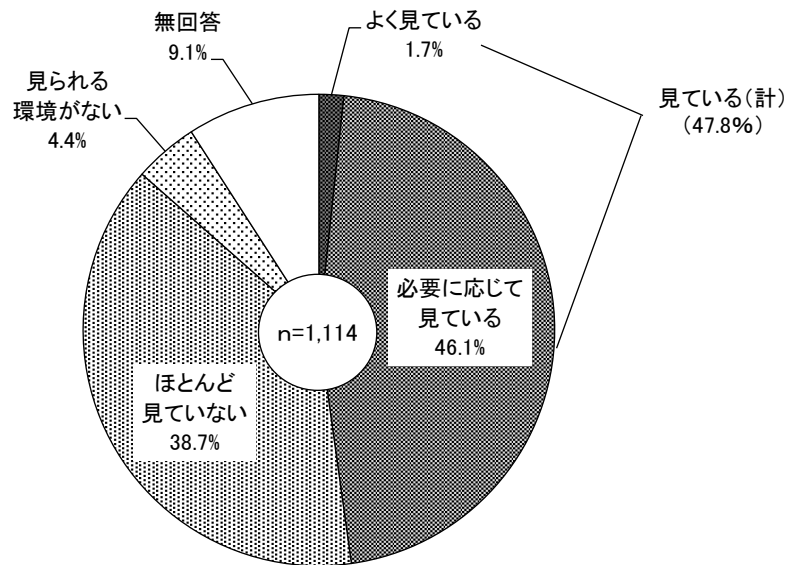
性・年齢別はn数が少ないので参考に図示する。(図 1-15-6)

(16) 『区ホームページ』の閲覧状況

◇『見ている』が5割近く

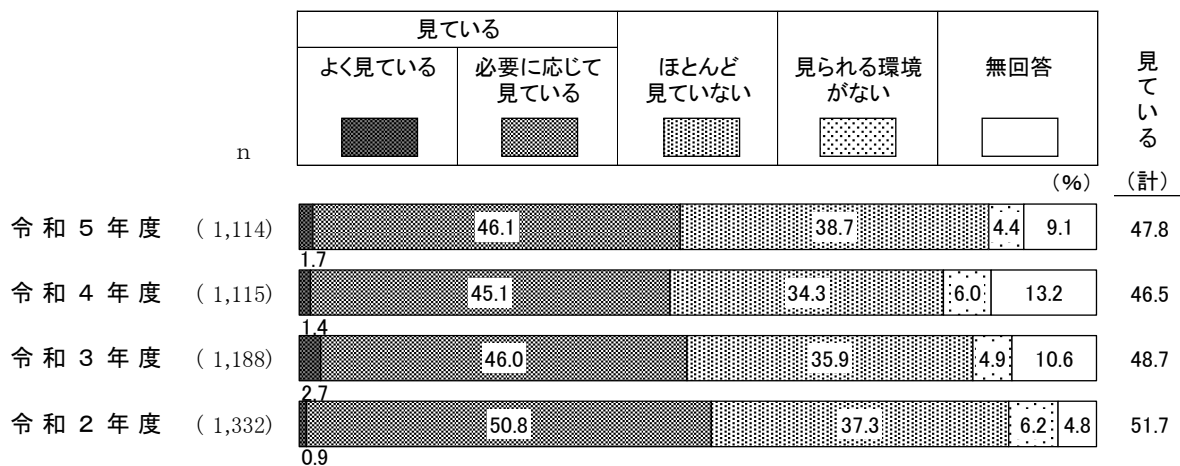
問19 あなたは、『区ホームページ』をどの程度閲覧していますか。(〇は1つ)

図1-16-1 『区ホームページ』の閲覧状況



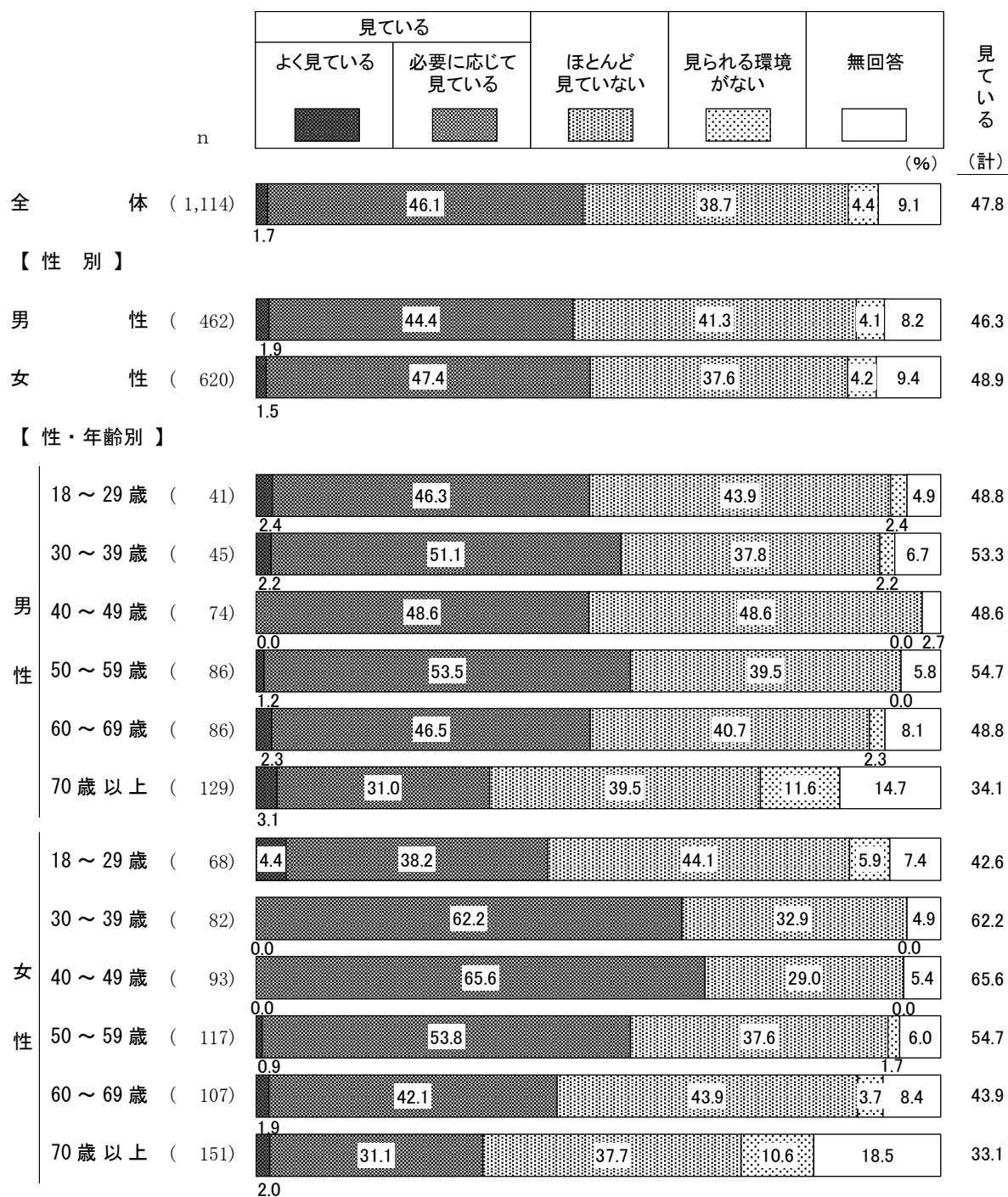
『区ホームページ』の閲覧状況を聞いたところ、「よく見ている」(1.7%)と「必要に応じて見ている」(46.1%)を合わせた、『見ている』(47.8%)が5割近くとなっている。一方、「ほとんど見ていない」(38.7%)は4割近くとなっている。また、「見られる環境がない」(4.4%)はわずかとなっている。(図1-16-1)

図1-16-2 『区ホームページ』の閲覧状況－過年度比較



過去の調査と比較すると、「ほとんど見ていない」は前回調査(令和4年度)より4.4ポイント増加している。(図1-16-2)

図 1-16-3 『区ホームページ』の閲覧状況—性別／性・年齢別



性別にみると、『見ている』は女性の方が男性より2.6ポイント高くなっている。

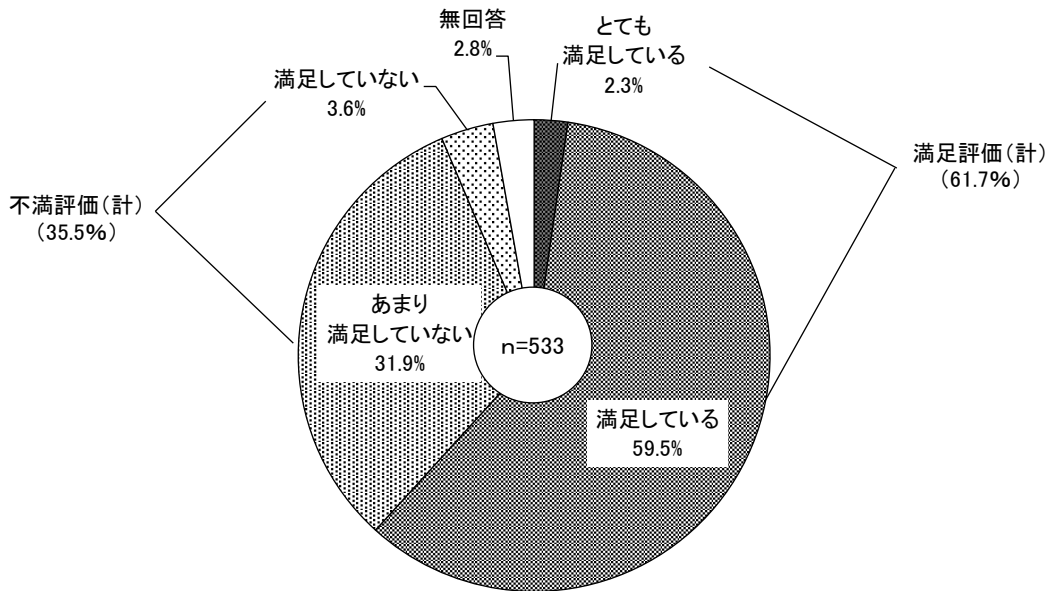
性・年齢別にみると、『見ている』は女性40～49歳で6割半ばと多くなっている。一方、「ほとんど見ていない」は男性40～49歳で5割近くと多くなっている。(図1-16-3)

(16-1) 『区ホームページ』の閲覧情報の見つけやすさ・わかりやすさの満足度

◇『満足評価』が6割を超える

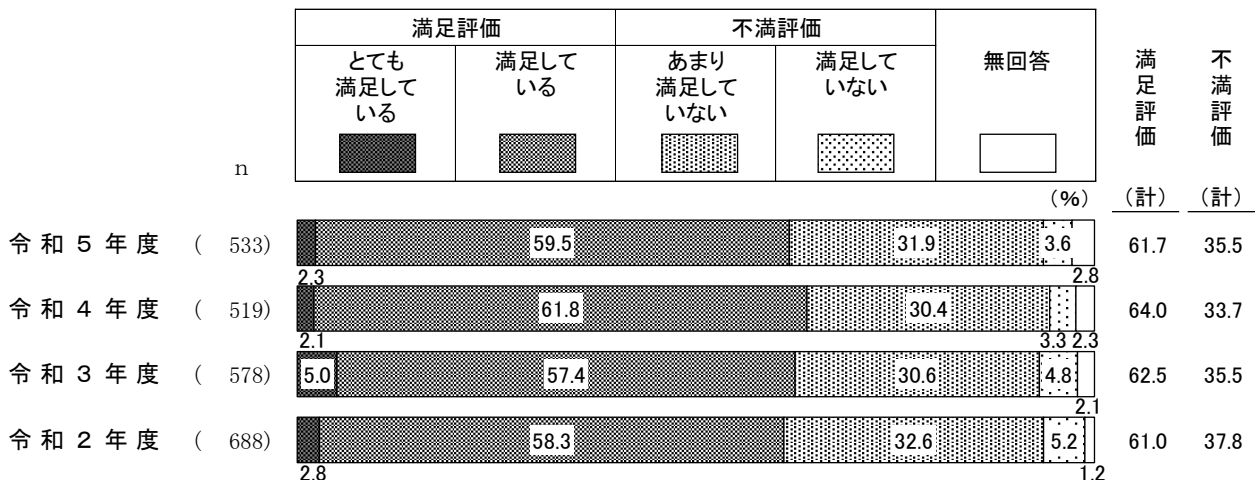
【問19で「1 よく見ている」「2 必要に応じて見ている」と答えた方へ】
 問19-1 『区ホームページ』で閲覧している情報の見つけやすさ・わかりやすさの満足度はどの程度ですか。(〇は1つ)

図1-16-4 『区ホームページ』の閲覧情報の見つけやすさ・わかりやすさの満足度



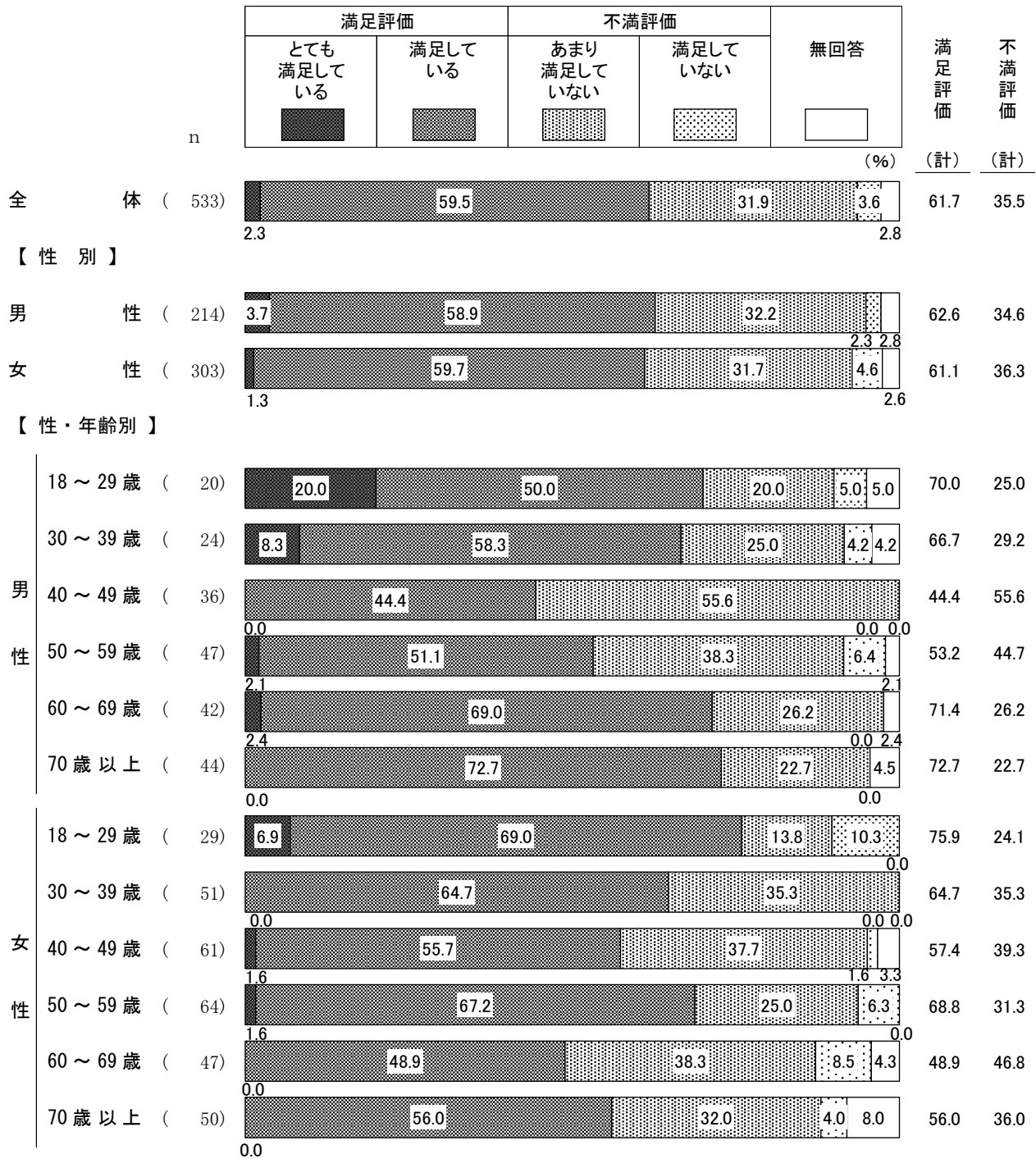
『区ホームページ』を「よく見ている」または「必要に応じて見ている」と答えた方(533人)に閲覧している情報の見つけやすさ・わかりやすさの満足度を聞いたところ、「とても満足している」(2.3%)と「満足している」(59.5%)を合わせた『満足評価』(61.7%)が6割を超えている。一方、「あまり満足していない」(31.9%)と「満足していない」(3.6%)を合わせた『不満評価』(35.5%)は3割半ばとなっている。(図1-16-4)

図1-16-5 『区ホームページ』の閲覧情報の見つけやすさ・わかりやすさの満足度一過年度比較



過去の調査と比較すると、『満足評価』は前回調査(令和4年度)より2.3ポイント減少している。(図1-16-5)

図1-16-6 『区ホームページ』の閲覧情報の見つけやすさ・わかりやすさの満足度－性別／性・年齢別



性別にみると、大きな差異はみられない。

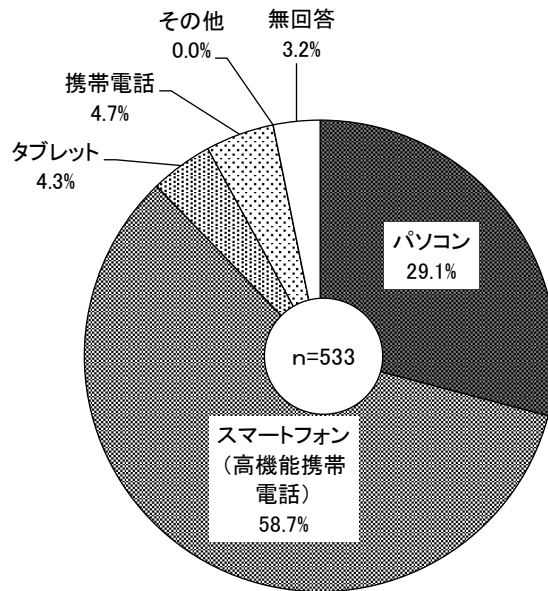
性・年齢別にみると、『満足評価』は男性60～69歳、男性70歳以上で7割を超えて多くなっている。一方、『不満評価』は男性40～49歳で5割半ばと多くなっている。(図1-16-6)

(16-2) 『区ホームページ』の閲覧時に主に利用している機器

◇「スマートフォン（高機能携帯電話）」が6割近く

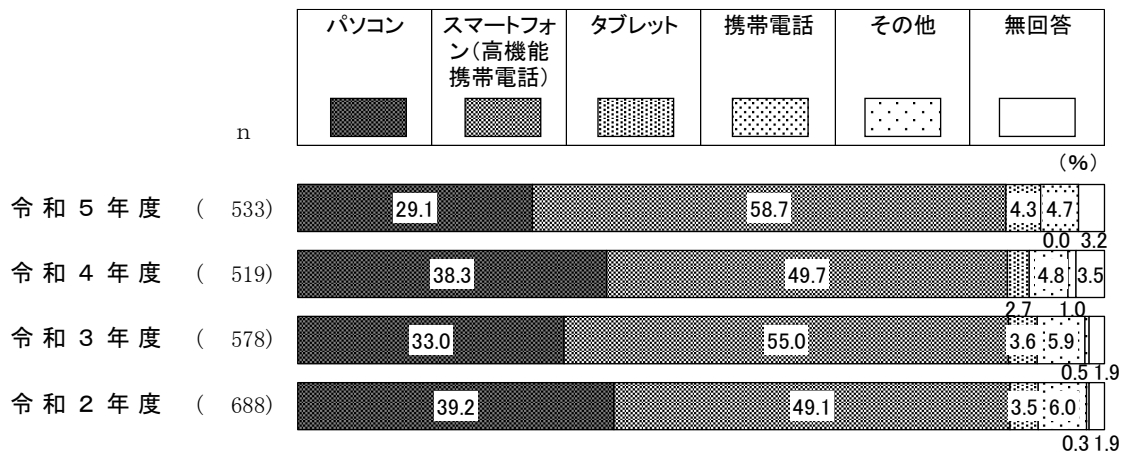
【問19で「1 よく見ている」「2 必要に応じて見ている」と答えた方へ】
 問19-2 『区ホームページ』を閲覧する際に、主に利用している機器は何ですか。
 (〇は1つ)

図1-16-7 『区ホームページ』の閲覧時に主に利用している機器



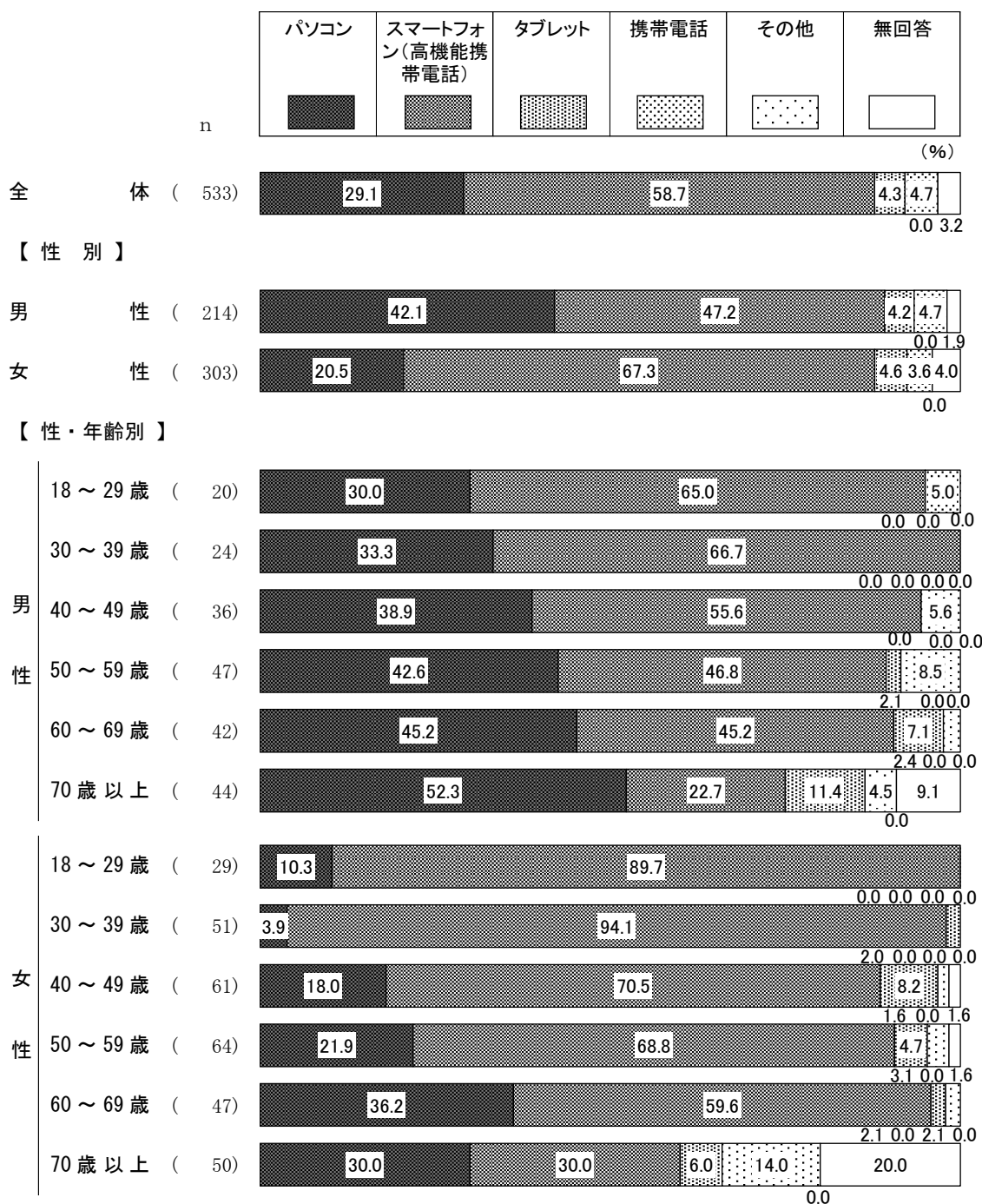
『区ホームページ』を「よく見ている」または「必要に応じて見ている」と答えた方（533人）に閲覧時に主に利用している機器を聞いたところ、「スマートフォン（高機能携帯電話）」（58.7%）が6割近くと最も多く、次いで「パソコン」（29.1%）、「携帯電話」（4.7%）、「タブレット」（4.3%）の順となっている。（図1-16-7）

図1-16-8 『区ホームページ』の閲覧時に主に利用している機器—過年度比較



過去の調査と比較すると、「パソコン」は前回調査（令和4年度）より9.2ポイント減少している。一方、「スマートフォン（高機能携帯電話）」は前回調査（令和4年度）より9.0ポイント増加している。（図1-16-8）

図1-16-9 『区ホームページ』の閲覧時に主に利用している機器—性別／性・年齢別



性別にみると、性別にみると、「パソコン」は男性の方が女性より21.6ポイント高くなっている。一方、「スマートフォン（高機能携帯電話）」は女性の方が男性より20.1ポイント高くなっている。

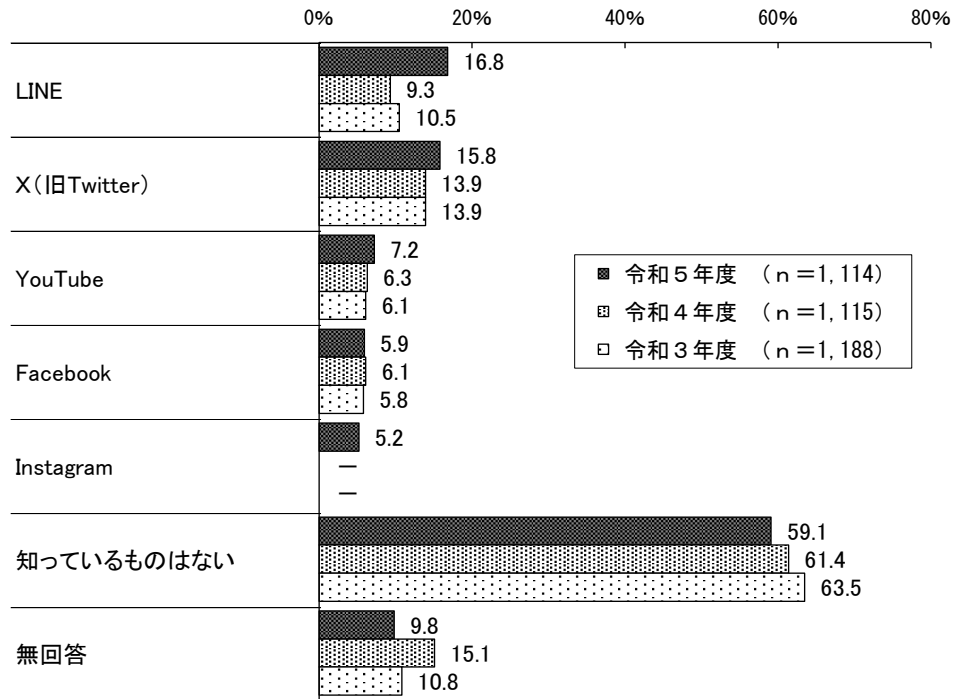
性・年齢別にみると、「パソコン」は男性70歳以上で5割を超えて多くなっている。「スマートフォン（高機能携帯電話）」は女性30～39歳で9割半ばと多くなっている。（図1-16-9）

(17) 知っている練馬区公式SNSアカウント

◇「LINE」、「X（旧Twitter）」が1割半ば

問20 あなたが知っている練馬区公式SNSアカウントをお選びください。
 (〇はいくつでも)

図1-17-1 知っている練馬区公式SNSアカウント

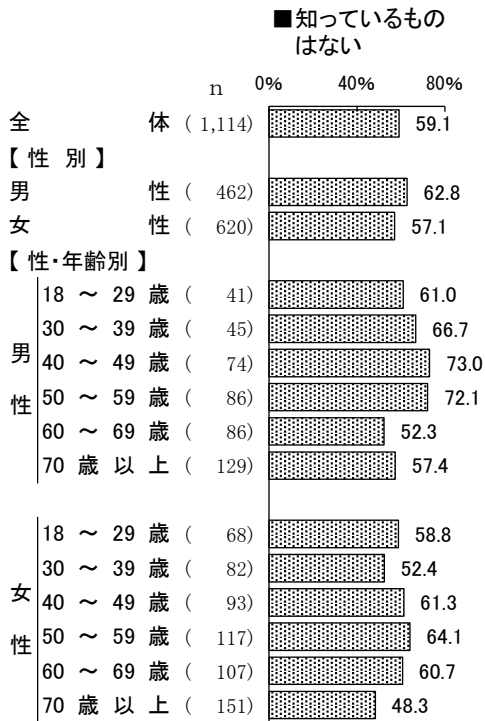
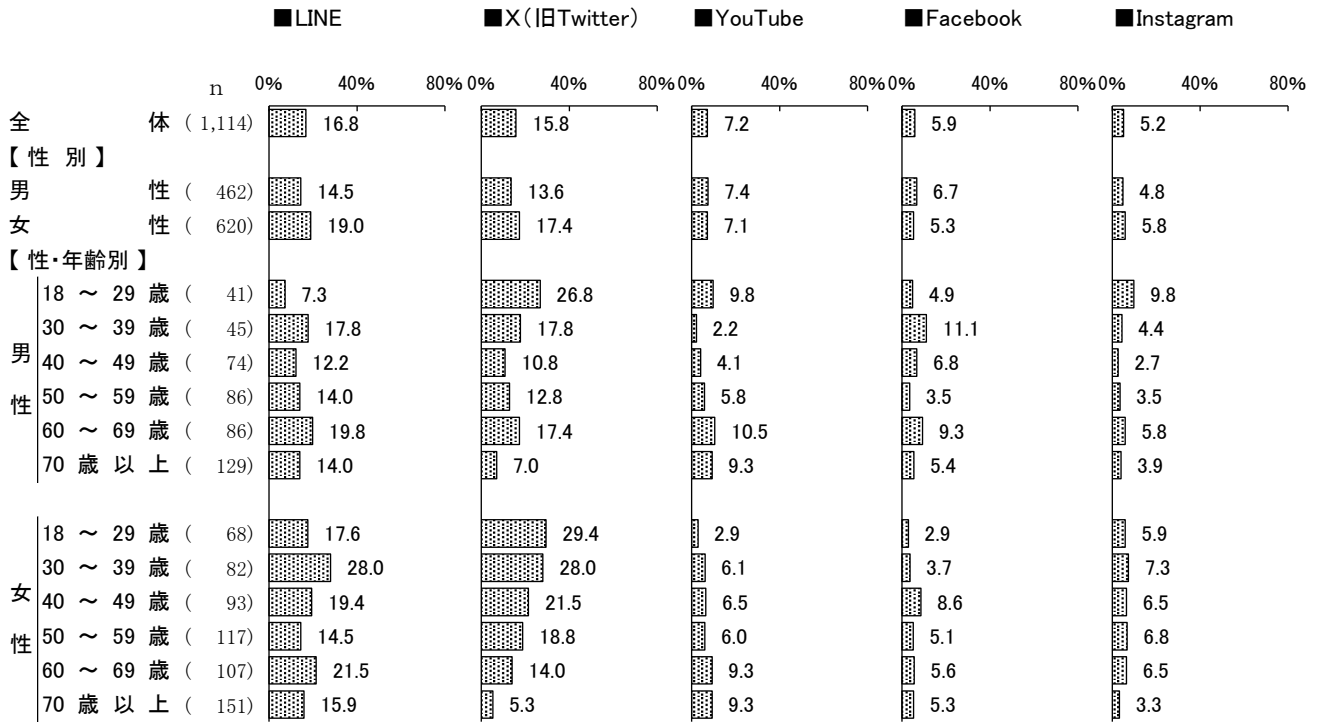


注1) 「Instagram」は令和5年度から追加された選択肢。

知っている練馬区公式SNSアカウントを聞いたところ、「LINE」（16.8%）が2割近くと最も多く、次いで「X（旧Twitter）」（15.8%）、「YouTube」（7.2%）、「Facebook」（5.9%）などの順となっている。一方、「知っているものはない」（59.1%）は約6割となっている。

過去の調査と比較すると、「LINE」は前回調査（令和4年度）より7.5ポイント増加している。
 (図1-17-1)

図1-17-2 知っている練馬区公式SNSアカウントー性別／性・年齢別



性別にみると、「LINE」は女性の方が男性より4.5ポイント、「X（旧Twitter）」は3.8ポイント、それぞれ高くなっている。

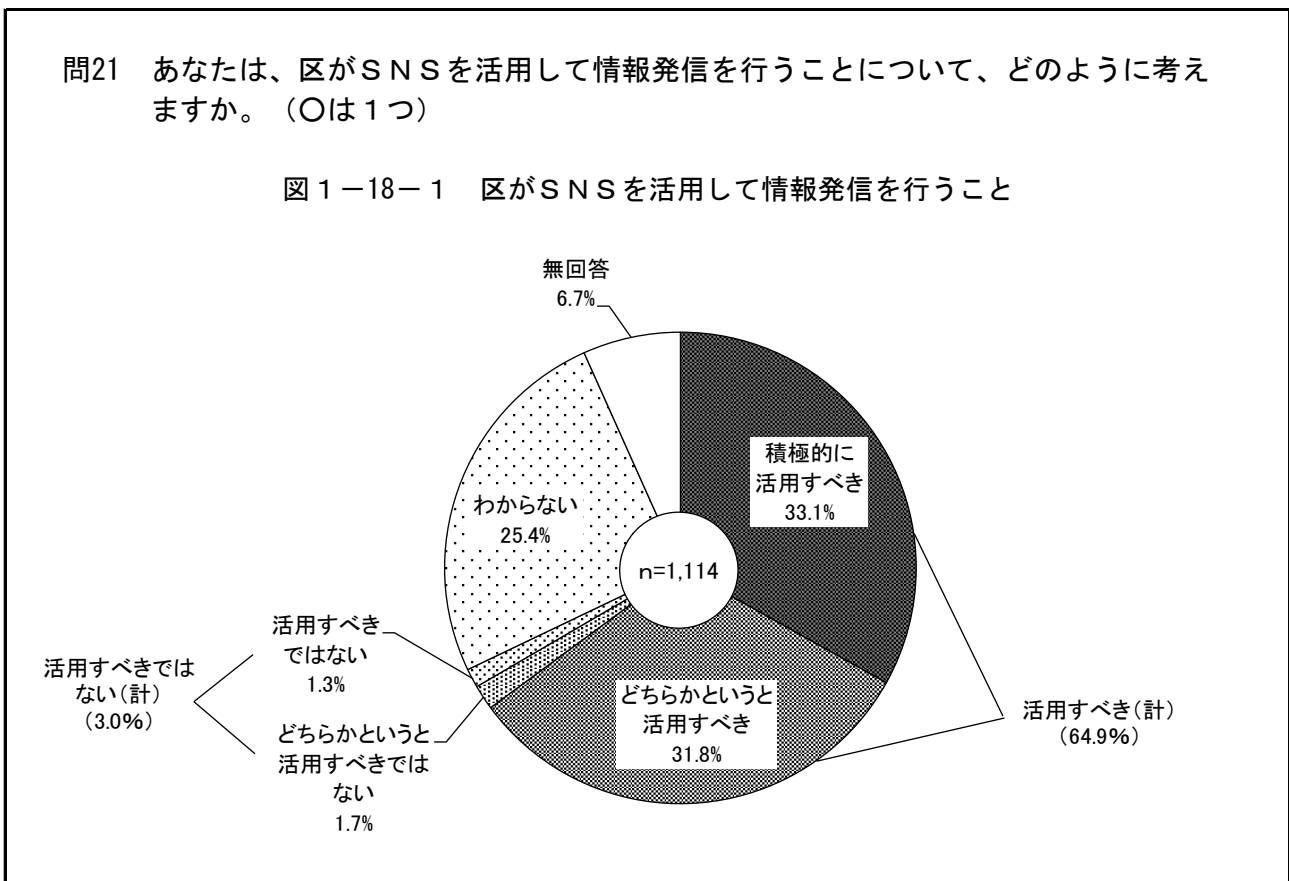
性・年齢別にみると、「LINE」は女性30～39歳で3割近くと多くなっている。「X（旧Twitter）」は女性18～29歳で約3割と多くなっている。一方、「知っているものはない」は男性40～49歳、男性50～59歳で7割を超えて多くなっている。（図1-17-2）

(18) 区がSNSを活用して情報発信を行うこと

◇『活用すべき』が6割半ば

問21 あなたは、区がSNSを活用して情報発信を行うことについて、どのように考えますか。(○は1つ)

図1-18-1 区がSNSを活用して情報発信を行うこと



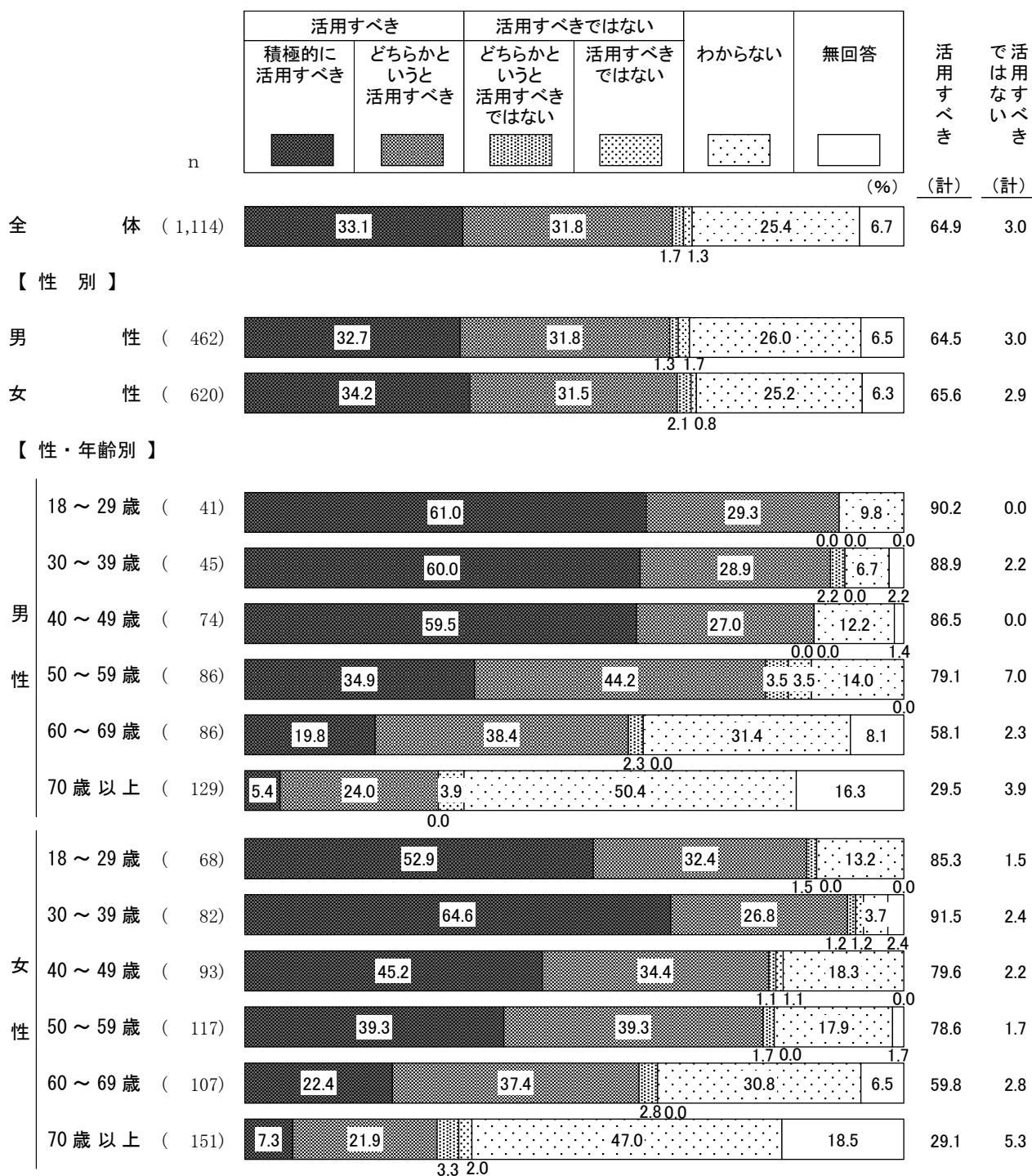
区がSNSを活用して情報発信を行うことについて聞いたところ、「積極的に活用すべき」(33.1%)と「どちらかという活用すべき」(31.8%)を合わせた『活用すべき』(64.9%)が6割半ばとなっている。一方、「どちらかという活用すべきではない」(1.7%)と「活用すべきではない」(1.3%)を合わせた『活用すべきではない』(3.0%)はわずかとなっている。(図1-18-1)

図1-18-2 区がSNSを活用して情報発信を行うこと—過年度比較

n	活用すべき		活用すべきではない		わからない	無回答	活用すべき(計)	活用すべきではない(計)
	積極的に活用すべき	どちらかという活用すべき	どちらかという活用すべきではない	活用すべきではない				
令和5年度 (1,114)	33.1	31.8	1.7	1.3	25.4	6.7	64.9	3.0
令和4年度 (1,115)	35.5	26.9	1.6	0.9	23.5	11.7	62.2	2.5
令和3年度 (1,188)	38.0	27.5	1.4	1.3	24.2	7.7	65.5	2.7

過去の調査と比較すると、『活用すべき』は前回調査(令和4年度)より2.7ポイント増加している。(図1-18-2)

図1-18-3 区がSNSを活用して情報発信を行うこと—性別／性・年齢別



性別にみると、大きな差異はみられない。

性・年齢別にみると、『活用すべき』は女性30～39歳で9割を超えており、男性18～29歳で9割と多くなっている。(図1-18-3)

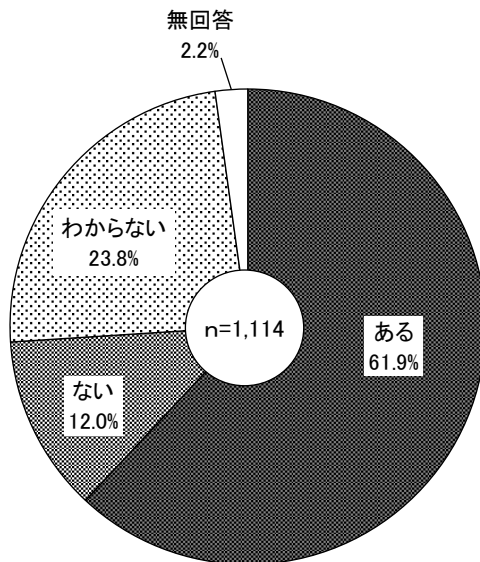
(19) 『わたしの便利帳』の所有状況

◇「ある」が6割を超える

問22 現在、あなたのご自宅に『わたしの便利帳』はありますか。(○は1つ)

※『わたしの便利帳』は、令和元年に全戸配布を行いました。
また、練馬区内にお引越された方へ、転入手続きの際にお渡ししています。

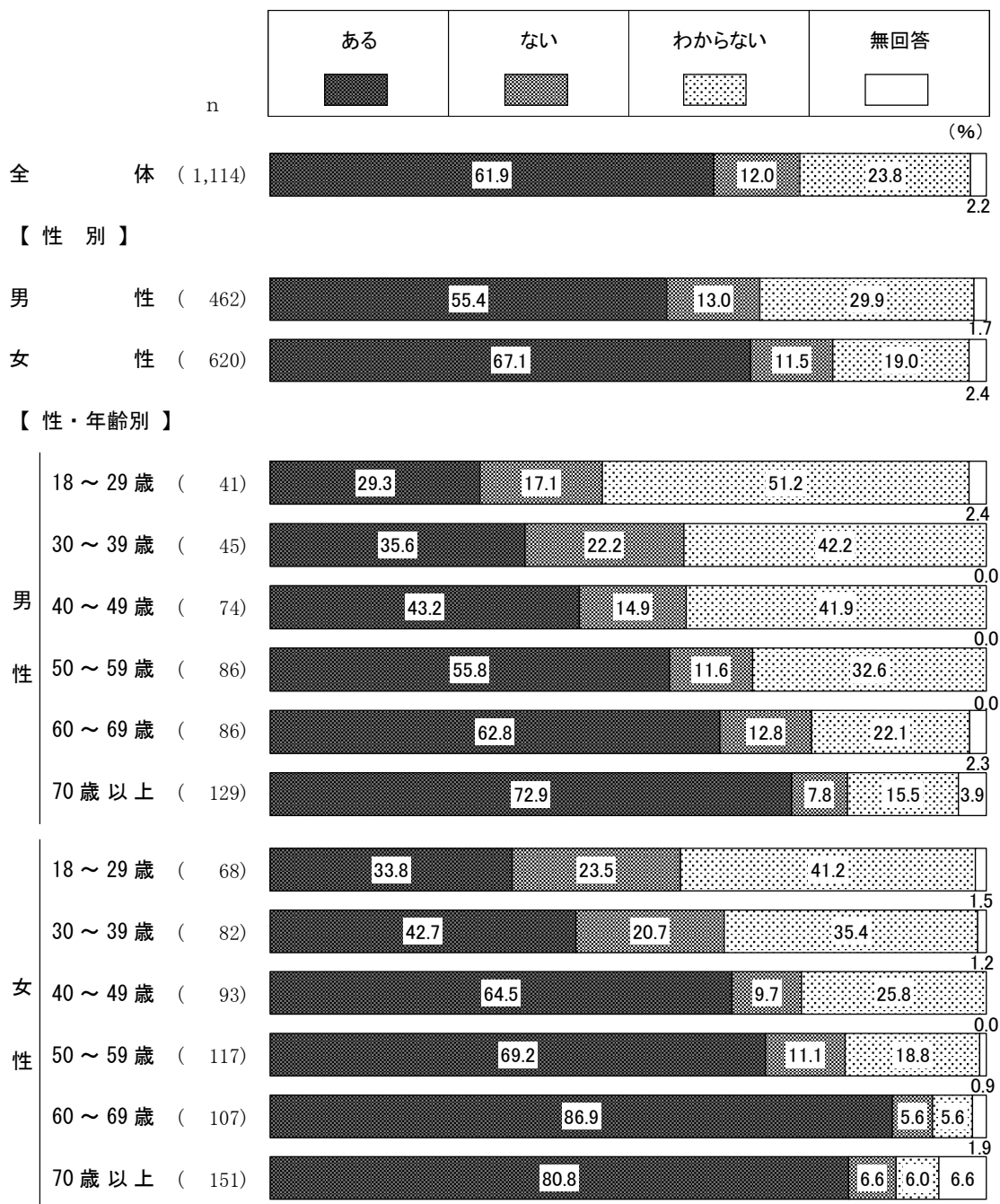
図1-19-1 『わたしの便利帳』の所有状況



『わたしの便利帳』の所有状況を聞いたところ、「ある」(61.9%)が6割を超え最も多く、次いで「わからない」(23.8%)、「ない」(12.0%)の順となっている。

(図1-19-1)

図 1-19-2 『わたしの便利帳』の所有状況—性別／性・年齢別



性別にみると、「ある」は女性の方が男性より11.7ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「ある」は男女ともにおおむね年代が上がるほど割合が多くなっており、女性60～69歳で9割近くと多くなっている。一方、「ない」は男性30～39歳、女性18～29歳で2割を超えて多くなっている。(図1-19-2)

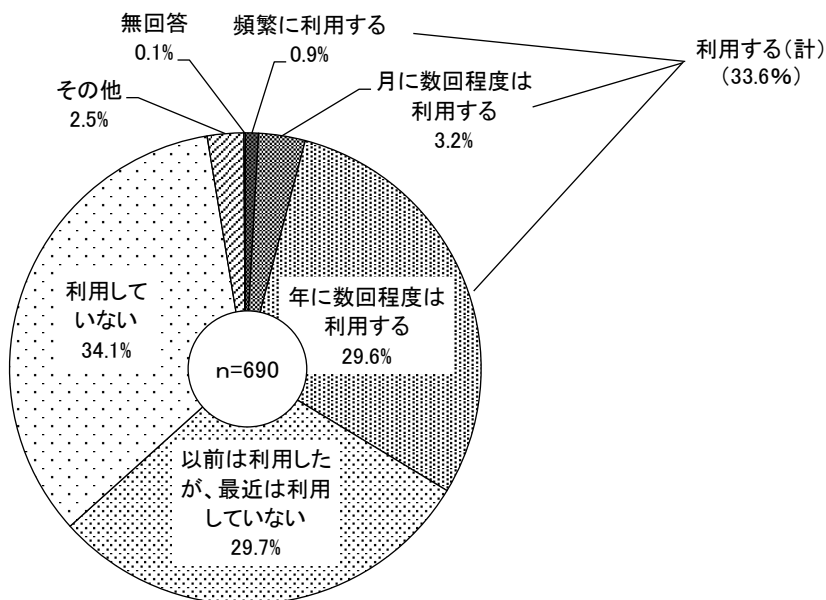
(19-1) 『わたしの便利帳』の利用頻度

◇『利用する』が3割を超える

【問22で「1 ある」と答えた方へ】

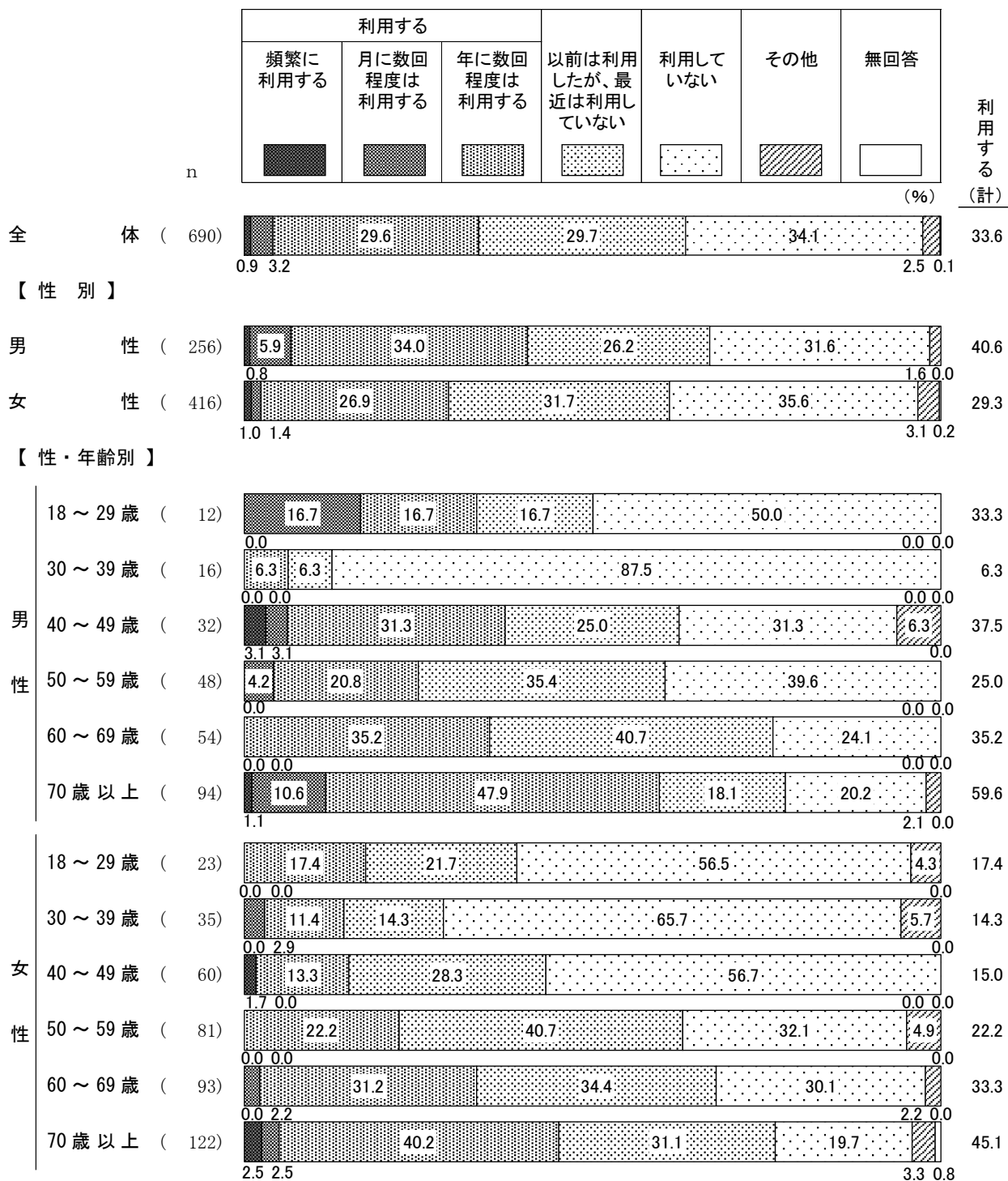
問22-1 『わたしの便利帳』の利用頻度について、あてはまるものをお選びください。(〇は1つ)

図1-19-3 『わたしの便利帳』の利用頻度



自宅に『わたしの便利帳』が「ある」と答えた方(690人)に、便利帳の利用頻度を聞いたところ、「頻繁に利用する」(0.9%)、「月に数回程度は利用する」(3.2%)、「年に数回程度は利用する」(29.6%)の3つを合わせた『利用する』(33.6%)が3割を超えている。一方、「以前は利用したが、最近は利用していない」(29.7%)が3割、「利用していない」(34.1%)は3割半ばとなっている。(図1-19-3)

図1-19-4 『わたしの便利帳』の利用頻度—性別／性・年齢別



性別にみると、『利用する』は男性の方が女性より11.3ポイント高くなっている。

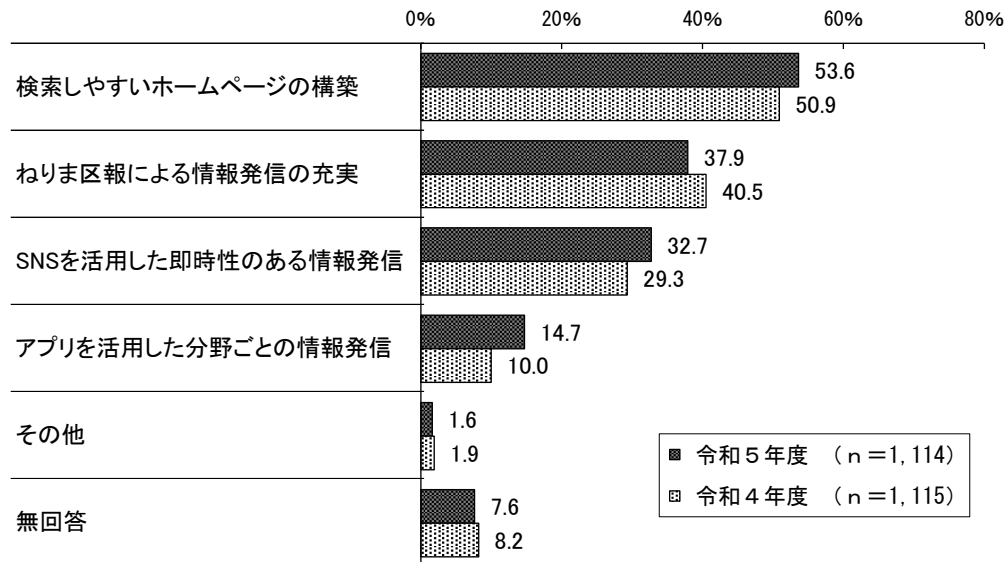
性・年齢別にみると、『利用する』は男性70歳以上で6割と多くなっている。一方、「利用していない」は女性30～39歳で6割半ばと多くなっている。(図1-19-4)

(20) 今後の情報発信のあり方について、区が力を入れていくべきこと

◇「検索しやすいホームページの構築」が5割を超える

問23 今後の情報発信のあり方について、区が力を入れていくべきことは次のうち何だと思えますか。（○は2つまで）

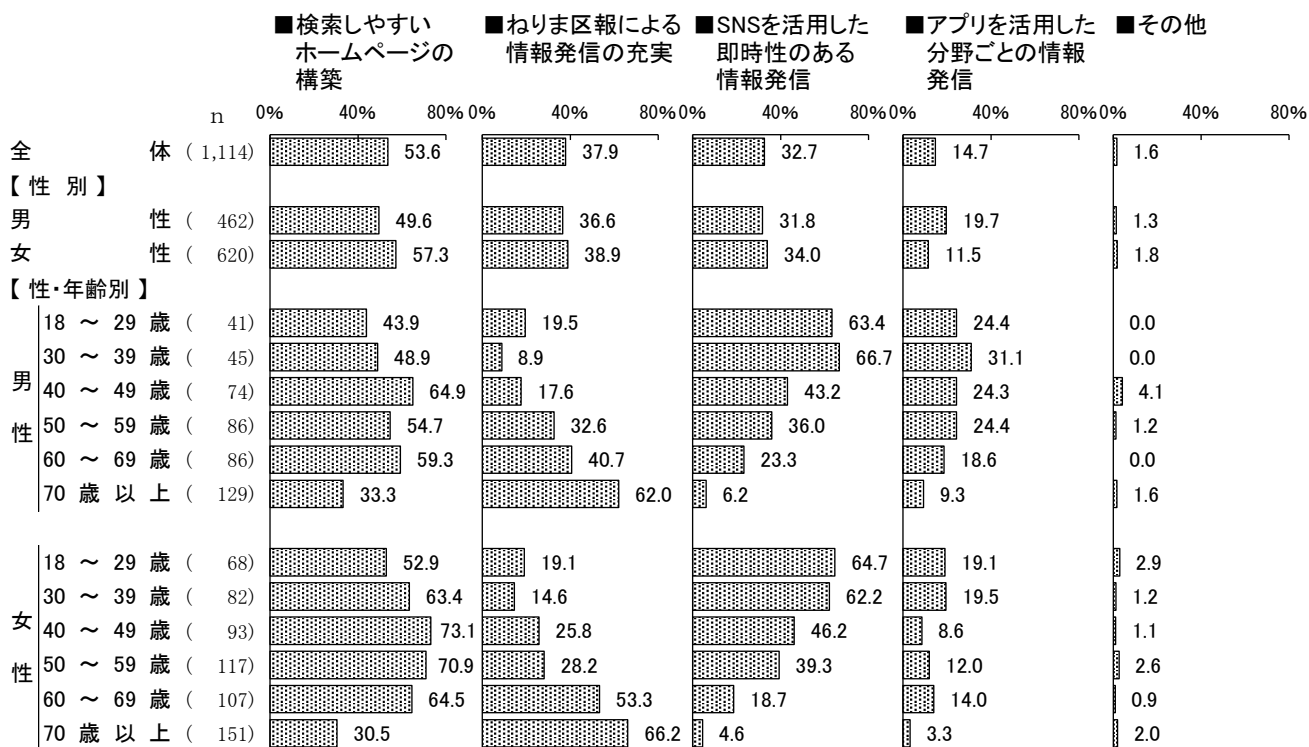
図1-20-1 今後の情報発信のあり方について、区が力を入れていくべきこと



今後の情報発信のあり方について、区が力を入れていくべきことについて聞いたところ、「検索しやすいホームページの構築」（53.6%）が5割を超えて最も多く、次いで「ねりま区報による情報発信の充実」（37.9%）、「SNSを活用した即時性のある情報発信」（32.7%）、「アプリを活用した分野ごとの情報発信」（14.7%）などの順となっている。

過去の調査（令和4年度）と比較すると、「アプリを活用した分野ごとの情報発信」は4.7ポイント、「SNSを活用した即時性のある情報発信」は3.4ポイント、「検索しやすいホームページの構築」は2.7ポイント、それぞれ増加している。（図1-20-1）

図 1-20-2 今後の情報発信のあり方について、区が力を入れていくべきこと—性別／性・年齢別



性別にみると、「アプリを活用した分野ごとの情報発信」は男性の方が女性より8.2ポイント多くなっている。一方、「検索しやすいホームページの構築」は女性の方が男性より7.7ポイント多くなっている。

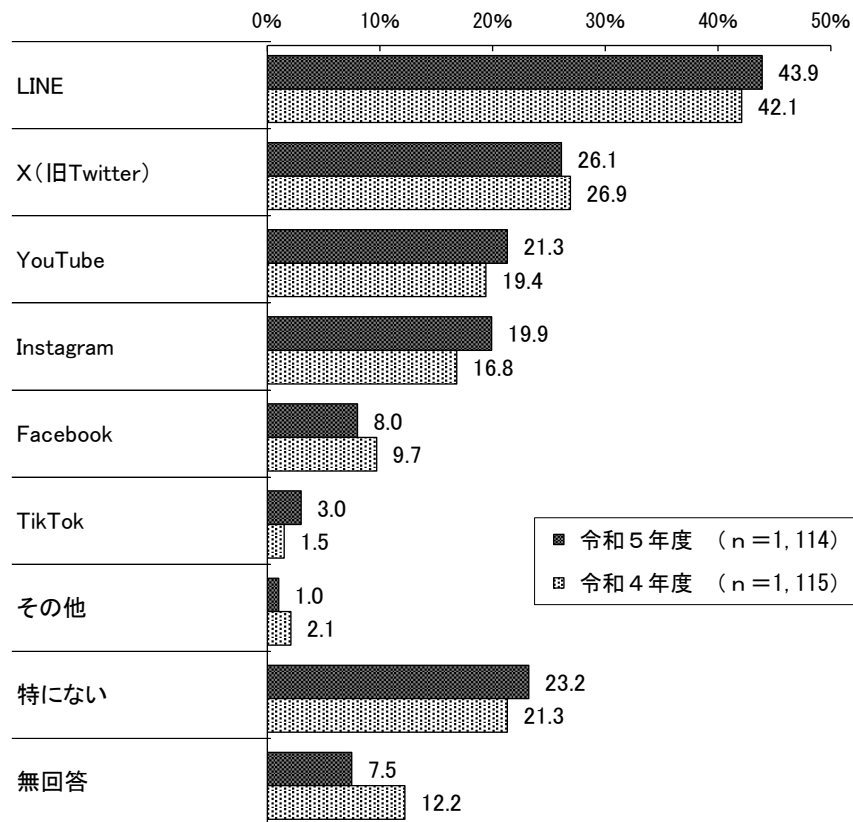
性・年齢別にみると、「検索しやすいホームページの構築」は女性40～49歳で7割を超えて多くなっている。「ねりま区報による情報発信の充実」は女性70歳以上で6割半ばと多くなっている。また、「SNSを活用した即時性のある情報発信」は、おおむね年代が下がるほど割合が多くなっており、男性30～39歳で7割近くと多くなっている。（図1-20-2）

(21) 区政情報入手の際に利用したいSNS等のサービス

◇ 「LINE」が4割を超えている

問24 区は、今後、SNS等による情報発信を強化しようと考えています。
あなたが区政情報入手の際、利用したいSNS等のサービスは次のうち何
ですか。(〇はいくつでも)

図1-21-1 区政情報入手の際に利用したいSNS等のサービス

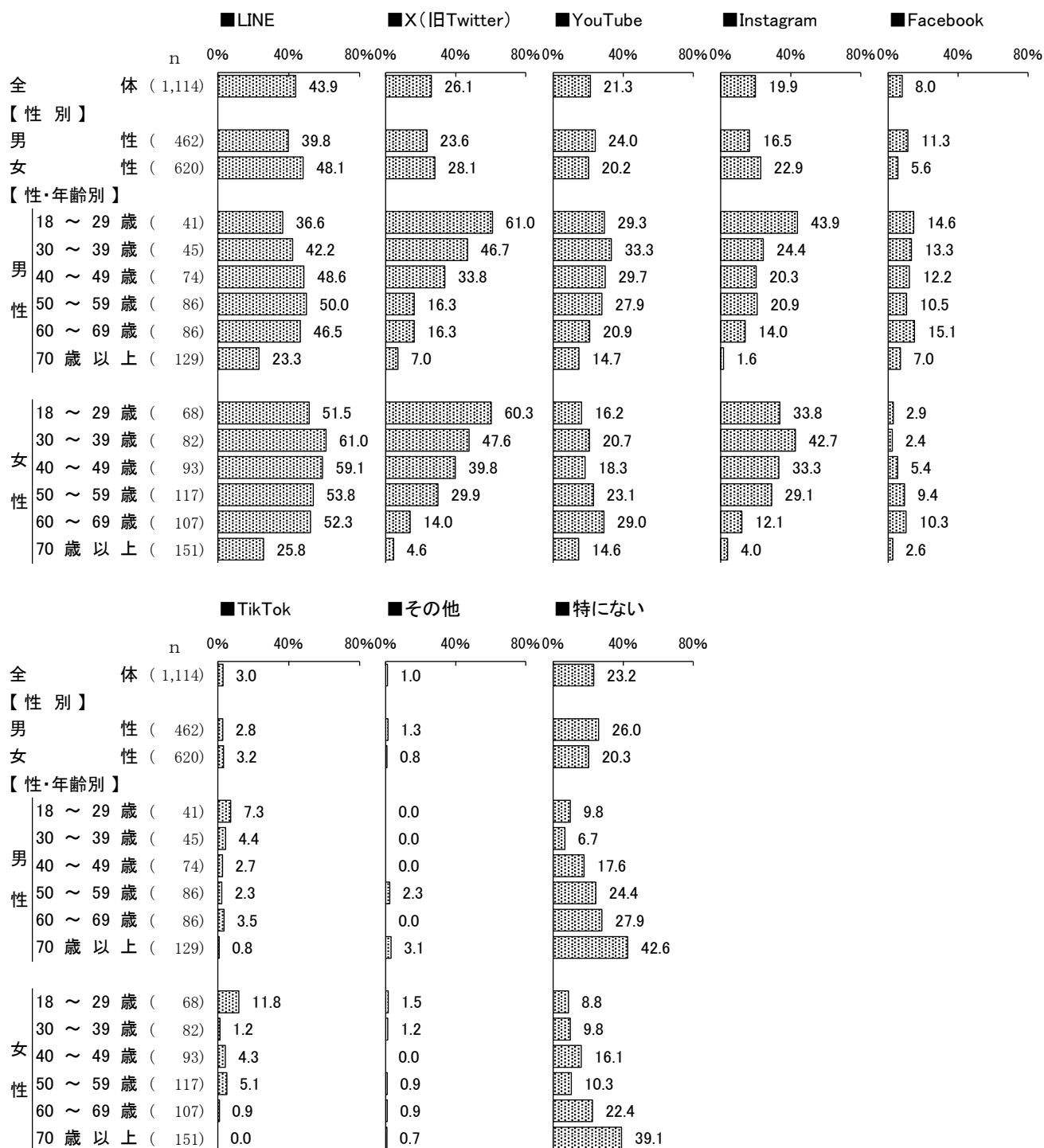


区政情報入手の際に利用したいSNS等について聞いたところ、「LINE」(43.9%)が4割を超えて最も多く、次いで「X(旧Twitter)」(26.1%)、「YouTube」(21.3%)、「Instagram」(19.9%)などの順となっている。

過去の調査(令和4年度)と比較すると、「Instagram」は3.1ポイント増加している。

(図1-21-1)

図1-21-2 区政情報入手の際に利用したいSNS等のサービス—性別／性・年齢別



性別にみると、「LINE」は女性の方が男性より8.3ポイント、「Instagram」は6.4ポイント、「X（旧Twitter）」は4.5ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「Facebook」は男性の方が女性より5.7ポイント、「YouTube」は3.8ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別にみると、「LINE」は女性30～39歳で6割を超えて多くなっている。「X（旧Twitter）」は男性18～29歳で6割を超え、女性18～29歳で6割と多くなっている。

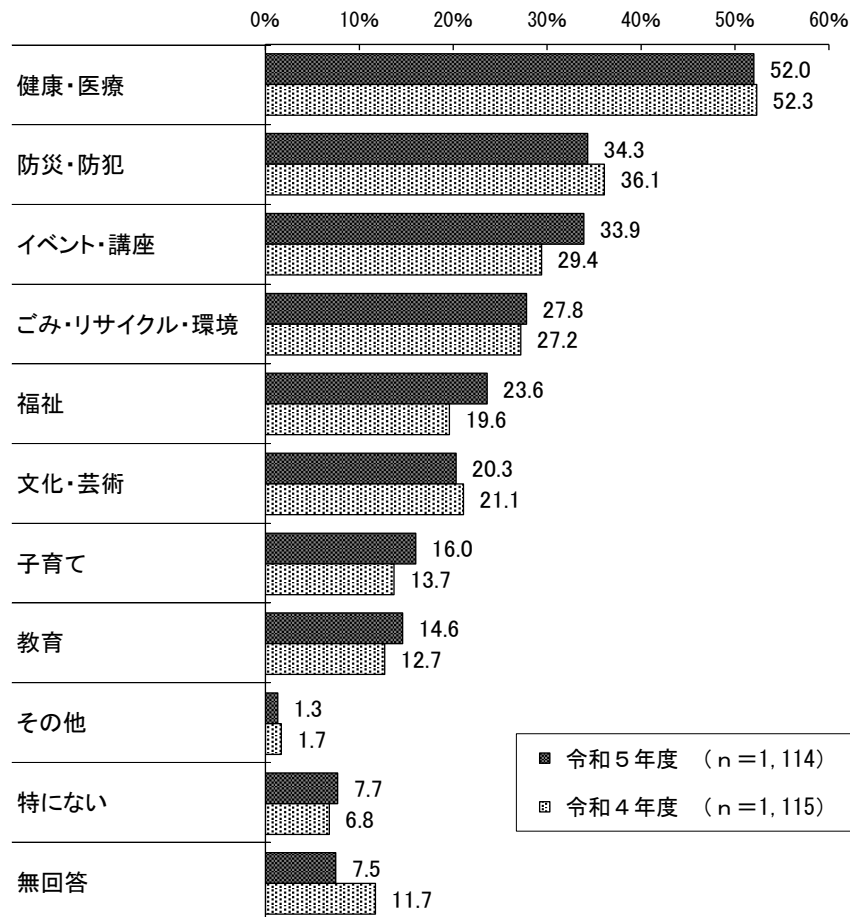
(図1-21-2)

(22) SNS等で区から受け取りたい情報

◇「健康・医療」が5割を超える

問25 区がSNS等を使用して情報発信をする場合、あなたが受け取りたいと思う情報は何か。(〇は3つまで)

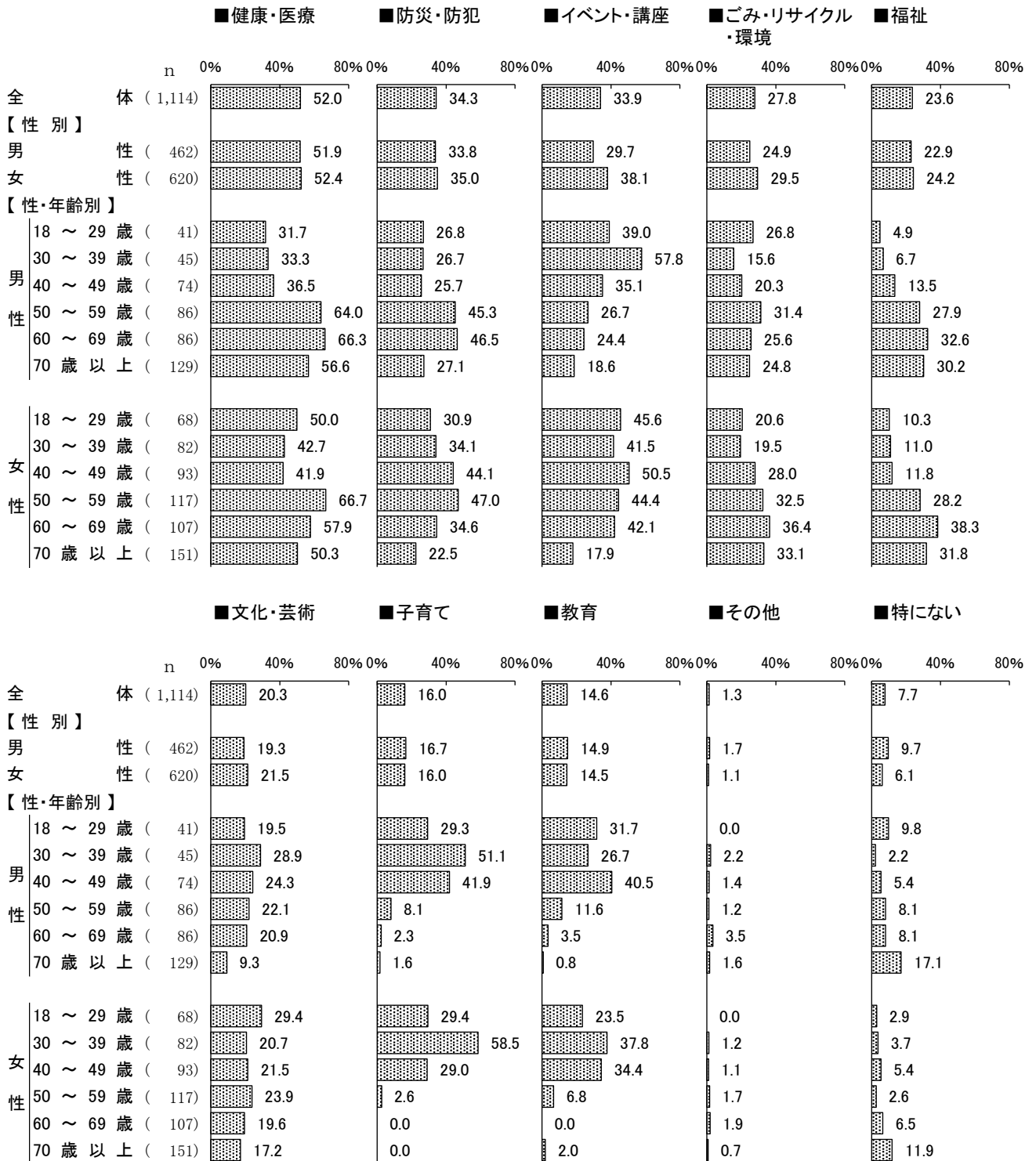
図1-22-1 SNS等で区から受け取りたい情報



SNS等で区から受け取りたい情報について聞いたところ、「健康・医療」(52.0%)が5割を超えて最も多く、次いで「防災・防犯」(34.3%)、「イベント・講座」(33.9%)、「ごみ、リサイクル・環境」(27.8%)などの順となっている。

過去の調査(令和4年度)と比較すると、「イベント・講座」は4.5ポイント、「福祉」は4.0ポイント、それぞれ高くなっている。(図1-22-1)

図1-22-2 SNS等で区から受け取りたい情報－性別／性・年齢別



性別にみると、「イベント・講座」は女性の方が男性より8.4ポイント、「ごみ・リサイクル・環境」は4.6ポイント、それぞれ高くなっている。

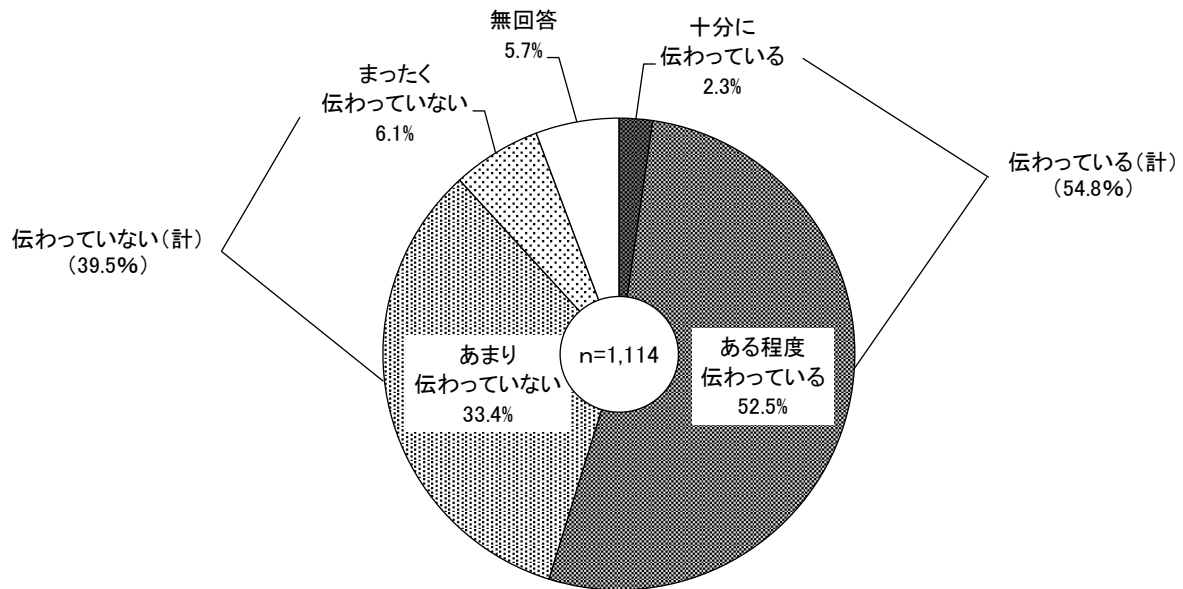
性・年齢別にみると、「健康・医療」は女性50～59歳で7割近くと多くなっている。「防災・防犯」は男性60～69歳、女性50～59歳で5割近くと多くなっている。また、「イベント・講座」は男性30～39歳で6割近くと多くなっている。(図1-22-2)

(23) 知りたい区政情報がどの程度伝わっているか

◇『伝わっている』が5割半ば

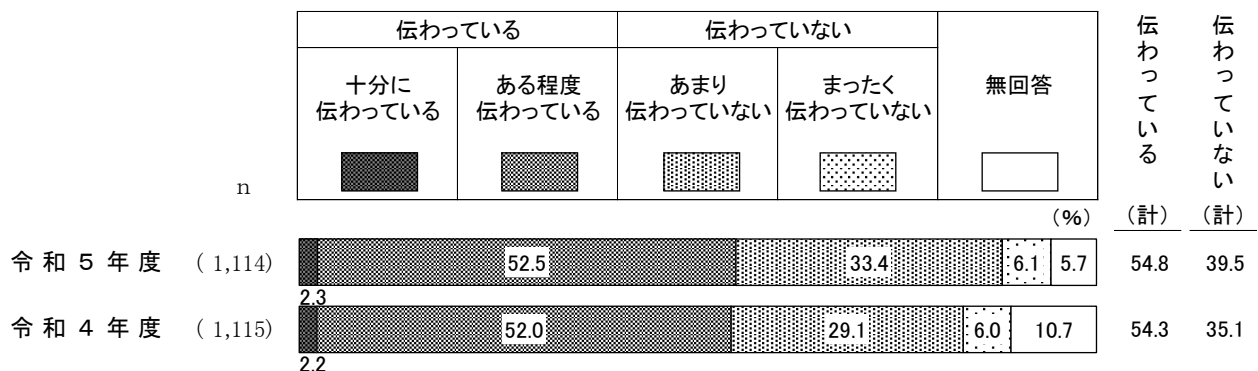
問26 あなたが知りたい区政の情報は、あなたにどの程度伝わっていますか。
(○は1つ)

図1-23-1 知りたい区政情報がどの程度伝わっているか



知りたい区政情報がどの程度伝わっているか聞いたところ、「十分に伝わっている」(2.3%)と「ある程度伝わっている」(52.5%)を合わせた、知りたい区政情報が『伝わっている』(54.8%)が5割半ばとなっている。一方、「あまり伝わっていない」(33.4%)と「まったく伝わっていない」(6.1%)を合わせた、知りたい区政情報が『伝わっていない』(39.5%)は4割となっている。(図1-23-1)

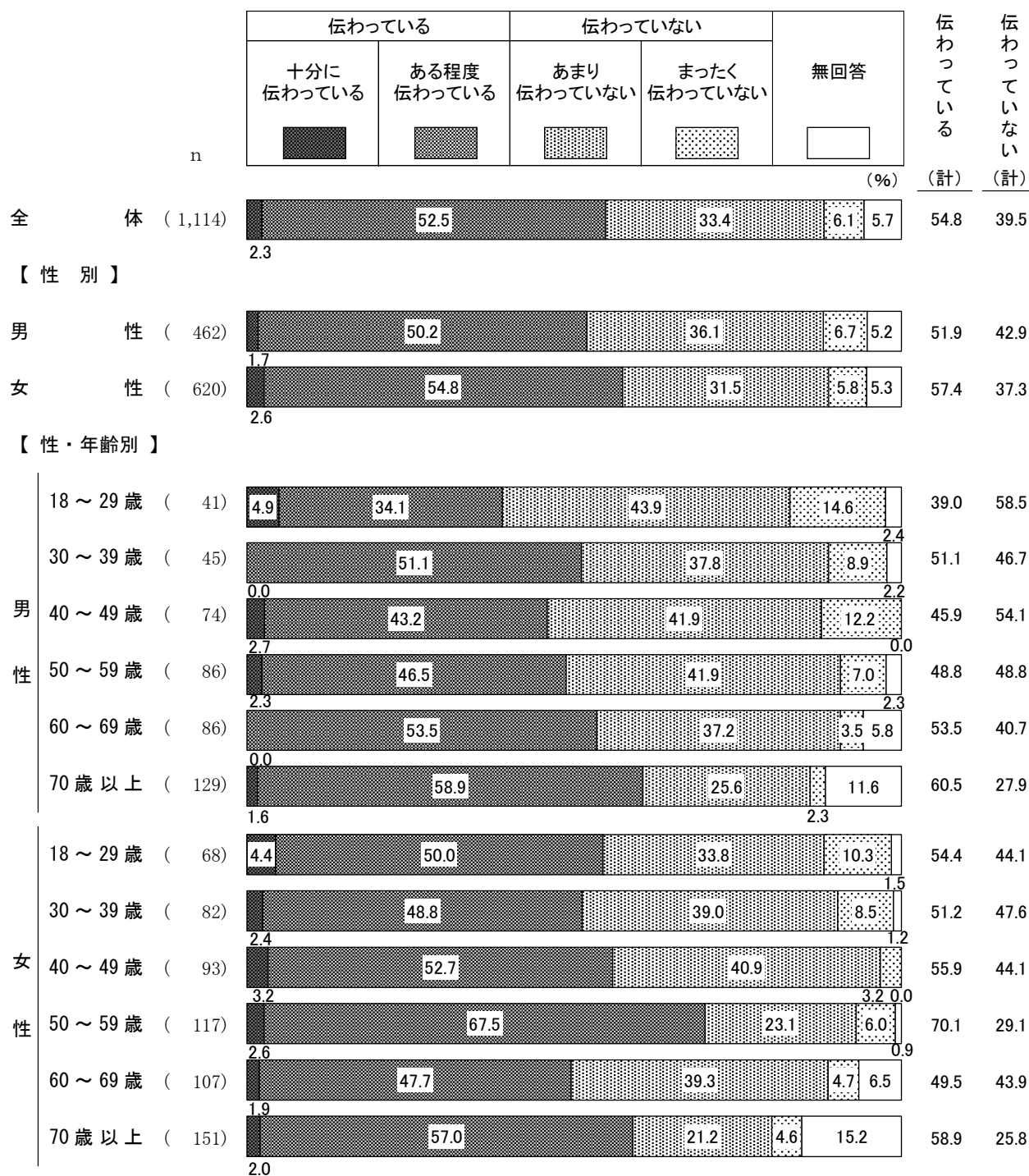
図1-23-2 知りたい区政情報がどの程度伝わっているか—過年度比較



過去の調査(令和4年度)と比較すると、『伝わっている』は大きな変化はみられない。

(図1-23-2)

図 1-23-3 知りたい区政情報がどの程度伝わっているか—性別／性・年齢別



性別にみると、『伝わっている』は女性の方が男性より5.5ポイント高くなっている。

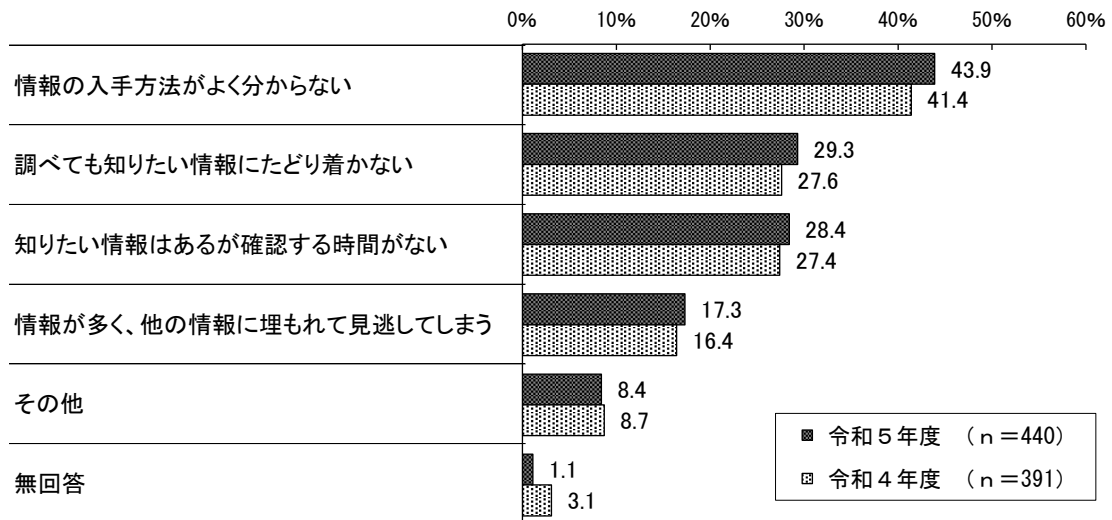
性・年齢別にみると、『伝わっている』は女性50～59歳で7割と多くなっている。一方、『伝わっていない』は男性18～29歳で6割近くと多くなっている。(図1-23-3)

(24) 区政情報が伝わっていないと思う主な理由

◇「情報の入手方法がよく分からない」が4割を超える

【問26で「3 あまり伝わっていない」または「4 全く伝わっていない」と答えた方へ】
問26-1 区政の情報が伝わっていないと思う主な理由は何ですか。(〇は2つまで)

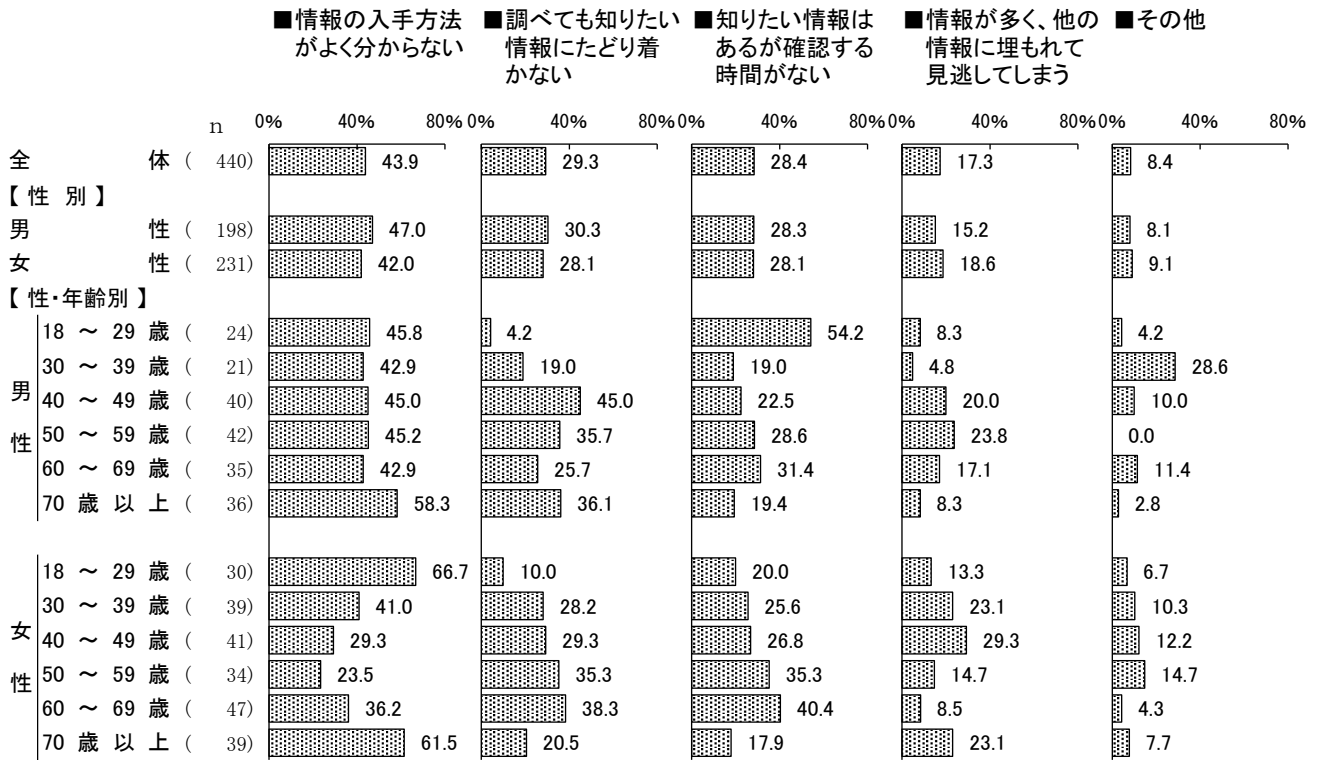
図1-24-1 区政情報が伝わっていないと思う主な理由



知りたい区政情報が「あまり伝わっていない」または「まったく伝わっていない」と答えた方(440人)に、伝わっていないと思う主な理由について聞いたところ、「情報の入手方法がよく分からない」(43.9%)が4割を超えて最も多く、次いで「調べても知りたい情報にたどり着かない」(29.3%)、「知りたい情報があるが確認する時間がない」(28.4%)、「情報が多く、他の情報に埋もれて見逃してしまう」(17.3%)などの順となっている。

過去の調査(令和4年度)と比較すると、「情報の入手方法がよく分からない」は2.5ポイント増加している。(図1-24-1)

図1-24-2 区政情報が伝わっていないと思う主な理由—性別／性・年齢別



性別にみると、「情報の入手方法がよく分からない」は男性の方が女性より5.0ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「情報の入手方法がよく分からない」は女性18～29歳で7割近くと多くなっている。「調べても知りたい情報にたどり着かない」は男性40～49歳で4割半ばと多くなっている。(図1-24-2)